

「暫定版」における注意事項

「生物多様性保全利用指針 OKINAWA」は、令和 3 年度までに「沖縄島編」、「八重山編」、「宮古・久米島編」、「沖縄島周辺離島編」の 4 編の作成を予定しており、現在、各編について順次情報収集、調査、解析を進めているところである。このたび一連の作業が完了した八重山編について、県民の皆さまにいち早くお届けするために【暫定版】を公開する。

暫定公開である理由は、本指針の中核である生物多様性の解析評価手法の特性上、各島毎の解析ではなく、本県全体での解析を行う必要があるためである。また、事業期間中に追加されたデータを加えることで、より解析精度を高めることが想定されている。このような事業デザインのため、今回の八重山編【暫定版】に掲載された情報は暫定的なものであり、今後宮古・久米島等の情報が加わることで最終版策定まで毎年更新される。

本指針【暫定版】については、上記の事項についてご理解いただき、本県全体の解析が完了し、最終版（令和 3 年度末を予定）が策定されるまでは、引き続き「自然環境の保全に関する指針」（沖縄県 1998～2000）を参照いただきたい。

第4章

参考資料

1. 生物多様性保全利用指針検討委員会名簿（令和2年3月現在）

（50音順）

氏名（敬称略）	所属・役職	備考
久保田 康裕	琉球大学理学部 教授	
当山 昌直	沖縄国際大学南島文化研究所 特別研究員	
藤田 喜久	沖縄県立芸術大学全学教育センター 准教授	
宮城 邦治	沖縄国際大学 名誉教授	委員長
盛口 満	沖縄大学人文学部 教授	

2. 委員会における検討過程

平成28年11月28日	平成28年度第1回検討委員会開催
平成29年3月23日	平成28年度第2回検討委員会開催
平成29年11月22日	平成29年度第1回検討委員会開催
平成30年3月12日	平成29年度第2回検討委員会開催
平成30年7月3日	生物文化に関する第1回WG（ワーキンググループ）開催
平成30年7月19日	解析に関する第1回WG開催
平成30年10月1日	生物文化に関する第2回WG開催
平成30年10月4日	解析に関する第2回WG開催
平成30年12月18日	平成30年度第1回検討委員会開催
平成31年3月12日	平成30年度第2回検討委員会開催
令和元年7月31日	平成31年度第1回検討委員会開催
令和2年3月4日	平成31年度第2回検討委員会開催

3. 生物多様性保全利用指針に関するホームページについて

生物多様性保全利用指針の内容については、下記ホームページにて公表している。ホームページ上では、本指針以外にも、本指針の普及を目的に本県に生息する生物の画像や自然環境に関する映像等の掲載を行っている。

オキナワイキモノラボ <<http://www.biodiversity.okinawa/>>

English

はじめに

生物多様性
保全利用指針
OKINAWA

映像で見る
沖縄の生き物

オキナワイキモノ ラボへようこそ！
このサイトでは生物多様性の宝庫である
沖縄の自然環境についてご紹介します

TOP

当サイトをご閲覧いただき誠にありがとうございます。

2020/01/17
「映像で見る沖縄の生き物」ダイトウオオコウモリ・ツダリノフシ・ニライカナイイゴウ・ミノミキスタアゲマキのページを追加しました。

2019/11/19
「映像で見る沖縄の生き物」ギャラリーに西表島の自然 - 崎山湾・網助湾の動画を追加しました。

2019/10/04
「沖縄の干潟と海草藻場の貝類展」を開催しました！

2019/09/30
「生物多様性おきなわブランド発信事業シンポジウム」を開催しました。

過去のニュース一覧へ

アンケートにご協力下さい！

お問い合わせ ●生物多様性保全利用指針OKINAWA ●利用規約 (指針データ) ●利用規約 (映像データ) お問い合わせ
TEL: 098-866-2243
MAIL: info@biodiversity.okinawa

4. 用語集

本指針に関連する用語を以下に解説した。かっこ内は用語が使われている章を示す。

なお、作成にあたっては、書籍、論文、報告書、官公庁のウェブサイト（沖縄県、環境省、国土地理院等）、環境用語に詳しいウェブサイト（EIC ネット）、各種団体のウェブサイト等を参考にした。これらの情報源は 5. 参考文献に掲載した。各説明文末尾の^[数字]は参考文献番号を示す。

あ行

アンブレラ種（第 2 章 - 1）

地域の食物連鎖のピラミッドの最高位に位置する消費者のこと。アンブレラ種を保全することで、その生息に必要な他の種も保全することができる。例として、西表島におけるイリオモテヤマネコなど。^[1]

維管束植物（第 2 章 - 1）

維管束と呼ばれる通道組織を有する植物の総称。被子植物、裸子植物、シダ植物が含まれ、コケ植物などは含まれない。^[1]

インフォーマント（第 2 章 - 2）

研究対象となる社会、文化の一員であり、調査者が知りたい事柄に精通し、概念、言語、世界観、具体的事例などに関して口述で詳細な表現ができる情報提供者のこと。本指針作成にあたっては、生物文化の聞き取り対象として、地域に長年住み、生物の方言や活用法に詳しい年配の方を主なインフォーマントとした。^[2]

インベントリー調査（第 2 章 - 1）

インベントリーとは生物学においては、地域に分布する動植物の種の目録や分布図などのこと。このような目録を作成するための調査がインベントリー調査であり、目視や採捕等によって生物の存在を確認し、文献資料と比較して特定の種であることを同定した上で出現種の一覧を作成する。^[1]

エントロピー最大化法（第 2 章 - 1）

必要な全ての情報が揃っていない場合に、観測や測定などで値が確定している部分を拘束条件として、全ての情報を統計学的に推定する際の手法のひとつ。すでに得ている制限条件を満たしつつ得ていない情報は最も確率が高いと考えられる推定値を選ぶ。本指針作成にあたっては、生物調査等による生息データから生息域を推定する際に使われている。^[3]

沖縄 21 世紀ビジョン（第 1 章）

平成 22 年に策定された県政の基本構想のこと。県民の参画と協働のもとに、将来（概ね 2030 年）のあるべき沖縄の姿を描き、その実現に向けた取り組みの方向性と、県民や行政の役割などを明らかにした。自然環境保全に関しては、めざすべき将来像のひとつとして「沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切に作る島」があり、「沖縄グリーン・イニシアティブ」として自然環境の持続的な利活用の推進が示されている。^[4]

沖縄県環境管理計画（第 1 章）

沖縄県における環境問題と、それを解決するための総合的な施策が示された計画のこと。平成 5 年に策定された。本指針の前身である「自然環境の保全に関する指針」は、同計画における自然環境を保全する施策のひとつと位置づけられている。^[5]

沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）（第 1 章、第 2 章-4,5）

沖縄県内を対象とした、絶滅のおそれのある動植物種の生育・生息状況等を明らかにした資料のこと。環境省や国際自然保護連合（IUCN）が作成した継続的な調査研究データを参考に、地域性の視点から独自の規準を交えて作成している。1996 年に初版、2005～2006 年に改訂第 2 版、2017～2018 年に改訂第 3 版が公表された。第 3 版では動物 991 種、植物 938 種、菌類 85 種が掲載されており、危機の状況や情報量によって 8 つのカテゴリーに分類されている。^[6]

か行

海域区分（第 1 章、第 2 章-1、第 2 章-5、第 3 章）

海域を何らかの目的、条件によって区切ったそれぞれのこと。本指針においては、前指針である「自然環境の保全に関する指針」における海域区分及びサンゴ礁資源情報整備事業（沖縄県環境生活部自然保護課、平成 21～23 年度）における海域区分を参考に、一部修正を加えたものを環境カルテ（海域）の作成単位とした。サンゴ礁自然情報整備事業における海域区分は、岬、水路、礁原（礁嶺）などの地形が半閉鎖的な系を形成していることに注目し、それらを一つの生態学的な単位として捉えたものであり、陸域の流域に相当する。本指針の海域区分も基本的に同様の考え方に基づいて設定した。^[7]

外来種（第 2 章-1）

何らかの人の活動によって、本来の生息地域の外にもたらされた生物種のこと。本来生息していた生きもの（在来種）にとって脅威となる場合は侵略的外来種と呼ばれる。沖縄県における侵略的外来種として、ネズミやハブの駆除を目的として導入されたマングース（ファイリマンングース）が有名である。一方で、米（イネ）や多くの野菜、家畜なども元をたどれば外来種であり、社会的、文化的に定着している場合も多い。^[8]

河床勾配（第 2 章-4）

川の流れる方向の川底の傾きのこと。山間部では急になり、平野部では穏やかになる。^[9]

国内希少野生動植物種（第 3 章）

国内に生息・生育する絶滅危惧種のうち、特に人為的な影響で数が減っており、種の保存法で指定された種のこと。平成 31 年 2 月現在、293 種が指定されている。沖縄県に生息する種では、ヤンバルクイナ、イリオモテヤマネコ、イボイモリ、ヤンバルテナガコガネ、ヒメタニワタリなどが指定されている。^[10]

固有種（第 1 章、第 2 章-1）

分布が特定の地域に限定される種や亜種のこと。この場合、特定の地域には、国レベル、都道府県レベル、地域レベルなどさまざまなとらえ方がある。たとえば、ヤンバルクイナは、日本の固有種であるだけでなく、沖縄県沖縄島、やんばる地域の固有種である。^[11]

さ行

在来種（第 2 章-1）

本来の地域に自然分布していた種のこと。^[12]

サロゲート（第 2 章 - 1）

ある地域の生物多様性を代替的に表す指標のこと。生態系の基盤分類群、分布情報が豊富な生物分類群、保全上重要な分類群が一般的に用いられる。本指針においては、陸域の 10 分類群、海域の 6 分類群をサロゲートとした。^[13]

ジオコーディング（第 2 章 - 1）

住所や場所の名前といった位置を表す情報を、緯度経度情報に変換する処理のこと。この処理を行うことで、GIS（地理情報システム）上で位置の検索や分析等が可能になる。^[14]

シノニム（第 2 章 - 1）

同じ種に付けられた複数の学名（標準学名）のこと。シノニムのうち、最も古い学名が有効だという原則がある（先取権）。ある種について有効な学名は 1 つだけなのにも関わらずシノニムが生まれる過程としては、すでに新種記載されているのを知らずに改めて記載してしまった場合や、分類体系の見直しで属名が変更された場合などがある。

象徴種（第 2 章 - 1）

特徴的な容姿や馴染み深さなどから、地域の象徴となって人々の環境保全・保護の関心を高めることが期待される種のこと。

生態系サービス（第 1 章）

人々が生態系から得られる恵みのこと。2000 年代初めに UNEP（国連環境計画）が行った「ミレニアム生態系評価」では、供給サービス（食料や水、原材料など）、調整サービス（自然災害の緩和、水質浄化など）、文化的サービス（レクリエーションや観光など）、基盤サービス（土壌、酸素、栄養分など）の 4 つに分類される。^[15]

生物多様性（第 1 章）

生物が長い歴史の中で獲得した、様々な姿形や生活様式といった生物間の違いのこと。遺伝的多様性、種の多様性、生態系の多様性という 3 つのレベルで捉えられる。遺伝的多様性とは、種が同じでも持っている遺伝子がことなることを指す。種の多様性とは、様々な生物種が存在する状態を指す。生態系の多様性は、様々な生物の相互作用から構成される様々な生態系が存在することを指す。^[1]

生物多様性おきなわ戦略（第 1 章）

平成 25 年に策定された、沖縄の生物多様性の保全と持続可能な利用を図るための基本計画のこと。戦略では目標達成に向けた 5 つの基本施策（1.生物多様性の損失を止める、2.生物多様性を保全・維持し、回復する、3.自然からの恵みを賢明に利用する、4.生物多様性に対する認識を向上させる、5.生物多様性の保全に関する取組に県民参加を促す）を展開していくこととなっており、そのための行動計画、推進体制が示されている。^[16]

生物多様性条約（第 1 章、第 2 章 - 1）

生物多様性の保全と持続可能な利用、遺伝資源による利益の公正な配分を目的とした条約のこと。1992 年にブラジルのリオで開催された国連環境開発会議（地球サミット）において署名が開始され、1993 年に発効した。生物多様性の保全だけでなく、持続的な利用を明記していることが特徴である。2018 年現在、194 カ国が締結しており、日本は 1993 年に締結している。^[17]

生物多様性条約第 10 回締約国会議（CBD-COP10）（第 1 章）

生物多様性条約の 10 回目となる国際会議のこと。2010 年 10 月に名古屋市で開催され、2020 年を目標とした「愛知目標」を含む新戦略計画 2011－2020 が採択された。愛知目標は 20 項目からなり、数値目標を含む具体的なものである。例えば「少なくとも陸域 17%、海域 10% が保護地域などにより保全される」という目標があり、日本を含む各国の国家戦略に影響を与えている。^[17]

生物文化（第 2 章－2）

動植物とつながった文化のこと。地域毎に動植物に付けられた方言名や、動植物の利活用方法などが含まれる。本指針では、生物多様性と文化多様性のつながりとして生物文化を位置づけ、県内各地の生物文化について文献調査及び聞き取り調査を実施し、環境カルテに記載した。生物文化多様性につながる概念だが、本指針の生物文化は個別の生物の方言名と利用に注目している、特に野生生物に関連するものを重視して抽出しているなどの独自性がある。

生物文化多様性（第 2 章－2）

自然と人間（文化）が互いを活かしながら存在する相互作用関係に注目し、それを一体的に保全しようとする分野横断的な考え方のこと。ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）と生物多様性条約事務局によって生物多様性と文化多様性をつなぐ共同プログラムが発足し、生物多様性条約締結国第 10 回会議（CBD-COP10）で正式に位置づけられている。^[18]

絶滅危惧種（第 1 章、第 2 章－1）

様々な要因により個体数が減少し、絶滅のおそれがある種や亜種のこと。沖縄県内の絶滅危惧種は、「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生動物（レッドデータおきなわ）」にまとめられている。^[6]

全天日射量（第 2 章－1）

天空の全方向からの太陽放射（全天日射）を、水平面で受けた単位面積あたりの全天日射エネルギー量のこと。^[19]

た行

天然記念物（第 3 章）

学術上貴重で、わが国の自然を記念するものとして国や自治体に指定された動物、植物、地質・鉱物、それらに富む天然保護区域などのこと。平成 30 年現在、沖縄県内には国指定が 65 件、県指定が 52 件、市町村指定が 123 件ある。例として、カンムリワシ（国指定特別天然記念物）、クロイワトカゲモドキ（県指定天然記念物）、大浦のマングローブ林（名護市指定天然記念物）などがある。^[20]

は行

ハビタット（第 2 章－1）

ある生物の種が生息・生育する環境のこと。地形などの物理的な側面と、大きな木の陰などの生物的な側面によって特徴づけられる。

ビッグデータ（第 1 章）

これまでの単一データベースシステムで管理可能なデータではなく、様々な種類、形式が含まれた大量のデータのこと。情報通信技術（ICT）の進展により、このようなデータの生成・収集・蓄積等が容易に可能になってきており、自然環境保全においてもその活用事例が増えつつある。^[21]

標準学名 (第 2 章 - 1)

ラテン語で表した正式な生物の種名のこと。

保全利用協定 (沖縄県) (第 2 章 - 3)

エコツアーに関わる事業者が、利用する自然環境の保全と持続的な利用を目的として、自主的に策定する自主ルールのこと。その内容が適切なものであれば、沖縄県知事がこれを適当なものとして認定することができる。平成 30 年現在、8 地区の協定が認定を受けており、主な協定項目は自然環境への配慮、安全管理、地域への配慮である。^[22]

ま行

マングローブ (第 2 章 - 1)

熱帯、亜熱帯の汽水域の河口部などに生育する植物群の総称。マングローブを構成する植物種は、高塩分に対処する仕組みを持ち、湿地に適応した特徴的な根や種子を持つ。沖縄県内にはメヒルギ、オヒルギなど 7 種のマングローブ植物が生育する。^[1]

モニタリングサイト 1000 (第 3 章)

環境省生物多様性センターが実施している生態系の長期的なモニタリングのこと。日本全国の 1000 ヶ所程度での長期モニタリングによって、生態系や自然環境の変化、生物種の減少等の問題を早期に把握することを目的としている。「森林・草原」「里地」「沿岸・浅海域」など生態系ごとにサイトが設置されており、サンゴ礁のモニタリングも行われている。本指針の環境カルテ (海域) に掲載した写真の一部は、モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査で得られたものである。^[23]

ら行

ラプラシアン (第 2 章 - 1)

地形面の凹凸を表す指標として用いられる値。

レッドリスト (第 2 章 - 1,5)

専門家の検討により選定された、絶滅の恐れがある野生生物の種のリストのこと。国際的には国際自然保護連合 (IUCN) が作成しており、国内では環境省、水産庁のほか、地方公共団体や NPO などが作成している。^[24]

わ行

和名 (第 2 章 - 1)

生物につけられた日本名のこと。各地域で使っている地方名と日本全国で共通な標準和名がある。例えば、同じ魚について、ハマサキノオクサンは八重山地域での地方名であり、トガリエビスは標準和名である。^[25]

英数字

Bioclim (第 2 章 - 1)

生物の分布生息にとって重要と考えられる気候変数のこと。種分布モデルなどの生態学的モデルで使用されることが多い。毎月の気温と降水量を元に算出される 19 の変数がある。^[26]

Darwin core (第 2 章 - 1)

生物標本や観察結果など、生物多様性の情報を記録、共有するために用いられる国際的な形式のこと。Biodiversity Information Standards (TDWG) によって提案されている。^[27]

GIS (第 1 章)

Geographic Information System (地理情報システム) の略。地理的情報 (例 : GPS 受信機で取得した位置情報) を持ったデータを管理・加工したり、地図上に分かりやすく表示したり、高度な分析を行ったりできる。身近な例として、スマートフォンのナビゲーション機能も GIS の活用例である。本指針作成にあたっては、生物多様性の解析や環境カルテの作成に活用されている。^[28]

SPSS (第 2 章 - 4)

Content of Suspended Particles in Sea Sediment の略で、海底の底質に含まれる懸濁物質含量のこと。1970 年代の開発工事等によって沖縄の海には大量の赤土が流れこみ、沿岸海域の環境に大きな悪影響を与えた。SPSS 法はこのような赤土汚染の状況をモニタリングするために、1980 年代に沖縄県衛生環境研究所によって開発された。特別な器具や高度な分析を要しない簡便な手法であること、サンゴの健全な生息等の指標として使用できることなどから、県内沿岸域の環境調査において広範に用いられている。^[29]

3 次メッシュ (第 1 章、第 2 章 - 1)

日本全国を緯度経度でメッシュ (網目状) に区画したものを標準地域メッシュと呼び、各種統計の集計単位などとして活用されている。1 次メッシュ、2 次メッシュ、3 次メッシュの 3 段階に分けられる。3 次メッシュは 2 次メッシュ (およそ 10km×10km) を縦横に 10 等分したものであり、距離にしておよそ 1km×1km。ただし、各メッシュの東西方向の長さは緯度によって異なり、北海道と比較して沖縄では約 1.3 倍の長さである。本指針では、環境カルテ (陸域) を 3 次メッシュ単位で作成しており、生物多様性の情報等、多くのデータを 3 次メッシュ単位で整理している。^[30]

5. 参考文献

本指針での生物多様性の解析、生物文化の抽出等に関して情報源とした文献、データベース、ウェブサイト等を以下に示す。

(1) 生物多様性解析に関する引用文献

第2章－1及び第2章－5で解析手法を示した生物多様性解析について、引用文献を以下に示す。

1. 久保田康裕, 楠本聞太郎, 藤沼潤一, 塩野貴之. 2017. 生物多様性の保全科学:システム化保全計画の概念と手法の概要. 日本生態学会誌 67: 267-286.
2. 米倉浩司, 梶田忠. 2003. BG Plants 和名－学名インデックス (YList), <<http://ylist.info>>
3. 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 東京.
4. 日本爬虫両棲類学会. 2015. 日本産爬虫両生類標準和名.
<<http://zoo.zool.kyoto-u.ac.jp/herp/wamei.html>>
5. 中坊徹次 (編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
6. 西平守孝, Veron J. 1995. 日本の造礁サンゴ類. 海游舎, 東京.
7. 国土交通省. 2007. 国土交通省河川環境データベース(河川水辺の国勢調査)
<<http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/>>
8. JODC. 2013. <http://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/JODC_J-DOSS>
9. Wieczorek J., Bloom D., Guralnick FR., Blum S., Doring M., Giovanni R. Tim Robertson, David Vieglais 2012. Darwin Core: An Evolving Community-Developed Biodiversity Data Standard. PLoS ONE 7: e29715. doi:10.1371/journal.pone.0029715
10. 初島住彦, 天野鉄夫. 1994. 琉球植物目録. 沖縄生物学会.
11. 島袋敬一. 1997. 琉球列島維管束植物集覧. 九州大学出版会.
12. 阿部永, 石井信夫, 金子之史, 前出喜四雄, 三浦慎悟, 米田政明. 2005. 日本の哺乳類 (改訂版). 東海大学出版会, 東京.
13. 前之園唯史, 戸田守. 2007. 琉球列島における両生爬虫類の分布. Akamata 18: 28-46.
14. 吉郷英範, Motomura H., Dewa S., Furuta K., Matsuura K. 2014. 琉球列島産陸水性魚類相および文献目録. Fauna Ryukyuana 9: 1-153.
15. Hirao T., Kubota Y., Murakami M. 2015. Geographical patterns of butterfly species

- diversity in the subtropical Ryukyu Islands: the importance of a unidirectional filter between two source islands. *Journal of Biogeography* 42: 1418-1430.
16. McWhirter, D. W., 池長裕史, 五百沢日丸. 1996. 最近の生息状況と参考記録を含めた沖縄県産鳥類目録. *沖縄県立博物館紀要* 22: 33-152.
 17. 沖縄野鳥研究会. 2002. 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇.
 18. Moilanen A. 2007. Landscape Zonation, benefit functions and target-based planning: Unifying reserve selection strategies. *Biological Conservation* 134: 571-579.
 19. Lehtomäki J. & Moilanen A. 2013. Methods and workflow for spatial conservation prioritization using Zonation. *Environmental Modelling & Software*, 47: 128-137.
 20. Lehtomäki J., Kusumoto B., Shiono T., Tanaka T., Kubota Y., Moilanen A. 2018. Spatial conservation prioritization for the East Asian islands: A balanced representation of multitaxon biogeography in a protected area network. *Diversity and Distributions*.
 21. Kubota Y., Hirao T., Fujii S., Shiono T., Kusumoto B. 2014. Beta diversity of woody plants in the Japanese archipelago: the roles of geohistorical and ecological processes. *Journal of Biogeography* 41: 1267-1276.
 22. Kubota Y., Shiono T., Kusumoto B. 2015. Role of climate and geohistorical factors in driving plant richness patterns and endemism on the east Asian continental islands. *Ecography* 38: 639-648.
 23. Kubota Y., Kusumoto B., Shiono T., Tanaka T. 2017. Phylogenetic properties of Tertiary relict flora in the East Asian continental islands: imprint of climatic niche conservatism and in situ diversification. *Ecography* 40: 436-447.
 24. Kusumoto B., Shiono T., Konoshima M., Yoshimoto A., Tanaka T., Kubota Y. 2017. How well are biodiversity drivers reflected in protected areas? A representativeness assessment of the geohistorical gradients that shaped endemic flora in Japan. *Ecological Research* 32: 299-311.
 24. Ladle, R.J. & Whittaker, R.J. 2011. *Conservation Biogeography*. John Wiley & Sons, Ltd., Publication, Oxford.
 25. Hortal J., de Bello F., Diniz-Filho J.A.F., Lewinsohn T.M., Lobo J.M., Ladle R.J. 2015. Seven shortfalls that beset large-Scale knowledge of biodiversity. *Annual Review of Ecology, Evolution, and Systematics* 46:523-549.
 26. Millien-Parra, V. & Jaeger, J.J. 1999. Island biogeography of the Japanese terrestrial mammal assemblages: an example of a relict fauna. *Journal of Biogeography*, 26, 959-

972.

27. Mittermeier, R.A., Turner, W.R., Larsen, F.W., Brooks, T.M. & Gascon, C. 2011. Global biodiversity conservation: the critical role of hotspots. Biodiversity hotspots (ed. by F.E. Zachos & J.C. Habel). 3–22. Springer Berlin Heidelberg.
28. 久保田康裕, 楠本聞太郎, 藤沼潤一, 塩野貴之, 鈴木亮, 福島新, 小澤宏之, 宮良工. 2019. 生物多様性地域戦略を空間的保全優先度分析で具現化する: 沖縄県の生物多様性保全利用指針 OKINAWA 作成の事例. 日本生態学会誌 69: 239-250.

(2) 生物分布情報に関する参考文献等

第2章－1で解析手法を示した生物分類群の空間分布情報について、情報源を表4－5－1に示す。

表 4-5-1 (1). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生昆虫類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山	
(株)沖縄環境保全研究所. 2014. 石垣新川(河口)漁場環境調査業務報告書. 資料編2: 1-52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	318	76	328	13	0	○	○	
Global Biodiversity Information Facility	0	0	1,049	679	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	○	○	
2015. 一人一紙写真発表. 九州両生爬虫類研究会誌. 6: 54-59	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
環境省・モニタリングサイト 1000 プロジェクト	0	6,164	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
西表島生態系保護地域見直し調査	0	0	0	0	0	379	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
2011. 平成22年度沖縄県北部地域におけるウミカメ類の生息実態調査業務報告書: 59-69	0	0	0	30	0	410	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
2012. 平成23年度やんばる地域の亜熱帯原産樹林における林道バトロール検討業務報告書: 62-69	74	188	361	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
2013. 平成24年度やんばる地域における住民参加型の希少種等密猟・盗掘防止検討業務報告書: 17-28	28	756	609	112	0	0	0	0	28	7	0	0	0	7	0	○	○	
2012. 平成24年度夏期におけるやんばる地域の林道バトロール等業務報告書: 17-60	210	826	3,227	553	0	0	0	0	0	0	0	0	0	112	0	○	○	
2014. 平成25年度やんばる地域における希少種等密猟・盗掘防止のための林道バトロール業務報告書: 28-143	133	2,107	1,918	595	0	7	7	0	14	28	0	0	0	77	0	○	○	
2016. 平成27年度やんばる地域における希少種等密猟・盗掘防止のための林道バトロール業務報告書: 29-206	180	3,303	1,782	729	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
2017. 平成28年度石西徳湖サンゴ群集モニタリング調査等業務報告書: 52-57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	14	0	232	○	○	
名和文献干貝目録データ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2,728	0	0	0	○	○	
Akiho, Katsusuke Meguro. 2000. Review of the gobiid genus <i>Cristatogobius</i> found in Japan with description of a new species. Ichthyological Research. 47(3): 249-261	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	○	○	
Arie Y, Fujimoto T, Kouzuma T, Kobayashi M. 3.底生生物・魚類調査. Bulletin of Fukuoka Fisheries and Marine Technology Research Center: (3-1)-(3-5)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	0	○	○	
Ayako Shoji, Jun Yokoyama, Masakado Kawata. 2007. Molecular phylogeny and genetic divergence of the introduced populations of Japanese guppies, <i>Poecilia reticulata</i> . Conservation Genetics. 8: 261-271	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Douglass F. Hoese, Gerald R. Allen. 2011. A review of the amphidromous species of the <i>Glossogobius celebius</i> complex, with description of three new species. Cybium. 35(4): 269-284	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Fabienn Ziadi-Kunzuli and K. Tachihara. 2016. Female defence polygyny and plasticity in the mating system of the demersal triggerfish <i>Rhinecanthus aculeatus</i> (Pisces:Balistidae) from Okinawa Island. Marine Biology. 163: 27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○	○	
Fabienne Kunzli, Katsunori Tachihara. 2012. Validation of age and growth of Picasso Triggerfish (Balistidae: <i>Rhinecanthus aculeatus</i>) from Okinawa Island, Japan, using sectioned vertebrae and dorsal spines. Journal of Oceanography. 68: 817-829	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	○	○	
Fautin, Daphne G. 2013. Hexacorallians of the World	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	○	○
Hajime Matsubara, Yuki Kubara, Hiroka Yoshikawa, Daisuke Iwata, Masaharu Shimizu, Yoshifumi Horie, Takuto Imai, Yuta Fukuoka, Ken-ichi Watanabe, Hidemasa Shione. 2013. Gonadal histology of wild giant mottled eel <i>Anguilla marmorata</i> in Okinawa, Japan. Biogeography. 15: 55-62	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Harumi SAKAI, Mitsuaki SATO. 1982. First Records of Five Teleostean Fishes and Three Second Records of Gobiid Fishes from Japan, Collected in Rivers on the Ryukyu Islands. 北海道大学水産学部研究報告. 33(2): 79-88	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	○	○	
HIDETOSHI OTA. 2003. A New Subspecies of the Agamid Lizard, <i>Japalura polygonata</i> (Hallowell, 1861) (Reptilia: Squamata), from Yonagunijima Island of the Yaeyama Group, Ryukyu Archipelago. Current Herpetology. 22(2): 61-71	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
HIDETOSHI OTA. 1990. The Tree Gecko, <i>Hemiphyllodactylus typus typus</i> (Lacertilia: Gekkonidae): an Addition to the Herpetofauna of Japan. Japanese Journal of Herpetology. 13(3): 87-90	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Hiroshi Senou, Tetsuo Yoshino, Munee Okiyama. 1987. A Review of the Mullet with a Keel on the Back, <i>Liza carinata</i> Complex (Pisces: Mugilidae). PUBLICATIONS OF THE SETO MARINE BIOLOGICAL LABORATORY. 32(4-6): 303-321	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	○	○	
I-Shiung Chen, Toshiyuki Suzuki, Hiroshi Senou. 2008. A NEW SPECIES OF GOBIID FISH, <i>LUICIOGOBIUS</i> FROM RYUKYUS, JAPAN (TELEOSTEI: GOBIIDAE). 16(4): 250-254	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Imai, H., Kashiwagi, F., Cheng, J. H., Chen, T. I., Tachihara, K., & Yoshino, T. 2009. Genetic and morphological evidence of hybridization between <i>Nematolosa japonica</i> and <i>N. corne</i> (Clupeiformes: Clupeidae) off Okinawa Island, Ryukyu Archipelago, Japan. Fisheries Science. 75: 343-350	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	○	○	
Ishikawa, T., T. Shimose and K. Tachihara. 2013. Life history of an invasive and unexploited population of Nile tilapia (<i>Oreochromis niloticus</i>) and geographical variation across its native and non-native ranges. Environmental Biology of Fishes. 96: 603-601	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Kanak, M.K. and K. Tachihara. 2008. Reproductive biology of common silver biddy <i>Gerres oyena</i> in Okinawa Island of southern Japan. Fisheries Science. 74: 265-275	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	○	○	
Katsunori TACHIHARA, Emi OBARA. 2003. 沖縄島源河川におけるカワスズメの年齢と成長. SUITSANZOSHOKU. 51(3): 307-313	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Katsunori TACHIHARA, Emi OBARA. 2003. 直達発生型魚類カワスズメの卵内発生と稚魚への形態変化の過程. SUITSANZOSHOKU. 51(3): 295-306	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Katsutoshi Watanabe, Keiichiroh Iguchi, Kazumi Hosoya, Mutsumi Nishida. 2000. Ichthyological Research. 47(1): 43-50	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Kawakami, T. and K. Tachihara. 2011. Dispersal of land-locked larval Ryukyu-ayu, <i>Plecoglossus altivelis ryukyensis</i> , in the Fukuji Reservoir, Okinawa Island. Cybium. 35: 337-343	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Ken Maeda, Katsunori Tachihara. 2010. Diel and Seasonal Occurrence Patterns of Drifting Fish Larvae in the Teima Stream, Okinawa Island. Pacific Science. 64(2): 161-176	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Ken Maeda, Katsunori Tachihara. 2004. Instream distributions and feeding habits of two species of sleeper, <i>Eleotris acanthopoma</i> and <i>Eleotris fusca</i> , in the Teima River, Okinawa Island. Ichthyological Research. 51: 233-240	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Ken Maeda, Katsunori Tachihara. 2005. Recruitment of amphidromous sleepers <i>Eleotris acanthopoma</i> , <i>Eleotris melanosoma</i> , and <i>Eleotris fusca</i> into the Teima River, Okinawa Island. Ichthyological Research. 52: 325-335	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Koeda, K, K. Tsuzaki, N. Hayashida and K. Tachihara. 2014. First records of two rare snappers, <i>Lutjanus madras</i> and <i>L. dodecacanthoides</i> , from Okinawan waters. Fauna Ryukyuna. ISSN2187-6657: 1-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○	○	
Koeda, K., T. Fukagawa, T. Ishihara and K. Tachihara. 2013. Reproductive biology of nocturnal reef fish <i>Pempheris adusta</i> (Pempheridae) in Okinawa Island, Japan. Galaxea, Journal of Coral Reef Studies: 221-228	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	○	○	
Koeda, K., T. Yoshino and K. Tachihara. 2013. <i>Pempheris ufuagari</i> sp. nov., a new species in the genus <i>Pempheris</i> (Perciformes, Pempheridae) from the oceanic islands of Japan. Zootaxa. 3609: 231-238	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	○	○	
Koeda, K., T. Yoshino, H. Imai and K. Tachihara. 2010. Description of new Japanese and northernmost records of a pempherid fish, <i>Pempheris vanicolensis</i> , from Iriomote Island, southern Ryukyu Archipelago. Biogeography. 12: 77-82	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○	○	
Koeda, Keita, Taiki Ishihara, Takanobu Fukagawa and Katsunori Tachihara. 2016. Life cycle differences between two species of genus <i>Pempheris</i> based on age determination around Okinawa-jima Island. Ichthyological Research. 63: 519-528	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	○	○	
Koichi Shibukawa, Gerald R. Allen. 2007. Review of the cheek-spine goby genus <i>Gladiogobius</i> , (Actinopterygii, Perciformes, Gobiidae), with descriptions of two new species from the Indo-West Pacific. Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology., 33(4): 193-206	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	○	○	
Koichi Shibukawa, Toshiyuki Suzuki, Hiroshi Senou, Korechika Yano. 2005. Records of Three Shrimp-goby Species (Teleostei, Perciformes, Gobiidae) from the Ryukyu Archipelago, Japan. Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology., 31(4): 191-204	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	○	○	
Koichi Shibukawa, Toshiyuki Suzuki. 2005. Two New Species of the Gobiid Fish Genus <i>Eviota</i> (Teleostei, Perciformes, Gobiidae) from the Western Pacific. Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology., 31(2): 65-76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○	○	
Koichi Shibukawa, Yasuhiko Taki. 1996. A new gobiid fish, <i>Acanthogobius insularis</i> , from the Ryukyu Islands, Japan. Ichthyological Research. 43: 79-85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	○	○	
Kondo, M., K. Maeda, N. Yamasaki and K. Tachihara. 2012. Spawning habitat and early development of <i>Luciogobius ryukyensis</i> (Gobiidae). Environmental Biology of Fishes. 95: 291-300	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	

表 4-5-1 (2). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山
KOJICHI KAWAMURA, RYUJI YONEKURA, YUIKO OZAKI, OSAMU KATANO, YOSHINORI TANIGUCHI, KENJI SAITOH. 2010. The role of propagule pressure in the invasion success of bluegill sunfish, <i>Lepomis macrochirus</i> , in Japan. <i>Molecular Ecology</i> . 19: 5371-5388	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Kusuto NANJO, Hiroyoshi KOHNO, Mitsuhiro SANO. 2008. Food habits of fishes in the mangrove estuary of Urauchi River, Iriomote Island, southern Japan. <i>Fisheries Science</i> . 74: 1024-1033	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	65	0	0	0	0	0	0
M Takada, K Tachihara. 2009. Comparisons of age, growth, and maturity between male and female, and diploid and triploid individuals in <i>Carassius auratus</i> from Okinawa-jima Island, Japan. <i>Aquatic Conservation: Marine and Freshwater Ecosystems</i> . 19: 806-814	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Maeda, K and K Tachihara. 2014. Larval fish fauna of a sandy beach and an estuary on Okinawa Island, focusing on larval habitat utilization by the suborder Gobioidae. <i>Fisheries Science</i> . 80: 1215-1229	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0
Maeshiro, R., Kusumoto, B., Fujii, S., Shiono, T., & Kubota, Y. 2013. Using tree functional diversity to evaluate management impacts in a subtropical forest. <i>Ecosphere</i> . 4(6): 1-7	0	0	0	0	0	1,450	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Masafumi MATSUI, Takaji MATSUI. 1982. <i>Hyla hallowelli</i> Recorded from Iriomotejima, Yaeyama group, Ryukyu Archipelago. <i>爬虫両棲類学雑誌</i> . 9(3): 79-86	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Masaru Matsuda, Hiromichi Yonekawa, Satoshi Hamaguchi. 1997. Geographic Variation and Diversity in the Mitochondrial DNA of the Medaka, <i>Oryzias latipes</i> , as Determined by Restriction Endonuclease Analysis. <i>ZOOLOGICAL SCIENCE</i> . 14: 517-526	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Masashi Kondo, Ken Maeda, Nozomi Yamasaki, Katsunori Tachihara. 2012. Spawning habitat and early development of <i>Luciogobius ryukyensis</i> (Gobiidae). <i>Environmental Biology of Fishes</i> . 95: 291-300	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Masatsune TAKEDA, Sadayoshi MIYAKE. 1968. Six unrecorded xanthid crabs from the Ryukyu Islands preserved in the Zoological Laboratory, Kyushu University. <i>沖縄生物学会誌</i> . 5(7): 1-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0
Masatsune TAKEDA. 1972. Further Notes on the Unrecorded Xanthid Crabs from the Ryukyu Islands. <i>沖縄生物学会誌</i> . 9(11): 15-24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
Masaya Katoh. 1996. Seasonal variation in gonadal activity of females among four species of freshwater gobies in the <i>Rhinogobius brunneus</i> species complex in Okinawa, Japan. <i>Ichthyological Research</i> . 43(2): 169-174	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Md. Sirajul Islam, Shigemitsu Shokita, Takashi Nagai, Tohru Naruse, Akifumi YOGI, Tetsu OSHIRO. 2002. 沖縄島豊後湖綾波川のマングロープ域における大型底生生物の分布と出現量. <i>沖縄生物学会誌</i> . (40): 15-31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	33	0	0	0
Mitsuaki Sato, Harumi Sakai, Morizumi Nakamura. 2004. <i>Kuhlia boninensis</i> (Fowler, 1907), a junior synonym of <i>Kuhlia munda</i> (De Vis, 1884) (Perciformes: Kuhlidiidae). <i>Ichthyological Research</i> . 51: 70-72	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Mutsumi Nishida, Yasumasa Sawash. 1987. Geographic Differences in the Number of Longitudinal Scales of the Ayu <i>Plecoglossus altivelis</i> . <i>Nippon Suisan Gakkaishi</i> . 53(11)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Nakabo, T., Senou, H., & Aizawa, M. 1998. New species of <i>Pseudocallurichthys</i> (Teleostei: Callionymidae) from Iriomote Island, Japan. <i>Copeia</i> . 1998: 451-455	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
National Museum of Natural History (NMNH), Smithsonian Institution. NMNH Invertebrate Zoology Collections	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	0	0
Nozomi Yamasaki, Katsunori Tachihara, Katsunori Tachihara. 2007. Pelagic larval duration and morphology at recruitment of <i>Stiphodon percnopterygius</i> (Gobiidae: Sicydiinae). <i>Raffles Bulletin of Zoology, supplement</i> , 14: 209-214	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Nozomi Yamasaki, Katsunori Tachihara. 2007. Eggs and larvae of <i>Awaous melanocephalus</i> (Teleostei: Gobiidae). <i>Ichthyological Research</i> . 54(1): 89-91	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Nozomi Yamasaki, Katsunori Tachihara. 2006. Reproductive biology and morphology of eggs and larvae of <i>Stiphodon percnopterygius</i> (Gobiidae: Sicydiinae) collected from Okinawa Island. <i>Ichthyological Research</i> . 53: 13-18	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Nozomi YAMASAKI, masashi KONDO, ken MAEDA, katsunori TACHIHIRA. 2011. Reproductive biology of three amphidromous gobies, <i>Sicyopterus japonicus</i> , <i>Awaous melanocephalus</i> , and <i>Stenogobius</i> sp., on Okinawa Island. <i>Cybius</i> . 35(4): 345-359	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ohta, I. and K. Tachihara. 2004. Larval development and food habits of the marbled parrotfish, <i>Leptoscarus vaigiensis</i> , associated with drifting algae. <i>Ichthyological Research</i> . 51: 233-240	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	53	0	0	0	0	0	0
Prince Akhito, Katsusuke Meguro. 1975. <i>Pandaka trimaculata</i> , a New Species of Dwarf Goby from Okinawa Prefecture, Japan and the Philippines. <i>魚類学雑誌</i> . 22(2): 63-67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0
Prince Akhito, Katsusuke Meguro. 1975. Description of a New Gobiid Fish, <i>Glossogobius aureus</i> , with Notes on Related Species of the Genus. <i>魚類学雑誌</i> . 22(3): 127-142	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Rahman, M. H. and K. Tachihara. 2005. Age and Growth of <i>Sillago aeolus</i> in Okinawa Island, Japan. <i>Journal of Oceanography</i> . 61: 569-573	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0
Ryohai Tatsuno, Miwako Shikina, Kiyoshi Soyano, Koichi Ikeda, Tomohiro Takatani, Osamu Arakawa. 2013. Maturation-associated changes in the internal distribution of tetrodotoxin in the female goby <i>Yongeichthys criniger</i> . <i>Toxicon</i> . 63: 64-69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
Sadao IKEHARA, Takuya ABE, Matsuei SHIMOJANA, Yoshiharu YONASHIRO, Susumu MIYAGI. 1976. Nest site of Noguchigera or Okinawa Woodpecker, <i>Sapheopipo noguchii</i> . <i>沖縄生物学会誌</i> . (14): 55-60	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Seiji MATSUMOTO, Haruhiko FUJIMOTO, Kenji TAKEHARA, Fumiyasu SATO, Mutsumi NISHIDA, Masanori KOHDA. 2007. ECOLOGY AND MORPH TRAITS OF THE SWAMP EEL <i>MONOPTERUS ALBUS</i> (SYNBRANCHIIFORMES: SYNBRANCHIIDAE) ON THE RYUKYU ISLANDS, JAPAN. <i>関西自然保護機構会誌</i> . 29(1): 5-18	0	0	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Shimose, T. and K. Tachihara. 2005. Age, growth and maturation of the blackspot snapper <i>Lutjanus fulviflammus</i> around Okinawa Island, Japan. <i>Fisheries Science</i> . 71: 48-55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
Shin-ichiro Oka, Katsunori Tachihara. 2001. Estimation of spawning sites in the spotted flagtail, <i>Kuhlia marginata</i> , based on sperm motility. <i>Ichthyological Research</i> . 48: 425-427	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Shin-ichiro Oka, Katsunori Tachihara. 2008. Migratory history of the spotted flagtail, <i>Kuhlia marginata</i> . <i>Environmental Biology of Fishes</i> . 81: 321-327	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Suzuki, T. & H. Senou. 2013. Review of the sand-diving goby genus <i>Parkraemeria</i> (Perciformes: Gobiidae), with descriptions of two new species from the Ryukyu Islands. <i>Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology, supplement</i> , 7: 53-66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
T. Ishikawa, K. Tachihara. 2011. Reproductive biology, growth, and age composition of non-native Indian glassy fish <i>Parambassis ranga</i> (Hamilton, 1822) in Haeburu Reservoir, Okinawa-jima Island, southern Japan. <i>Journal of Applied Ichthyology</i> . 28: 1-7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Taiki Ishihara, Katsunori Tachihara. 2008. Reproduction and early development of a freshwater pipefish <i>Microphis leiaspis</i> in Okinawa-jima Island, Japan. <i>Ichthyological Research</i> . 55(4): 349-355	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Taiki Ishihara, Katsunori Tachihara. 2009. The maturity and breeding season of the bellybarred pipefish <i>Hippichthys spicifer</i> , in Okinawa-jima Island rivers. <i>Ichthyological Research</i> . 56(4): 388-393	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
Takuro Shibuno, Yohei Nakamura, Masahiro Horinouchi, Mitsuhiro Sano. 2008. Habitat use patterns of fishes across the mangrove-seagrass-coral reef seascape at Ishigaki Island, southern Japan. <i>Ichthyological Research</i> . 55: 218-237	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	54	0	0	0	0	0	0
Tatsuya Kawakami, Katsunori Tachihara. 2010. Occurrence and body size changes of drifting land-locked Ryukyu-ayu <i>Plecoglossus altivelis ryukyensis</i> larvae in the San-numata River, Okinawa-jima Island, Japan. <i>Ichthyological Research</i> . 57(2): 204-208	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Tetsuo Yoshino, Hidenori Yoshigou. 1998. First records of two freshwater pipefishes of the genus <i>Microphis</i> (Synbranchiiformes: Syngnathidae) from Japan. <i>Ichthyological Research</i> . 45(2): 201-204	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Tetsuo Yoshino, Hidenori Yoshigou, Hiroshi Senou. 2002. <i>Mesopristes irawi</i> , a new terapotid fish (Perciformes: Terapotidae) from rivers of Iriomote Island, the Ryukyu Islands. <i>Ichthyological Research</i> . 49: 234-239	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Tetsuo Yoshino, Hirokazu Kishimoto. 2008. <i>Plotosus japonicus</i> , a New Eeltail Catfish (Siluriformes: Plotosidae) from Japan. <i>Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology, supplement</i> , 2: 1-11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
Tetsuo YOSHINO. 1976. Five Unrecorded Fishes from Japan, Collected from Sesoko Island, Okinawa. <i>沖縄生物学会誌</i> . (14): 33-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0

表 4-5-1 (6). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数																	地域	
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生昆虫類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山		
沖縄総合事務局北部ダム事務所. 2002. 貝類・甲殻類・大型水生昆虫類・魚類・潮間帯生物類. 沖縄本島北部地域における生物調査データ. 第3巻	0	0	0	0	668	0	0	457	445	970	203	242	0	521	0	0			
沖縄総合事務局北部ダム事務所. 1997. 大保ダム建設発生土の処分候補地に係る生物環境調査データ(陸域・海域): 49-60	0	0	52	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄総合事務局北部ダム事務所. 1998. 大保川生物環境調査データ: 253p	0	0	13	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄総合事務局北部ダム事務所. 2002. 哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・陸上昆虫類編. 沖縄本島北部地域における生物調査データ. 第2巻	179	881	280	316	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄防衛局. いであ株式会社. 2014. 「シュウブ(H24)水域生物等調査」調査報告書: 3-183~3-302	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	297	0			
沖縄防衛局. 2014. シュウブ(H24)水域生物等調査報告書: 518p	142	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄防衛局. 2015. シュウブ(H25)水域生物等調査報告書: 717p	125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄防衛局. 2016. シュウブ(H26)水域生物等調査報告書	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄防衛局. 2011. 普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	81	0	0	0	0	0			
沖縄防衛局. 2012. 普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書 参考資料(平成 21 年度~平成 22 年度調査): 第2章	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,403	0			
沖縄防衛局. 2011. 普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書. 資料編: 6章	1,813	128	9	26	27	908	16	32	66	57	31	328	1,809	375	789	0			
沖縄防衛局. 2012. 普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書の補正後の環境影響評価書: 第3章	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
恩納村. 2005. サング礁の現状. 恩納村オオヒトデ対策ネットワーク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0			
恩納村漁業協同組合. 2010. 恩納村オオヒトデ駆除報告: 4-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0			
下郷名松栄. 1973. 八重山群島の石灰岩動物相調査報告. 沖縄生物教育研究会誌. (6): 1-26	5	0	3	3	0	0	0	0	26	1	0	1	0	2	0	0			
下郷名松栄. 1979. 沖縄島および周辺島の洞窟動物. 沖縄県洞穴実態調査報告書Ⅱ: 97-153	0	0	7	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
下瀬環・立原一憲. 2005. 沖縄島沿岸におけるニセクロホシフエダイ稚魚の出現と形態. 沖縄生物学会誌. (43): 35-43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0			
加藤信一郎. 1991. 盛夏にオオゴマダラなどの異常集団をみる. 琉球の昆虫. (14): 31-32	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
加藤信一郎. 1987. 八重山諸島で6月に採集したチョウ. 琉球の昆虫. (11): 41-43	0	0	0	0	0	0	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
河内紀浩, 佐々木健志. 2002. 沖縄島北部森林域における移入食肉類(ジャウマングース・ノネコ・ノイヌ)の分布及び食性について. 沖縄生物学会誌. (40): 41-50	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
河野裕美, 水谷晃. 2009. 琉球列島南部西表島周辺で保護回収された3羽のヒメクロウミツバメ <i>Oceanodroma monorhis</i> . 沖縄生物学会誌. (47): 33-39	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
河野裕美, 安部直哉, 眞野徹. 1986. 仲の神島の海鳥類. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 18: 1-27	0	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
河野裕美, 水谷晃. 2015. 仲ノ神島および西表島におけるオジロワシの初越冬と繁殖海鳥類への影響. Strix: journal of field ornithology: 野鳥学論文集. 31: 125-134	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
河野裕美, 太田英利. 1991. 海鳥繁殖地の爬虫類: 八重山諸島・仲の神島の爬虫類高生類相. 沖縄島嶼研究. (9): 73-89	0	6	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
花原秀. 2017. 今帰仁村におけるシロクイモリの繁殖期と水場の利用. 沖縄生物学会誌. (55): 1-10	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
花崎 勝司. 1994. 沖縄島本島沿岸における魚類相. 沖縄生物学会誌. (32): 17-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	238	0	0	0	0	0	0			
花崎 勝司. 2005. 沖縄島北部における魚類相: 羽地内海. 沖縄生物学会誌. (43): 75-87	0	0	0	0	1	0	0	0	0	193	0	0	0	0	0	0			
海老沢明彦, 杉山昭博. 1993. 名護湾保護水面管理事業及び汚濁調査報告書. 平成3年度沖縄県水産試験場事業報告書: 233-254	0	0	0	0	0	0	0	0	0	210	0	0	0	0	0	0			
海老沢明彦, 杉山昭博. 1992. 名護湾保護水面管理事業報告書. 平成2年度沖縄県水産試験場事業報告書: 222-243	0	0	0	0	0	0	0	0	0	161	0	0	0	0	0	0			
海老沢明彦, 杉山昭博. 1991. 名護湾保護水面調査報告書. 平成元年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	169	0	0	0	0	0	0			
外間規誠・末吉幸満・仲原秀明. 1973. 本島・中部島の森林生態. 沖縄県林業試験場研究報告. 16: 72-180	0	0	0	0	0	2,035	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
角田平平, 青柳亮, 徳山法伸, 才木実善, 榎井隆秀, 戸田守, 前之園唯史. 2016. 宮古島および伊良部島における稀少なヘビ 2種, ミヤコヒバとサキシマハイカダの観察例. Akamata. 26: 25-30	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
角田平平, 木寺法子. 2010. 沖縄島やんばる地域で目撃されたウシガエルの一例報告. Akamata. 21: 27-28	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
株式会社 倉敷環境. 2010. 産業廃棄物焼却炉再資源化施設の整備事業に係る環境影響評価書: 277-427	63	98	41	40	18	230	49	41	39	10	3	2	257	5	0	0			
株式会社 ニューエック. 2012. 平成23年度 カムリワシ生息状況等調査業務報告書: 99p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
株式会社 ブレーク研究所. 2012. 平成23年度国指定潤湖鳥獣保護区における保全事業検討調査業務報告書: 337p	14	392	0	0	12	0	0	0	18	12	120	132	0	279	0	0			
株式会社 沖縄環境科学研究所. 2011. 平成22年度平久保半島サカリナシ生息調査業務報告書: 37p	0	0	0	0	0	317	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
株式会社 水産科学コンサルタント. 2016. 平成27年度西表石垣国立公園西表島機断道モニタリング手法検討業務報告書: 56p	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
乾儀大, 桑原宗, 鈴木賢, 川瀬成吾, 前湯光弘. 2013. 沖縄県八重山諸島で確認されたチョウ類、陸水性魚類、鳥類. 近畿大学農学部紀要. 46: 277-298	0	106	0	0	0	19	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0			
乾儀大, 桑原宗, 鈴木賢, 川瀬成吾, 前湯光弘. 2013. 沖縄県八重山諸島で記録されたチョウ類、陸水性魚類、鳥類. 近畿大学農学部紀要. 46: 1-6	0	0	0	0	0	0	144	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省. 2009. マングース捕獲事業	762	2,462	3,292	595	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省. 2018. 国指定仲の神島鳥獣保護区 仲の神島特別保護地区計画書【指定】(環境省案): 1-10	1	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省. 2015. 第 6 回, 第 7 回自然環境保全基礎調査(種生調査)	0	0	0	0	0	8,799	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省. 第2-6回自然環境保全基礎調査, 動植物分布調査	103	0	367	719	59	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0			
環境省. 2004. 第6回自然環境保全基礎調査鳥類繁殖分布調査	0	1,362	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省沖縄奄美地区自然保護事務所. 2005. 平成16年度カムリワシ生息状況等調査報告書(グリーンカー事業): 68p	0	134	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省沖縄地区自然保護事務所, 株式会社 南西環境研究所. 2002. 平成13年度 やんばる地域希少野生生物保全対策事業報告書: 21p	194	132	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 財団法人 自然研究センター. 2006. 平成17年度沖縄県八重山地域における特定外来生物防除業務(オオヒキガエル)調査報告書: 63p	0	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 財団法人 自然研究センター. 2008. 平成19年度沖縄県八重山地域におけるオオヒキガエル等外来生物防除事業報告書: 98p	28	0	169	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 財団法人 日本生態系協会. 2008. 平成19年度石西礁湖自然再生技術手法検討調査業務報告書: 141p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	119	0	0	0	0	45	0			
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2007. 平成18年度石西礁湖サンゴ群集変動調査報告書: 145p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	216	0	26	0	228	0	0			
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2008. 平成19年度石西礁湖サンゴ群集変動調査報告書: 163p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	353	0	84	0	228	0	0			
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2009. 平成20年度宮古島における淡水性甲殻類等の現状把握調査業務報告書: 39p	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0			
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2011. 平成22年度石西礁湖サンゴ確保総合調査業務報告書: 1-281	0	0	0	0	0	0	0	0	0	921	0	0	0	416	0	0			
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2012. 平成23年度西表石垣国立公園川平湾海域公園地区利用調整検討業務報告書: 49p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	604	0	0	0	0	0	0			
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2012. 平成23年度西表石垣国立公園川平湾湾正利用推進検討業務報告書: 78p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	466	107	50	31	248	0	0			
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2013. 平成24年度石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査等業務報告書: 1-148	0	0	0	0	0	0	0	0	0	437	6	10	0	207	0	0			
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2014. 平成25年度 石垣島におけるシロアゴエール対策手法検討業務報告書: 99p	0	0	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2016. 平成27年度石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査等業務報告書: 1-73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	14	0	231	0	0	0			
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2017. 平成28年度 石垣島におけるカムリワシ生息状況等調査業務報告書: 75p	0	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省九州地方環境事務所, アンパナ株式会社. 2014. 平成25年度 国指定大東島諸島鳥獣保護区における保全事業植生等把握業務報告書: 250p	0	0	0	0	0	430	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省九州地方環境事務所, 那覇自然環境事務所, いであ株式会社. 2007. 平成18年度石西礁湖自然再生技術手法検討調査業務報告書: 119p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	544	0	0	0	93	0	0			
環境省九州地方環境事務所, 那覇自然環境事務所, いであ株式会社. 2009. 平成20年度石西礁湖サンゴ確保総合調査業務報告書: 390p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	182	0	32	0	207	0	0			

表 4-5-1 (7). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域	
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	海水甲殻類		サンゴ
環境省九州地方環境事務所, 那覇自然環境事務所, いであ株式会社. 2011. 平成23年度西表石垣国立公園指定植物点検調査: 418p	0	0	0	0	0	5,896	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省九州地方環境事務所, 那覇自然環境事務所, いであ株式会社. 2010. 平成21年度慶良間地域における改正自然公園法に基づく海域公園地区及び特別地域指定動物植物点検調査業務報告書: 37p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	
環境省自然環境局 生物多様性センター. 2009. 平成20年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000)サンゴ礁調査業務報告書: 1-238	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	○
環境省自然環境局, 財団法人沖縄県環境科学センター. 2003. 平成14年度西表国立公園における海中公園計画作成に関する海域調査業務報告書: 174p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	367	13	53	0	228	○
環境省自然環境局, 有限会社海海. 2004. 平成15年度網取島自然環境保全対策検討調査業務報告書: 131p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	324	32	132	4	167	○
環境省自然環境局. 2006. 平成17年度やんばる地域国立公園指定計画策定調査報告書: 18-19	121	466	64	37	0	38	42	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省自然環境局. 2006. 平成17年度西表西嶺サンゴ群集変動調査報告書: 113p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63	0	4	0	82	○
環境省自然環境局. 2011. 平成22年度自然環境保全地域等調査業務報告書 崎山自然環境保全地域周辺地域(網取島). 第4巻: 1-101	0	0	0	0	114	0	0	0	19	58	356	154	0	214	0	○
環境省自然環境局生物多様性センター. 2004. 環境省モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査	0	3,313	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省自然環境局生物多様性センター. 環境省モニタリングサイト1000 プロジェクト	0	7,300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省自然環境局生物多様性センター. 1983-1999. 第3-5回自然環境保全基礎調査. 動物分布調査報告書	497	0	1,243	1,750	430	0	###	2,432	4,039	0	197	844	0	0	0	○
環境省自然環境局生物多様性センター. 1983-1988. 第3回自然環境保全基礎調査. 動物分布調査報告書	0	3,646	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省自然環境局生物多様性センター. 1997-2002. 第6回自然環境保全基礎調査. 鳥類繁殖分布調査報告書	96	2,902	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省自然環境局. 2001. 平成12年度サンゴ礁研究・モニタリング活動推進事業業務報告書: 143p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97	○
環境省自然環境局. 2003. 平成14年度サンゴ礁研究・モニタリング活動推進事業業務報告書: 256p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	151	○
環境省那覇自然環境事務所, 株式会社アーバンテクノロジーズ. 2017. 平成28年度 慶良間諸島国立公園におけるグリーンアノール除染業務報告書: 29p	0	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省那覇自然環境事務所, 有限会社海海. 2006. 平成17年度西表重要湿地保全対策事業報告書: 103p	0	0	0	0	112	0	0	84	16	108	8	24	0	32	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2008. 平成19年度伊都島及び安波波島における自然環境等調査報告書: 70p	22	292	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2008. 平成19年度慶良間地域(座間味村)における二ホンイタダの生態個体および食性調査業務報告書: 42p	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2009. 平成20年度西表島及び与那国島の水域及び集落周辺における希少野鳥生物現状把握調査業務報告書: 110p	0	0	0	0	59	0	0	0	43	0	393	34	0	0	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2010. 平成21年度 集落周辺におけるヤンバルクイナ生息状況把握調査等業務報告書: 74p	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2010. 平成21年度イリモチボタル緊急保全対策業務報告書: 83p	0	0	0	0	70	0	0	0	14	0	0	17	5	0	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2011. 平成22年度 八重山諸島におけるシロゴカイ対策業務報告書: 71p	0	0	127	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2011. 平成22年度イリモチボタル緊急保全対策業務報告書: 72p	0	0	0	0	86	0	0	0	32	0	0	50	0	0	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2011. 平成22年度ノグチラ生息調査総括報告書: 108p	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2011. 平成22年度やんばる地域における垂鈴樹照葉樹林の森林環境に関する調査及び資料収集業務報告書: 156-157	0	0	0	0	1,560	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2012. 平成23年度西表石垣国立公園動物生息状況等調査業務報告書: 59p	10	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2012. 平成24年度 ノグチラ追跡調査等業務報告書(資料編): 132p	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2013. 平成24年度西表石垣国立公園海域公園地区モニタリング業務報告書: 149p	0	0	0	0	14	0	0	0	0	31	83	31	107	159	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2012. 平成24年度西表島昆虫類分佈作成業務報告書: 139p	0	0	0	0	0	125	269	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境省那覇自然環境事務所. 2017. 平成28年度 タイフーンシオの行動特性をふまえたトラップ開発等業務報告書: 45p	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境庁. 1981. 第2回自然環境保全基礎調査(植生調査)	0	0	0	0	0	879	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境庁. 1988. 第3回自然環境保全基礎調査(植生調査)	0	0	0	0	0	1,880	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査. 動物分布調査報告書[鳥類]	0	622	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査. 動物分布調査報告書[哺乳類]	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境庁. 1988. 第3回自然環境保全基礎調査動物植物分布調査報告書[鳥類]	0	1,826	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境庁. 1980. 日本の重要な植物群. (南九州・沖縄県: 熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県)	0	0	0	0	4,241	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
環境庁自然保護局, 国際自然保護連合日本委員会. 2000. 平成11年度名蔵川河口地域自然環境保全総合調査報告書: 125p	0	236	0	0	40	0	10	0	49	85	22	0	60	0	0	○
環境庁自然保護局, 財団法人海中公園センター. 1998. 平成9年度生態系多様性地域調査(石垣島東部及び平久保半島の沿岸海域)報告書: 174p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	313	10	88	0	159	0	○
環境庁自然保護局. 1990. 崎山自然環境保全地域調査報告書: 225p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	853	0	163	0	27	0	○
環境庁自然保護局. 1989. 昭和62年度沖縄県北部地域調査報告書 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究: 1-509	8	2,086	126	104	0	356	590	290	16	0	14	0	63	0	0	○
環境庁自然保護局. 1987. 西表島マングローブ林の枯損の原因究明及び保全対策のための検討調査報告書 I: 52p	0	195	0	0	0	184	0	0	0	6	18	0	36	0	0	○
環境庁自然保護局. 1999. 平成10年度生態系多様性地域(崎山自然環境保全地域)調査報告書: 140p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	148	0	0	0	○
環境庁自然保護局生物多様性センター. 2001. 海域自然環境保全基礎調査重要海岸域生物調査報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	87	○
関伸一. 2004. 多良間島におけるアカヒゲの秋期の渡り. 九州森林研究. 57: 246-247	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
丸山勝彦. 1993. 伊平屋島の哺乳類. 沖縄生物教育研究会誌. (25): 3-6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
丸山勝彦. 1999. 沖縄島羽田における洞窟種コモリ2種の前期成長. 休養と精養の大きさの季節変化. 沖縄生物学会誌. (37): 15-19	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
丸山勝彦. 1992. 沖縄県におけるヒナコワモリ科2種の新記録. 沖縄生物学会誌. (30): 55-57	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
岸本勇夫, 比嘉ヨシ子. 1978. 沖縄産の在来性ネズミの種類構成と繁殖. 沖縄生物学会誌. (16): 1-9	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
岸野底, 四宮明彦. 2004. 奄美大島の役所川と河内川におけるリュウキュウアリの孵化時期と体サイズ. 魚類学雑誌. 51(2): 149-156	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
若井憲司, 仲本光男. 2001. 名蔵保護水面管理事業. 平成11年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115	0	0	0	0	0	○
若槻孝雄, 瀬能宏, 鈴木寿之. 1989. フエイト科魚類ミナミフエイトの日本からの記録および稚魚期における近親種との区別点. 魚類学雑誌. 35(4): 469-478	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	○
亀崎直樹. 1985. 八重山群島新島におけるタイマイ <i>Eretmochelys imbricata</i> (Linnaeus)の産卵場の新記録. 沖縄生物学会誌. (23): 41-42	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
亀崎直樹. 1991. 琉球列島におけるウミガメ類の産卵場の分布とその評価(予稿). 沖縄生物学会誌. (29): 29-35	0	0	0	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
亀崎直樹, 濱井直樹, 富永篤. 2013. シリケンイモリの発生における水温の影響. 九州両生爬虫類研究会誌. 4: 66-67	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
亀田和成, 若月元樹, 亀崎直樹. 2013. 八重山群島黒島の担頭海域におけるアオウミガメの個体群構造と成長速度. 沖縄生物学会誌. (51): 93-100	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
亀田和成. 2010. 八重山群島黒島におけるヤエヤマシガメの初記録. Akamata. 21: 23-24	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
横関英美, 諸喜田茂夫. 1980. 沖縄島と那川におけるサワガニ類の分布. 沖縄生物学会誌. (18): 9-15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	○
宜野湾市. 2015. (仮称)西表島間住土地区画整理事業計画段階環境配慮書: 1-69	12	24	8	12	0	51	60	30	12	0	0	0	0	1	0	○
宜野湾市教育委員会文化課 市史編後巻. 2011. 宜野湾の海. 親愛. 市史より がちまや. (23): 1-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	○
宜野湾市教育委員会文化課. 2002. きのわ自然ガイド. 『宜野湾市史』第9巻資料編8自然・解説編: 1-215	0	45	12	22	10	75	12	14	12	3	9	26	0	9	0	○
菊地正太郎, 佐野清貴. 2007. 竹島島におけるカムリワシの観察記録. Bird Research. 3: S7-S10	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
菊地正太郎, 眞正得, 外山茂, 松本千枝子, 西海功. 2008. クロアコヒメアオバト <i>Polinopus leclancheri</i> の日本初記録および亜種 <i>P. taiwanus</i> についての検討. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 40: 13-22	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
菊地正太郎, 松本千枝子. 2005. 西表島における(バンケンの)観察記録. Strix. 23: 175-179	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
菊池多賀夫, 田村俊和, 牧田肇, 宮城豊彦. 1978. 西表島沖間川下流の沖積平野にみられる植物群落の配列とこれにかかわる地形 I. マングローブ林. 東北地理. 30(2): 71-81	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
菊池多賀夫, 田村俊和, 牧田肇, 宮城豊彦. 1980. 西表島沖間川下流の沖積平野にみられる植物群落の配列とこれにかかわる地形 II. サカリリ/サカサ. 東北地理. 32(4): 185-193	0	0	0	0	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
吉野英範. 2014. 琉球列島陸産性魚類相および文献目録. Fauna Ryukyuan. 9: 1-153	0	0	0	0	69	0	0	0	0	126	0	0	0	0	0	○
吉野英範, 下瀬龍, 若崎誠. 2007. 沖縄島のコウタイ(タイフンドジョウ科). 比叢科学. 22: 37-38	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
吉野英範, 関根正人. 厩我地(沖縄島)で確認されたアカボウズハゼ: 63	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
吉野英範, 若崎誠. 2001. 沖縄島で繁殖が確認された国外侵入種の魚類. 比叢科学. 201: 15-26	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
吉野英範, 若崎誠. 沖縄島で繁殖している <i>Tanichthys albonubes</i> (裸骨魚類; コイ科): 25-26	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○

表 4-5-1 (8). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チヨウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山
吉野英範, 吉野哲夫. 1999. 西表島で採集された日本初記録のオグロオトメイ(新種) <i>Himantura fai</i> . 魚類学雑誌, 46(1): 39-43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	○	○
吉野英範, 市川真幸, 吉野哲夫. 2004. 沖縄島で採集された日本初記録のハゼ科魚類ミノハゼ(新種). I. O. P. DIVING NEWS, 15(11)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○	○
吉野英範, 市川真幸, 中村慎吾. 2005. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (IV). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (5): 1-51	0	0	0	21	0	0	0	0	0	567	0	0	0	0	0	○	○
吉野英範, 中村慎吾. 2008. 庄原市立比和自然科学博物館魚類収蔵標本総合目録. 庄原市立比和自然科学博物館標本資料報告, 8: 1-112	0	0	0	27	0	0	0	0	0	532	0	0	0	0	0	○	○
吉野英範, 中村慎吾. 2002. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 II. 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (3): 85-136	0	0	0	44	0	0	0	0	0	351	0	0	0	0	0	○	○
吉野英範, 中村慎吾. 2003. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 III. 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (4): 31-75	0	0	0	29	0	0	0	0	0	468	0	0	0	0	0	○	○
吉野英範, 田村常雄. 沖縄島都市部におけるタナゴモドキの記録. 比和科学, 206: 46-47	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
吉野英範, 内藤順一, 中村慎吾. 2001. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録. 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (2): 119-168	0	0	0	60	0	0	0	0	0	445	0	0	0	0	0	○	○
吉野英範, 井上朋子, 吉野哲夫. 2008. 日本記録のカワハキ科魚類クコテンハギ <i>Pseudomonacanthus macrurus</i> . 魚類学雑誌, 56(1): 59-62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	○	○
吉野英範, 木田格, 吉野哲夫. 2006. 日本初記録のネズボ科魚類クシヒゲヌメリ(新種) <i>Eleutherochir mccaddeni</i> . 魚類学雑誌, 52(2): 189-193	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	○	○
吉野英範. 2001. ワキシモチ. 標本の追記. 比和科学, 201: 41-42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○	○
吉野英範. 2004. 南大東島で確認されたタイドプールと浅い潮下帯の魚類. 比和科学博物館研究報告, 43: 1-51	0	0	0	5	0	0	0	0	0	456	0	0	0	0	0	○	○
吉野英範. 2007. 日本の陸水域に出現するサメとエイ. 比和科学, 223: 21-35	0	0	0	6	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	○	○
吉野英範. 与那国島(琉球列島)の陸水生魚類. 165-179	0	0	0	24	0	0	0	0	0	67	0	0	0	0	0	○	○
吉野英範. 2007. 琉球列島久米島の陸水生魚類. 比和科学博物館研究報告, 48: 25-51	0	0	0	47	0	0	0	0	0	98	0	0	0	0	0	○	○
吉行 瑞子. 1990. 日本の哺乳動物のクラコウモリ類. 日本の生物, 4(8): 74-78	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
吉行 瑞子. 1990. 日本の哺乳動物のクラコウモリ類(2). 日本の生物, 4(10): 74-77	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
吉村光, 北村嘉夫, 知花昌紀, 横田昌嗣, 藤田哲郎. 2016. 琉球列島固有種アカボシツツナシソウ(シソ科)の渓流環境への適応と葉形変異. 沖縄生物学会誌, (54): 1-15	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
吉田 朋弘, 本村 浩之. 2015. 徳之島および沖縄島から得られたハタ科魚類 <i>Grammistops ocellatus</i> Schultz, 1953. Nature of Kagoshima, 41: 53-55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○	○
吉田直史, 玉城不二美, 渡口輝. 2007. 沖縄県牧港・藤手納海域における魚類中の重金属及び有機塩素系化合物含有量について. 沖縄県衛生環境研究所報, 41: 199-207	0	0	0	0	0	0	0	0	0	238	0	0	0	0	0	○	○
吉野 哲夫, 昆 健志. 1998. 日本初記録のキツネアマガイ科魚類アカオビサンゴアマダイ <i>Hoplostethus macrosi</i> . 魚類学雑誌, 45: 111-114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○	○
吉野元, Kyle N Armstrong, 田村常雄. 2009. 沖縄島の久米島・渡嘉敷島・伊平屋島における洞窟棲小型クモリ類. 東洋編殖研究所紀要, (8): 28-32	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
吉野元, 田村常雄. 2009. 沖縄島南部の出産保育洞窟におけるオキナワコキクラコウモリ類の選択的な環境利用. 東洋編殖研究所紀要, (8): 33-36	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
吉野哲生, 小高信彦, 斎藤恭子, 相澤空見子, 相野道華, 浅川満彦. 2014. 沖縄県内で採集された鳥類から得られた寄生蜂の記録. 沖縄生物学会誌, (52): 1-9	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久貝勝盛, 岡嶺 山本晃. 1982. STERNA Linnaeus, ANOUS stephens of the MIYAKO ISLANDS(宮古群島のアシサシ). 沖縄生物教育研究会誌, (15): 11-18	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久貝勝盛, 仲地邦博, 金子進, 砂川友弘, 砂川栄喜, 山本晃. 2010. 宮古諸島の鳥類相. 宮古島市総合博物館紀要, (14): 91-114	0	222	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久貝勝盛, 仲地邦博, 砂川友弘, 金子進. 2011. 日本における秋のアカハラカワ渡りの現状. 宮古島を中心にして. 宮古島市総合博物館紀要, (15): 1-19	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久貝勝盛, 高原建二, 瀬名波任. 1995. 久米島におけるフシカカメとハヤブサ. 沖縄県立博物館紀要, 21: 159-168	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久貝勝盛. 1997. 伊良部の鳥. 平良市総合博物館紀要, (4): 35-56	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久貝勝盛. 1996. 下地町と那覇湾一帯の鳥類相. 平良市総合博物館紀要, (3): 85-103	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久貝勝盛. 1998. 多良間島・水納島の鳥類. 平良市総合博物館紀要, (5): 39-68	0	29	0	0	0	184	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久貝勝盛. 1995. 池田島の鳥. 平良市総合博物館紀要, (2): 79-86	0	153	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久貝勝盛. 1996. 日本におけるサンバの秋の渡り. 沖縄県立博物館紀要, 22: 153-172	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久貝勝盛. 2001. 糸島島の鳥類. 平良市総合博物館紀要, (7): 125-156	0	160	0	0	0	232	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久塚安次. 1987. 沖縄本島における淡水紅藻について. 沖縄県立博物館紀要, (20): 2-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	○	○
久塚安次. 1987. 植生. 宜野湾市教育委員会社会教育課(編), 宜野湾市文化財調査報告書第9集: 56	0	0	0	0	0	526	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久塚安次. 1974. 石垣島海岸の調査報告 I. 沖縄生物教育研究会誌, (7): 2-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	0	0	0	○	○
久塚安次. 1984. 大山-宇地泊海岸における海藻. 沖縄生物教育研究会誌, (17): 3-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	99	0	0	0	○	○
久米島ホテルの会. 2010. 平成21年度キツツサフヘビ生息環境等調査業務報告書: 95p	0	0	24	16	22	0	0	5	3	6	0	0	0	0	0	○	○
久米島ホテルの会. 2011. 平成22年度キツツサフヘビ生息環境等調査業務報告書: 71p	0	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久保弘文. 2002. 宜野湾市の鳥類. 宜野湾市史第9巻資料編8自然: 659-742	0	0	0	0	0	0	0	78	0	418	0	0	0	0	0	○	○
久保弘文. 2014. 第3章 恩納村の動物. 恩納村の鳥類. 恩納村誌 第1巻 自然編, (1): 245-340	0	0	0	0	0	0	0	570	0	1,771	0	0	0	0	0	○	○
久保弘文. 1991. 第一節 海産動物 第五節 中城海域の鳥類. 中城村史第二巻 資料編I(地理・自然・政治行政・産業経済・移住), (2): 186-196	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	0	○	○
久保田康裕. 未公開データ	0	0	0	0	1,960	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
久保田信, 若木節子, 大城直雅, 鳥越兼治. 2003. 沖縄島のノコギリカキ(二枚貝綱, カキ目, イタボカキ科)とカイヤドリヒドラクラガ(ヒドコ虫綱, 軟クラガ目, マツクラガ科)の共生の初記録. 沖縄生物学会誌, (41): 51-54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○	○
久保田信, 小林理瑠, 若木節子, 大城直雅, 鳥越兼治. 2005. 沖縄島およびその周辺の離島におけるカイヤドリヒドラ類(ヒドコ虫綱, 軟クラガ目)のポリ種の地理的分布. 沖縄生物学会誌, (43): 65-70	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	○	○
久保田信, 水野信彦. 1998. 渡嘉敷川河口で発見されたオウナギ(ウナギ目, ウナギ科)の死亡個体. 南紀生物, 40(2): 199-200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
宮原一, 吉野 哲夫, 伴谷 一宏. 2005. 西表島での分布が確認された日本初記録のデンジクダイ科魚類 <i>Ftasia</i> カビレイシモチ(新種), <i>Apogon rhodopterus</i> . 魚類学雑誌, 52: 147-151	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	○	○
宮原一, 崔允, 矢部衛, 伴谷 一宏. 2002. 沖縄島で採集された日本初記録の工ソ科魚類 <i>Saurida micropectoralis</i> . 魚類学雑誌, 49: 127-131	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○	○
宮城康一. 1981. 竹富町西表島の主な御嶽の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ, 第21集. 沖縄県社寺・御嶽林調査報告IV: 231-246	0	0	0	0	4,681	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
宮城康一. 横田昌嗣. 1984. イリモテヤマノコの調査地高変・古見地点の概況. 沖縄県換研究, 2: 9-24	0	0	0	0	2,067	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
宮城康一. 喜屋武とせ子・伊佐小夜子・又古直子・渡慶次敬子. 1968. 沖縄南部の植生. 琉球大学生物クラブ誌, 10: 48-58	0	0	0	0	1,203	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
宮城康一. 新城和治・鳥袋嶺・日越国昭・宮城朝晴・真志嘉文子・新島義能・天藤敏男・新納義馬. 1988. 与那国島天然保護区域の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集, 国頭県天然記念物緊急調査III: 59-84	0	0	0	0	1,953	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
宮城康一. 鳥袋嶺一. 横田昌嗣. 1986. イリモテヤマノコの調査地高変・古見地点の植生変化1. 沖縄島嶼研究, 4: 9-26	0	0	0	0	1,555	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
宮城康一. 鳥袋嶺. 1981. 名護市の主な御嶽の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第21集, 沖縄県社寺・御嶽林調査報告IV: 11-26	0	0	0	0	1,303	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
宮城康一. 鳥袋嶺. 1981. 沖縄県社寺・御嶽林調査報告IV: 伊江町の主な御嶽所の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ, 21: 1-10	0	0	0	0	431	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
宮城康一. 日越国昭・新納義馬・新城和治・新島義能・宮城朝晴・鳥袋嶺・天藤敏男. 1985. 西表島仲間天然保護区域の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第24集, 西表島天然記念物緊急調査報告書II: 1-20	0	0	0	0	6,159	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
宮城秋乃, 青柳晃. 2011. 2010年沖縄県で見られた迷蜂. 琉球の昆虫, (32): 1-4	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
宮城秋乃. 2008. ヌスカムラサキの交尾を観察. 琉球の昆虫, (32): 129	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
宮城朝晴. 1979. 沖縄県社寺・御嶽林調査報告II: 那覇市内の主な社寺・御嶽の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ, 第18集: 145-168	0	0	0	0	1,287	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
宮城朝晴. 真志嘉文子・新島義能・鳥袋嶺・新城和治・日越国昭・宮城康一・新納義馬. 1988. 大宜味御嶽のピロウ林. 沖縄県天然記念物調査シリーズ, 第30集, 国頭県天然記念物緊急調査III: 96-116	0	0	0	0	110	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○

表 4-5-1 (9). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域	
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山
宮城邦治, 当山直道. 1988. 沖縄県北部那覇郡及びその周辺地域の哺乳類・爬虫類・両生類調査結果(中間報告). 特殊鳥類等生息環境調査中間報告書: 91-105	5	0	18	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮島仁, 高原建二, 田仲謙介. 2015. 沖縄県におけるフクロトキ <i>Plegadis falcinellus</i> の観察記録. 日本鳥学会誌. 64: 267-270	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮島仁, 山城正樹, 田仲謙介. 2012. 沖縄県国頭郡金武町におけるヨーロッパナグロ <i>Pluvialis apricaria</i> の日本初記録. 日本鳥学会誌. 61: 310-313	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮脇昭. 1989. 沖縄・小笠原. 日本植生誌. 10: 580p	0	0	0	0	0	15,493	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮脇昭・中村幸人・村上雄秀・塚越優美子・鈴木邦雄・鈴木伸一・仲田栄二. 1983. 西表島沿岸部の植生学的研究. 横浜国立大学環境科学センター紀要. 9(1): 91-137	0	0	0	0	0	1,086	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮脇昭・鈴木邦雄・鈴木伸一・中村幸人・村上雄秀・塚越優美子・仲田栄二. 1983. 日本におけるマングロープの植生学的研究 1. 西表島のマングロープ林. 横浜国立大学環境科学センター紀要. 9(1): 77-89	0	0	0	0	0	356	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
橋本岳典, 西島信昇. 1987. マドモテウミナ <i>Terebralia sulcata</i> (Bom) の後期発生と成長. 沖縄生物学会誌. (25): 53-56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
玉城俊一. 1972. 八重山の鳥類調査報告(1). 沖縄生物教育研究会誌. (5): 13-17	0	169	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
玉城常雄. 1978. (続)石垣島の秋期における鳥類と渡りの動向. 沖縄生物教育研究会誌. (11): 49-58	0	189	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
玉城常雄. 1982. 石垣市街地とハンナ島の鳥相およびその生態. 沖縄生物教育研究会誌. (15): 23-31	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
玉城常雄. 1977. 石垣島の秋期における鳥類と渡りの動向. 沖縄生物教育研究会誌. (10): 23-37	0	145	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
玉城常雄. 1979. 与那国島の鳥類(1). 沖縄生物教育研究会誌. (12): 15-23	0	191	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金城 清昭, 本永 文彦, 木村 基文. 1999. 沖縄県におけるシモフリアイゴの着底. 日本水産学会誌. 65: 19-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	0
金城 清昭. 1998. 沖縄島の海岸域に着底するシロクラバ <i>Chorerodon schoenleinii</i> の仔稚魚の形態および成長とちもなう分布と食性の変化. 日本水産学会誌. 64: 427-434	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
金城孝一, 比嘉嘉三郎, 大城洋平. 2006. 沖縄県のサンゴ礁海域における栄養塩環境について. 沖縄県衛生環境研究所報. (40): 107-113	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0
金城常雄. 1993. 沖縄県本島南部に侵入したシロカシラ <i>Pycnonotus sinensis</i> の分布域の拡大と生態的特徴. 九州病虫学研究会報. 39: 119-123	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金城清昭, 亀浜正博, 七条祐哉, 立津茂, 宮平和法, 仲本光男. 1995. 宮古島ミナミクロイタ放流調査. 平成5年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0
金城清昭, 七条祐哉. 1995. 宮古島の幹線帯におけるミナミクロイタ稚魚の分布. 平成5年度沖縄県水産試験場事業報告書: 183-187	0	0	0	0	1	0	0	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0
金城清昭, 中村博幸, 仲本光男. 1998. 名護湾保護水面管理事業. 平成8年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0
金城清昭, 仲本光男, 渡辺利明. 1997. 名護湾保護水面管理事業. 平成7年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	114	0	0	0	0	0	0	0
金城清昭, 仲本光男. 1999. 名護湾保護水面管理事業. 平成9年度沖縄県水産試験場事業報告書: 218-224	0	0	0	0	0	0	0	0	0	161	0	0	0	0	0	0	0
金城清昭, 仲本光男. 1996. 名護湾保護水面管理事業. 平成6年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0
金城道男. 1994. 瀧地の鳥類. 特殊鳥類等生息環境調査-沖縄本島湿地地帯-	0	647	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金城優子・金城風太. 2009. タマモト木の幼虫を見つけた. 琉球の昆虫. (33): 55	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金城和三, 前田喜四郎. 1999. 沖縄県で採集されたヤマモモリ <i>Nyctalus aviator</i> の記録. 沖縄生物学会誌. (37): 61-64	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駒井智幸. 2004. クシモトヤドカリはクリソヤドカリの幼若個体. 沖縄生物学会誌. (42): 25-38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
貝志川市. 2002. 中部北環境施設組合ごみ処理施設建設事業に係る環境影響評価書: 5章	6	49	7	10	7	545	54	39	14	16	0	15	18	1	0	0	0
東橋和信. 2016. 沖縄本島におけるマルバネリマダラ(フイビン毒種) <i>Euploea eunicekadu</i> の記録. 琉球の昆虫. (40): 103	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栗田和紀, 角田幸平. 2010. 沖縄県におけるオキナワトカゲの分布状況. Akamata. 21: 39-43	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
桑原崇, 自我部隆子, 山本裕太, 鳥居憲親, 鈴木賢与, 前湖光弘, 桜谷保之. 2011. 沖縄県八重山諸島で記録された両生類・爬虫類. 近畿大学農学部紀要. (44): 163-169	0	0	17	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原住弘. 2014. 久米島町奥武島で未記録種を採集. 琉球の昆虫. (38): 59	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原戸鉄二郎. 2014. 第3章 恩納村の動物. 恩納村の鳥類. 恩納村誌 第1巻 自然編. 1: 491-507	0	184	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原戸鉄二郎. 1986. リウキュウツツバ <i>Hirundo tahitica namiyei</i> のモビング行動(予報). 沖縄生物学会誌. (24): 35-38	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原田英司. 1972. 南西諸島で観察されたテッポウエビ類とハゼ類の同属関係について. 沖縄生物学会誌. 9(11): 1-8	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
藤本正. 1986. 八重山列島の鳥類における出産産卵群の動態. 秋吉台科学博物館報告. (21): 37-50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
戸田守, 角田幸平, 前之園唯史, 岩永節子. 2006. 渡嘉敷村前島の両生爬虫類相. 沖縄生物学会誌. (44): 53-63	0	0	7	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
戸田守, 山本義子, 角田幸平. 2003. 伊理名村の貝志川島および屋那覇島の両生爬虫類相. 沖縄生物学会誌. (41): 33-41	0	0	1	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
戸田守, 小島光明, 前田真希, 正井佐知, 坂田ゆず. 2015. 沖縄県北部におけるオキナワヤモリの交尾の観察例. Akamata. 25: 17-20	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
戸田守, 庄司直嗣. 2015. 伊江島から2種目となるクマシマイの標本について. Akamata. 25: 31-34	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
戸田守. 2008. オキナワヤモリとミナミヤモリの識別点について(予報). Akamata. 19: 23-30	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後藤健志, 田村常雄, 佐々木健志. 2014. 第3章 恩納村の動物. 恩納村の陸棲哺乳類. 恩納村誌 第1巻 自然編. (1): 519-537	29	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
向井眞彦, 杉本真奈美. 2006. 日本産トビハゼのミトコンドリアDNA多型に基づく遺伝的集団構造の解析. 魚類学雑誌. 53(2): 151-158	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
向井眞彦, 西田睦. 2004. 日本産ミズバエにおけるミトコンドリアDNAの系統と地理的分化. 魚類学雑誌. 51(2): 157-161	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
向山満. 1990. 森林棲コウモリを探して. 採集と飼育. 52(11): 476-481	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
幸地良仁, 大城謙. 1987. タム建設によるヨシノボリ属魚類への影響. 沖縄生物教育研究会誌. (20): 8-23	0	0	0	0	56	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0
幸地良仁. 2000. 沖縄県内における淡水魚類とその生息環境の現状. 特殊鳥類等生息環境調査(XI(改訂版) 湿地(水辺環境)編総括 -沖縄県内の水辺環境に生息する生物種の概要-) 79-101	0	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
幸地良仁. 1991. 沖縄県における陸産陸移動物の現状と問題点. 南西諸島自然保護特別事業調査報告書. 4: 55-65	0	0	0	0	209	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0
幸地良仁. 1995. 沖縄島の河川環境の現状と問題点. 沖縄生物学会誌. (33): 66-77	0	0	0	22	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0
幸地良仁. 1988. 大城タムの魚類相とブラックバスの食害による影響. 沖縄生物教育研究会誌. (21): 45-57	0	0	0	0	18	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0
幸地良仁. 1965. 西表島から採集した異常体色のノコギリボラについて. 沖縄生物学会誌. 2(4): 50-51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
荒尾一樹. 2007. 南大東島の淡水魚類. 神奈川自然保全研究会報告書. 17: 25-26	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
荒尾一樹. 2004. 八重山諸島小浜島で採集された陸水域の魚類. 南紀生物. 46(2): 173-176	0	0	0	0	9	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0
菅村昂男, 西村昌彦. 1990. 沖縄県南部におけるハブの直接採集. 沖縄生物学会誌. (28): 43-54	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高橋貴之. 1988. 1979年春 久米島の蝶. 琉球の昆虫. (12): 24-26	0	0	0	0	0	83	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高橋祐衣, 宮竹貴久. 2012. 沖縄島へのオカダンゴムシの侵入とダンゴムシ類の分布. 沖縄生物学会誌. (50): 83-91	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
高洲賢文. 2009. 新規造成地に発生した雑草の群落組成について. 沖縄県農業研究センター研究報告. 3: 21-27	0	0	0	0	0	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高田未来美, 立原一憲. 2006. 沖縄県比地川水系におけるギンズナ <i>Carassius auratus langsdorfi</i> の性比と倍散性. 沖縄生物学会誌. (44): 27-34	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高木昌典. 2000. 南大東島に生息するモズの羽色および形態の記載. 島内の分布状況と繁殖生態. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 32: 13-23	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高良鉄夫. 1968. 西表島の採集について. 沖縄生物学会誌. 5(7): 15-24	0	0	0	0	0	191	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高良鉄夫. 1979. 沖縄における未記録種および稀種. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 11: 132-135	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高良鉄夫. 1969. 尖閣列島の鳥類について. 琉球大学農学部学術報告. 16: 1-12	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高良鉄夫. 1969. 八重山群島(琉球)産へびに関する若干の知見. 爬虫両棲類学雑誌. 3(2, 3): 19-21	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高良鉄夫. 1954. 尖閣列島の動物相について. 琉球大学農学部学術報告. 5: 7-74	0	11	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国土交通省. 河川環境データベース (河川水辺の動物調査): http://mizukoku.nlim.go.jp/ksnkanko/	411	###	3,807	583	1,026	0	710	1,464	919	737	179	250	0	310	0	0	0
国立科学博物館. 2013. 自然史標本情報検索	7	228	0	2	1,218	5,349	0	0	0	3,410	0	0	0	535	0	0	0

表 4-5-1 (11). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数																地域	
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山	
山崎仁也, 横田昌嗣, 知念美香, 仲宗根忠樹, 比嘉清文, 加島幹男. 2016. 鳩間島・新城(上地・下地)島・黒島の植物相(FLORA), 鳩間島・新城島・黒島総合調査報告書, 沖縄県立博物館・美術館, 別冊, 13-67	0	0	0	0	0	1,246	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
山崎仁也, 松村雅史, 吉田和久, 力身恭二, 目黒寛児. 2016. 鳩間島・新城(上地)島・黒島の動物相(FAUNA)~昆虫相を中心に~, 鳩間島・新城島・黒島総合調査報告書, 沖縄県立博物館・美術館, 別冊, 69-79	6	0	0	8	0	0	34	1	0	1	0	0	0	8	0	0	0	
崎崎信. 2015. 大東諸島北大東島で2013年7月に確認した鳥類. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 46: 127-140	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
指村奈穂子. 未公開データ	0	0	0	0	0	131	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
糸満市土地開発公社. 1995. 糸満市南浜地先公有水面埋立事業に係る環境影響評価書. (5冊): 1-168	5	313	9	16	1	270	3	4	0	0	44	2	173	18	64	0	0	
寺田考紀, 西村昌彦, 香村昂男. 2011. 沖縄県産アカマタの繁殖に関する資料. 沖縄県衛生環境研究報. 45: 95-102	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
寺田考紀. 2011. 沖縄島に定着したタイワンハブ・サキシマハブ・タイワンスジオの生息状況と対策. 爬虫両生類学会報. 2: 161-168	0	0	0	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
寺田仁志, 川西嘉博, 杉村康司. 2016. 沖縄県伊弉名島の巨大化・大規模化したウコンソマツ群落を含む隆起サンゴ礁上陸生について. 鹿児島県立博物館研究報告. (35): 91-104	0	0	0	0	0	175	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
寺田仁志, 大塚哲. 2012. 沖縄県久高島の隆起珊瑚礁上陸生について. 鹿児島県立博物館研究報告. (31): 5-30	0	0	0	0	0	563	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
持田浩治. 2015. 慶良間諸島外島におけるアカオナベの初分布記録. Akamata. 25: 35	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鹿谷麻夕. 2000. 沖縄県東海岸の砂浜湖間帯におけるナミウコカイ <i>Donax cuneatus</i> の加入と繁殖パターン. 沖縄生物学学会誌. (38): 33-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	
鹿野雄一, 中島淳, 水谷宏, 仲里裕子, 仲里長治, 掛善雅, 黄亮亮, 西田伸, 橋口康之. 2012. 西表島におけるトシヨウの危機的生息状況と遺伝的特異性. 魚類学雑誌. 59(1): 37-43	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
篠原士郎. 1973. 琉球諸島におけるクワイヒドリキアキマイ <i>Satsuma (coniglobus) yaeayamaensis</i> (Pilsbry) の特異な分布について. 沖縄生物学学会誌. 10(12): 61-62	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	
酒井 浩, 佐藤 光昭. 1982. 琉球列島の河川から得られた日本初記録の魚類5種と2番めの記録のハゼ科魚類3種. 北海道大学水産学部研究報. 33: 79-88	0	0	0	0	1	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	
酒井浩也, 中村守純. 1979. 石垣島の溪流から得られたボウズハゼ科の2新種. 魚類学雑誌. 26(1): 43-54	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
酒井理. 2015. 沖縄島周辺におけるオガサワラヨモリの新たな分布地と花外蜜腺からの採集行動. Akamata. 25: 5-8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
秋田雄一, 海老沢明彦. 2013. フェウキヤイ科魚類の生息的特性の経年変化. 平成24年度沖縄県水産海洋研究センター事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0	
所崎聡, 所崎香織, 杉村栄喜. 2002. 沖縄県におけるパラロムクドリ <i>Sturmus roseus</i> の初記録. 日本鳥学会誌. 51: 122-124	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
諸喜田茂光, 藤田嘉久, 長井隆, 伊藤昌, 川原剛, 野南齊. 2003. 石垣島蔵川マングロープ域と流入河川における甲殻類の生息分布と現存量. 平成14年度内閣府委託調査研究マングロープに関する調査研究報告書, 97-111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	117	0	0	0	
諸喜田茂光. 1971. オガサワラの放散卵について. 沖縄生物学学会誌. 7(9): 27-32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	3	0	0	0	
諸喜田茂光・藤田嘉久・長井隆・川上新. 2002. 宜野湾市の甲殻類. 宜野湾市史第9巻資料編9自然: 629-658	0	0	0	0	0	0	0	0	34	0	0	0	0	116	0	0	0	
諸喜田茂光, 伊野波盛仁. 1971. 沖縄産アユの産卵生態に関する研究-1. 昭和44年度琉球水産研究所事業報告書: 70-74	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
諸喜田茂光, 西島信男, 伊野波盛仁. 1975. 沖縄産アユの産卵生態-アユ保護の必要性-. 沖縄生物学学会誌. (13): 12-17	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
諸喜田茂光. 1966. ミナミテナガエビの生息及び幼生変態について. 沖縄生物学学会誌. 3(5): 13-21	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	
諸喜田茂光・藤田嘉久・成瀬賢. 2004. 西原町の甲殻類と魚類. 西原町史付属刊行物 西原町の自然 ~動物・人と自然の関わり~: 61-78	0	0	0	0	75	0	0	0	26	28	0	0	30	0	0	0	0	
勝山輝男. 2006. 沖縄本島でトックリスグ <i>Carex rhynchaenium</i> を見出す. 植物地理・分類研究. 54: 154-156	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
勝達盛輝, 寺田考紀, 鶴田泰久. 2006. 沖縄本島南端で捕獲された外来種サキシマハブの計測値. 沖縄県衛生環境研究所報. 40: 187-191	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
勝達盛輝, 西村昌彦, 香村昂男. 1996. 沖縄諸島において本来の分布地とは異なる地域で採集されたヘビ. 沖縄生物学学会誌. (34): 1-7	0	0	0	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小笠原祐. 1977. ノグチグラの生態, 行動学的観察及びその保護. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 9: 143-158	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小原祐二. 2016. 野外におけるオキナワミナミザワカニによるシリケンイモリの摂食例. Akamata. 26: 1-2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小高信彦, 佐藤大樹, 外山雅夫, 榎木勉, 山下香葉, 長尾博文. 2006. ノグチグラ <i>Sapheopipo noguchii</i> の宮城木内部における産卵変異. 九州森林研究. 59: 194-196	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小高信彦, 澤志泰正. 2004. ヤンバルクイナのロードキル. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 35: 134-143	0	113	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小崎尚彦. 2010. 酸性化海水がサンゴの石灰化および骨格の微細要素比に与える影響. 東京大学大学院新領域創成科学研究科, 環境学研究室自然環境学専攻, 地球海洋環境学分野. 2009年度. 修士論文: 1-45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	
小枝 圭太, 藤井 琢郎, 吉野 哲夫. 2014. 沖縄島で採集された日本初記録のヒカリキンメダイオオヒカリキンメ <i>Photoblepharon palpebratum</i> . 魚類学雑誌. 61: 27-31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
小枝圭太・吉野哲夫・立原一憲. 2012. 沖縄島から採集されたツマグロハシ <i>Pempheris japonica</i> の初記録および南限記録とその稚魚の成長過程. 日本生物地理学会. 67: 65-73	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小松忠. 1985. 沖縄島 石垣島 西表島のテングチョウの記録. 琉球の昆虫. (10): 73	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小針統, 杉本賢, 西宮明彦, 河合深, 西村知. 2012. 奄美大島後勝川におけるリュウキュウアユ仔魚の環境. 水産増殖. 60(1): 53-58	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小菅丈治, 佐々木健志. 2002. アオシロハリシロギによるタイワンザワカニの捕食. 沖縄生物学学会誌. (40): 51-52	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
小菅丈治, 和田康次. 1992. 沖縄島中城湾から記録されたナカスクサワカニ(新種) <i>Macropodus quadratus</i> (スナガニ科): 日本新記録. 沖縄生物学学会誌. (30): 61-64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
小菅丈治, 久保弘文, 西川隆昭. 2003. ムシシロの巣穴に棲む二枚貝ナタメケボリカイの琉球列島における分布と生態. 沖縄生物学学会誌. (41): 7-13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	
小菅丈治. 2005. クサビラン科に寄生するイタコカガイ科の一種 <i>Epitonium ulu</i> Pilsbry の与那国島からの記録. ちりぼたん. 35(4): 119-120	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
小菅丈治. 2000. タイワンベンケイガニによるタママイマイ捕食の一例. 沖縄生物学学会誌. (38): 73-74	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
小菅丈治. 1992. 沖縄島羽地内海に生息するチゴカニの記録: 南限近くに分布する個体群の生態的特徴について. 沖縄生物学学会誌. (30): 45-53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	
小菅丈治. 2010. 飼育下におけるヤヤママガニの成長と食性. 沖縄生物学学会誌. (48): 101-106	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
小菅丈治. 1999. 西表島におけるシマノコノ成長. 沖縄生物学学会誌. (37): 21-27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
小菅丈治. 2011. 西表島後良川におけるチゴカニの分布. 沖縄生物学学会誌. (49): 1-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	
小菅丈治. 2014. 石垣島におけるカラハシビン(甲殻類): 十脚目: 短尾目: カクレガニ科)のカワライ(軟体動物門: 二枚貝綱: ザルガイ科)への寄生状況. 沖縄生物学学会誌. (52): 59-64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6	0	0	0	
小菅丈治. 2009. 石垣島におけるハシミカクレガニの生態 一特に複数の動物門に属する無脊椎動物の巣穴内に生息する習性-. 沖縄生物学学会誌. (47): 3-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
小菅丈治. 2005. 石垣島におけるミナミテナガオサガニに寄生するオサガニヤドリガイの個体数と成長組成の季節変化. 沖縄生物学学会誌. (43): 21-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
小菅丈治. 2006. 石垣島宮良川河口に出現したキバミミナ. 沖縄生物学学会誌. (44): 35-37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
小菅丈治. 2002. 与那国島に移入された陸産貝類. 沖縄生物学学会誌. (40): 53-55	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小浜雄雄, 原口大. 2012. 2004年沖縄島南部におけるフタオチヨウの記録. 琉球の昆虫. (36): 60	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小浜雄雄, 原口大. 2015. 沖縄島南城市久手野でフタオチヨウを再確認(2012年3月). 琉球の昆虫. (39): 213	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小浜雄雄, 砂川博秋. 2015. 10日間で個体数が激減した宮古島のジャコウアゲハ. 琉球の昆虫. (39): 214	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小浜雄雄, 長田勝. 2014. 沖縄県恩納村のチョウ目相. 琉球の昆虫. (38): 206-219	0	0	0	0	0	0	640	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小浜雄雄, 長田勝, 高原建二, 比嘉美野. 2016. 読谷村長田川上流域で確認したトンボ. 琉球の昆虫. (40): 8-10	0	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小浜雄雄, 長田勝, 比嘉正一, 比嘉美野. 2012. 恩納村のコンハチヨウの記録. 琉球の昆虫. (36): 62-65	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小浜雄雄, 長田勝. 2012. 慶良間諸島阿嘉島と豊留開島のトンボ. 琉球の昆虫. (36): 32-34	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小浜雄雄, 比嘉美野. 2015. 沖縄県伊平屋島のトンボ2014年9月の記録. 琉球の昆虫. (39): 62-65	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小浜雄雄, 長田勝. 2014. 第3章 恩納村の動物 恩納村の昆虫相. 恩納村誌 第1巻 自然編: 341-426	0	0	0	0	0	0	230	148	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小浜雄雄. 2004. 菓園島のトンボ類の記録. 琉球の昆虫. (24): 41	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小浜雄雄. 2007. 菓園島未記録のトンボ4種. 琉球の昆虫. (31): 89-90	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小浜雄雄. 1985. 沖縄県産トンボ類目録. 琉球の昆虫. (10): 30-41	0	0	0	0	0	0	135	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

表 4-5-1 (3). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山
Tetsuroh ISHIKAWA, Katsunori TACHIYAMA. 2008. Age, growth and maturation of the redbelly tilapia <i>Tilapia zillii</i> introduced into the Haebaru Reservoir on Okinawa-jima Island. Fisheries Science. 74(3): 527-532	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Tetsuroh Ishikawa, Katsunori Tachihara. 2010. Life history of the nonnative convict cichlid <i>Amatitlania nigrofasciata</i> in the Haebaru Reservoir on Okinawa-jima Island, Japan. Environmental Biology of Fishes., 88: 283-292	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Tetsuroh Ishikawa, Tamaki Shimose, Katsunori Tachihara. 2013. Life history of an invasive and unexploited population of Nile tilapia (<i>Oreochromis niloticus</i>) and geographical variation across its native and non-native ranges. Environmental Biology of Fishes. 96: 603-616	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Uehara, M and K. Tachihara. 2015. Reproductive traits of the western Pacific gizzard shad <i>Nematalosa come</i> : implications for conservation and management in a population at its distributional margin. Environmental Biology of Fishes. 98: 1-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
Uehara, M. and K. Tachihara. 2012. Reproductive biology of Japanese gizzard shad (<i>Nematalosa japonica</i>) in coastal waters around Okinawa Island, Ryukyu Archipelago, southwestern Japan. Ichthyological Research. 59: 314-322	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
Uehara, M., F. Kashiwagi, H. Imai and K. Tachihara. 2011. Biological traits of naturally induced hybrid individuals of two gizzard shads, <i>Nematalosa come</i> and <i>N. japonica</i> , in coastal waters around Okinawa Island, Ryukyu Archipelago, southwestern Japan. Ichthyological Research. 58: 344-349	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
Worawit Maneepitaksanti, Kazuya Nagasawa. 2012. Monogeneans of <i>Cyathostomum</i> Paperma, 1960 (Dactylogyridae), gill parasites of tilapias, from Okinawa Prefecture, Japan. Biogeography. 14: 111-119	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Yuichi Kano, Shin Nishida, Jun Nakajima. 2012. Waterfalls drive parallel evolution in a freshwater goby. Ecology and Evolution. 2: 1805-1817	0	0	0	0	104	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
Yukio Iwatsuki, Masayuki Kume, Tetsuo Yoshino. 2010. A New Species, <i>Acanthopagrus pacificus</i> from the Western Pacific (Pisces, Sparidae). Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology. 36(4): 115-130	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0
Aleluia Taise, 須田彰一郎. 2015. 沖縄島沿岸の底生珪藻の出現記録. 沖縄生物学会誌. (55): 23-30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68	0	0	0	0
Atsushi Nanami, Moritaka Nishihira. 2002. The structures and dynamics of fish communities in an Okinawan coral reef: effects of coral-based habitat structures at sites with rocky and sandy sea bottoms. Environmental biology of fishes. 63: 353-372	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	191	0	0	0	0	0	0
Beringer, G. 1976. Additions to the List of Okinawa Birds. Japanese Journal of Ornithology. 25: 116-117	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Brazil, M. and P. Snetsinger. 1991. The Little Gull <i>Larus minutus</i> in Japan. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 20: 80-82	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Brazil, M., H. Ikenaga. 1987. The Amami Woodcock <i>Scolopax mira</i> : its identity and identification. Forktail. 3: 3-16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Cogswell, H. 1948. Summer Observations of Birds of Okinawa, Ryukyu Islands. Condor. 50: 16-25	0	120	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ezaki, Y and Z. Miyara. 1995. Wintering of Oriental White Storks in Yonaguni Island, the Westernmost Japan. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 27: 92-97	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Katsunori TACHIYAMA, Kohei NAKAO, Keishi TOKUNAGA, Yuko TSUJIKAWA, Mikumi TAKADA, Tamaki SHIMOSE. 2003. Ichthyofauna in Mangrove Estuaries of the Okinawa, Miyako, Ishigaki and Iriomote Islands during August from 2000 to 2002. Bulletin of the Society of Sea Water Science, Japan. 57: 481-490	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	0	0	0	0	0
Kohno H, Abe N, Mano T. 1986. Chick mortality of the Sooty Tern <i>Sterna fuscata</i> caused by Typhoon-8211 on Nakamakami-shima, South Ryukyu, Japan. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 18: 41-50	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
McCosker John E, Hataoka Kiyotaka, Sasaki Kunio and Moyer Jack T. 1984. Japanese moray eels of the genus <i>Uropterygius</i> . Japanese journal of ichthyology. 31(3): 261-267	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
McWhirter, D. 1985. Records of Pectoral Sandpiper (<i>Calidris melanotos</i>) for Okinawa Prefecture. Strix. 4: 57-60	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
McWhirter, D. 1985. 沖縄における鳥類の繁殖観察. Japanese Journal of Ornithology. 33: 123-125	0	74	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Nakamura, Y., & Tsuchiya, M. 2008. Spatial and temporal patterns of seagrass habitat use by fishes at the Ryukyu Islands, Japan. Estuarine, Coastal and Shelf Science. 76(2): 345-356	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0
Nanjo, K., Kohno, H. & Sano, M. 2008. Food habits of fishes in the mangrove estuary of Urauchi River, Iriomote Island, southern Japan. Fisheries Science. 74: 1024-1033	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	65	0	0	0	0	0	0
Naomasa Kawashima, Jack T. Moyer. 1982. 琉球列島から得られたオキスズメダカ <i>Pristotis jerdoni</i> とコハスズメダカ <i>Pomacentrus vaiuli</i> . 魚類学雑誌. 29: 260-266	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
NPO 法人コーラル沖縄. 2009. 中城港海浜地区第1区域サンゴ移植報告書について: 1-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0
NPO法人ホテルとサンゴの島から. 2014. 平成25年度キクザトサワヘビ生息環境等調査業務報告書: 63p	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0
NPO法人ホテルとサンゴの島から. 2015. 平成26年度キクザトサワヘビ生息環境等調査業務報告書: 73p	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	94	0	0	0	0	0	0
TETSUJI NAKABO. 1983. REVISION OF THE DRAGONETS (PISCES: CALLIONYMIDAE) FOUND IN THE WATERS OF JAPAN. PUBLICATIONS OF THE SETO MARINE BIOLOGICAL LABORATORY. 27(4-6): 193-259	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
Tetsuo Takara, Nagahisa Kuroda. 1969. 琉球における未記録種および稀種. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 5: 547-562	0	145	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1986. Strix Field Note. Strix. 5: 89-98	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1987. Strix Field Note. Strix. 6: 110-118	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1989. Strix Field Note. Strix. 8: 347-349	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1990. Strix Field Note. Strix. 9: 265-268	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1991. Strix Field Note. Strix. 10: 315-318	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1993. Strix Field Note. Strix. 12: 259-264	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1994. Strix Field Note. Strix. 13: 265-274	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1996. 野鳥情報・観察記録 1994.8-1995.7. Strix. 14: 205-211	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
WWFJ. 2009. 南西諸島生物多様性評価プロジェクト フィールド調査報告書: 1-242	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	43	0	0	0
Yamashina, Y. and T. Mano. 1981. A New Species of Rail from Okinawa Island. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 13: 147-152	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Yossi Loya, 齋井一彦. 2008. クサゼライ科サンゴの性転換. 琉球大学21世紀COEプログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」平成19年度成果発表会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
Yukio Iwatsuki, Seishi Kimura, Tetsuo Yoshino. 2007. A review of the Genres <i>subfasciatus</i> complex from the Indo-West Pacific, with three new species (Perciformes: Gerreidae). Ichthyological research. 54: 168-185	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
いであ株式会社. 2011. 平成22年度慶良間地域周辺海域海草分布調査業務報告書: 49p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	0	0	0
カラ・カリスト地域学術調査委員会. 2007. カラ・カリスト地域における絶滅危惧種コウモリ類の生育実態調査 (2007年6月)報告: 42742	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ダグラス・マックウィーター. 池長裕史, 五百沢日丸, 庄山守, 高原健二. 1996. 最近の生息状況と参考記録を含めた沖縄県産鳥類目録. 沖縄県立博物館紀要. 22: 33-152	0	373	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
チーム美らサンゴ. 2010. 万座周辺のサンゴ観察報告(万座, 平成21年9月): 1-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0
竹マハリゾート株式会社. 1997. (仮称)はるふるゴルフ場開発計画に係る環境影響評価書 評価書: 750p	16	75	9	13	0	1,807	130	43	0	118	23	460	0	183	0	0	0
安座間安史, 島袋健二, 島袋徳正. 1989. 特殊鳥類等生息調査及びノグチゲラの営巣木調査. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅱ中間報告書: 99-122	0	103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安座間安史, 島袋徳正. 1996. 大園林道(沖縄島ヤンブシメ地域)における倒壊落下動物一斉調査-倒壊設置状況からみた小動物の落下状況の分析-. 沖縄生物教育研究会誌. (28): 3-12	0	0	24	15	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
安座間安史, 島袋健二, 高原健二. 1990. 辺野谷ダム・照山山周辺のノグチゲラ生息環境調査. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅲ中間報告書: 110-124	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安座間安史, 島袋徳正. 1984. ノグチゲラの育雛活動について. 沖縄生物学会誌. (22): 79-90	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安田 富士郎, 富永 義昭. 1970. 三宅島および沖縄本島から得られたキンチャクダイ類の二新種. 魚類学雑誌. 17: 141-151	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

表 4-5-1 (12). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生昆虫類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海深草類	海水甲殻類		サンゴ	本島
小浜雄雄. 2015. 沖縄諸島伊平屋島・野南島のチョウ2014年9月の記録. 琉球の昆虫. (39): 206-207	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2016. 沖縄諸島宮城島でウミアカトンボを自撃. 琉球の昆虫. (40): 12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2014. 沖縄諸島水納島で確認したチョウ(2013年). 琉球の昆虫. (38): 63-65	0	0	0	0	0	0	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2014. 沖縄島恩納村でスナアカネを採集. 琉球の昆虫. (38): 165	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2016. 沖縄島糸満市でスナアカネ1♂を自撃. 琉球の昆虫. (40): 12-13	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2012. 久米島で2011年9月に採集したアジアイトトンボ. 琉球の昆虫. (36): 36	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2016. 宮古諸島伊良部島のトンボ1995年8月の記録. 琉球の昆虫. (40): 3	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2008. 慶良間諸島座間味島のトンボ. 琉球の昆虫. (32): 20-22	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 1999. 黒島でマル(ネル)リマダラを採集. 琉球の昆虫. (20): 53	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2007. 座間味島のオオシオカラトンボの記録. 琉球の昆虫. (31): 89	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 1999. 那覇市でスジグロカ/マダラを採集. 琉球の昆虫. (20): 50	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2016. 那覇市金城ダムでシオカラトンボを自撃. 琉球の昆虫. (40): 11-12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 1988. 南大東島のトンボ. 琉球の昆虫. (13): 132-133	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2012. 八重山諸島バナリ下地島. 琉球の昆虫. (36): 57-58	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2003. 八重山諸島黒島のトンボ類. 琉球の昆虫. (23): 81	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2016. 八重山諸島小浜島のトンボ1999年の記録. 琉球の昆虫. (40): 2	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2012. 八重山諸島小浜島のトンボ2011年6月の記録. 琉球の昆虫. (36): 30-32	0	0	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 2016. 八重山諸島波照間島のトンボ1996年6月の記録. 琉球の昆虫. (40): 1	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小浜雄雄. 1978. リュウキュウグロトンボの日間活動と生体行動. 沖縄生物学会誌. (16): 23-27	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小柳悠二, 田村常雄, 辻明子, 長岡浩子, 前田喜四郎. 2013. 石垣島における洞穴棲コウモリ類三種の季節的ねぐらの分布-2001年から2004年の記録-. 東洋編纂研究所紀要. (9): 1-19	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小林峻, 井澤雅子, 傳田哲郎. 2010. オガサワラヤマモリノグツウにおける採集行動. Akamata. 21: 1-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松井安俊, 松井英子. 1991. 冬の沖縄 石垣 竹富 各島でのアカタテハの生態調査から. 琉球の昆虫. (14): 1-3	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松井晋, 小林さやか, 高木昌興. 2011. 南大東島におけるスジグロカモメ <i>Larus saundersi</i> の記録. 日本鳥学会誌. 60: 262-265	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松井晋, 池田広志, 成瀬賢, 浅沼清, 高木昌興. 2007. 南大東島における淡水産コエビ類3種の初記録. 沖縄生物学会誌. (45): 33-37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
松浦啓一. 1988-1989. 北太平洋から初記録のカワハギ科魚類セツバハハギ(新種). 魚類学雑誌. 35: 482-483	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
松川康夫, 中田篤, 市川忠史, 下田徹. 1999. 沖縄におけるサンゴ4種の核酸比. 中央水産研究所研究報告. (14): 1-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
松本重剛. 2014. 沖縄本島北部におけるホリコジミの記録. 琉球の昆虫. (38): 51-52	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松本重剛. 2015. 海上を飛ぶカラスヤンマを自撃. 琉球の昆虫. (39): 68	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松本重剛, 内田謙三, 戸田実, 仲谷一宏. 2006. オオメジロガメ <i>Carcharhinus leucas</i> の日本の周辺海域および淡水域からの記録. 魚類学雑誌. 53(2): 181-187	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 佐藤民樹, 岡崎幹人. 2007. 南大東島でアジアイトトンボを採集. 琉球の昆虫. (31): 88	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 小浜雄雄. 2002. 沖縄県産トンボ類分布資料. 琉球の昆虫. (21): 1-22	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 小浜雄雄. 1999. 沖縄県産トンボ類分布資料・補遺. 琉球の昆虫. (20): 25-35	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 小浜雄雄. 2007. 糸満市(沖縄島)でコフキトンボを採集. 琉球の昆虫. (31): 85	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 渡辺賢一. 2007. 沖縄県におけるアオモイトンボ同色型♀の観察・採集例. 琉球の昆虫. (31): 83	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 渡辺賢一. 2005. 渡名喜島のチョウの記録. 琉球の昆虫. (27): 23	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 片野茂樹. 2011. 沖縄島におけるオセアニアハネビロトンボの記録(デングシハネビロトンボの記録の訂正). 琉球の昆虫. (35): 67	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 1999. 1998年 沖縄島のアジアイトトンボについて. 琉球の昆虫. (20): 54	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2008. 2007年秋の飛来アカトンボ. 琉球の昆虫. (32): 23	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2014. アサキマダラマーキング個体の再捕獲データ. 琉球の昆虫. (38): 43	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2003. オオギンヤンマの11月の記録. 琉球の昆虫. (22): 55	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2006. オキナワトグロトンボの雄雌同異型について. 琉球の昆虫. (28): 1-14	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 1993. コモンヒメハネビロトンボの12月の記録. 琉球の昆虫. (15): 28	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2003. ヒメイトンボ白粉型の記録. 琉球の昆虫. (23): 49	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 1998. 伊平屋島7月のトンボ. 琉球の昆虫. (18): 36-37	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2003. 伊平屋島のリュウキュウリモンボの記録. 琉球の昆虫. (23): 49	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2011. 沖縄島の離島における自撃記録しかなかったトンボの採集記録. 琉球の昆虫. (35): 71	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 1998. 沖縄島. 名護市でベニモンアゲハを採集. 琉球の昆虫. (19): 43	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2007. 沖縄島. 伊平屋島でアオモイトンボ同色型♀を採集. 琉球の昆虫. (31): 87	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2012. 沖縄島で確認されたアジアイトトンボについて(2011年). 琉球の昆虫. (36): 37	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2013. 沖縄島で確認されたアジアイトトンボについて(2012年). 琉球の昆虫. (37): 32	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2014. 沖縄島で確認されたアジアイトトンボについて(2013年). 琉球の昆虫. (38): 162	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2017. 沖縄島で確認されたアジアイトトンボについて(2016年). 琉球の昆虫. (41): 163	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2007. 沖縄島にコモンヒメハネビロトンボ定着か?. 琉球の昆虫. (31): 82	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2014. 沖縄島のウミアカトンボの記録(2013年). 琉球の昆虫. (38): 163	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2012. 沖縄島のウミアカトンボの記録. 琉球の昆虫. (36): 39	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2010. 恩納村でオキナワササヤンマを採集. 琉球の昆虫. (34): 42	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2011. 恩納村でオキナワヤンマを採集. 琉球の昆虫. (35): 69	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2011. 恩納村でコフキトンボを採集. 琉球の昆虫. (35): 70	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2004. 小浜島で採集したトンボ. 琉球の昆虫. (24): 71	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 1998. 石垣島及び西表島のタイワンアサギマダラの記録. 琉球の昆虫. (18): 38	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2009. 石垣島及び与那国島のアカトンボ属トンボの記録(2008年). 琉球の昆虫. (33): 14	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2007. 那覇のリュウキュウハグロトンボの記録. 琉球の昆虫. (31): 87	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2014. 那覇市でホリコジミを確認. 琉球の昆虫. (38): 53	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 1999. 那覇市の注目すべきトンボ数種の記録. 琉球の昆虫. (20): 51	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2004. 南風原町でコフキトンボを採集. 琉球の昆虫. (25): 51	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2009. 波照間島のトンボの記録. 琉球の昆虫. (33): 11-13	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2016. 本部町・南城市でスナアカネを採集(2015年). 琉球の昆虫. (40): 15	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2003. 与那国島でコモンヒメハネビロトンボを採集. 琉球の昆虫. (22): 37	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 1993. 与那国島の2月の蝶類採集記録. 琉球の昆虫. (15): 27	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎. 2003. 与那国島のヒメイトンボについて. 琉球の昆虫. (22): 36-37	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼田理一郎・林茂. 2010. 渡嘉敷島から未記録のトンボ3種の記録. 琉球の昆虫. (34): 44	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上山行哲, 仲宗根由英. 1988. 与那国島海岸におけるオカヤドカリ類の生態調査. 沖縄生物教育研究会誌. (21): 71-73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0
上原 匠人, 今井 秀行, 岩本 健輔, 太田 裕, 海老沢 明彦, 吉野 哲夫, 立原 一恵. 2015. ドクイ属2種の分布および生息環境. 魚類学雑誌. 62: 13-28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	0	0	0	0	0
上杉兼司, 渡辺賢一. 1987. ヤエヤマラサキの新食草の記録. 琉球の昆虫. (11): 21	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上杉兼司, 渡辺賢一. 1987. 南西諸島における春期のヒメアカタテハの生態. 琉球の昆虫. (11): 1-6	0	0	0	0	0	0	0	4	0								

表4-5-1 (13). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山
新城和治・宮城朝香・新島義隆・佐久本敏. 1984. 沖縄島の植物. 日本生物教育会沖縄大会沖縄の生物編集委員会(編), 全国大会記念誌, 沖縄の生物. 167-189	0	0	0	0	0	1,505	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新城和治・日越昭昭. 1988. 那覇市小浜金城公園(予定地)の植物. 沖縄県立博物館紀要. 14: 31-50	0	0	0	0	0	105	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新倉三佐雄, 中村一恵. 1987. 日本におけるアカガシラサギの分布と生息状況. Strix. 6: 50-65	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新田赤仁. 2002. 宜野湾市の鳥類. 宜野湾市史第9巻資料編8自然: 357-392	0	0	447	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新田敦子. 2006. 2005年秋. 渡嘉敷島でウスアオオカワラナミシジミを確認. 琉球の昆虫. (29): 34-35	0	0	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新田敦子. 2014. 2013年. 本部町水納島でホライコシジミを採集. 琉球の昆虫. (38): 53	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新田敦子. 2006. モクセンナでウラナミシロチョウが発生. 琉球の昆虫. (29): 33	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新田敦子. 2011. 沖縄県離島の蝶. 覚え書き. 琉球の昆虫. (35): 15-17	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新田敦子. 2009. 座間味島でクロゼリを撮影. 琉球の昆虫. (33): 54-55	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新田敦子. 2006. 比地川流域でのリュウキュウミズジ. 琉球の昆虫. (29): 35-36	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新納義馬. 1985. ヤンバルテナガコガネ生息地の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第26集, 西表島等天然記念物緊急調査IV, ヤンバルテナガコガネ実態調査報告書1: 21-26	0	0	0	0	0	0	237	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新納義馬. 1964. 高津宇岳と安和岳の植生. 沖縄農業. 3(1): 87-93	0	0	0	0	0	164	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新納義馬. 1981. 佐敷町の主な御嶽及び坪所の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第21集, 沖縄県社寺・御嶽林調査報告IV: 27-46	0	0	0	0	0	825	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新納義馬. 1975. 西表島東部の植生. 浅海における海中の生態系に関する研究調査報告書: 31-72	0	0	0	0	0	1,150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新納義馬. 1991. 第二章陸生植物 第一部中城町の植生. 中城町史第二巻 資料編1(地理・自然・政治行政・産業経済・移民). (2): 197-209	0	0	0	0	0	1,133	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新納義馬. 1965. 辺戸岬の植生. 沖縄生物学会誌. 2(3): 32-42	0	0	0	0	0	97	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新納義馬・新城和治・宮城朝香・日越昭昭. 1985. 沖縄県指定天然記念物「万座毛石灰岩植物群落」調査報告. 恩納村文化財調査報告書. 第6集: 64	0	0	0	0	0	893	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新納夫. 1970. 八重山群島の植生. 遷伝. 27: 2-9	0	0	0	0	0	5,745	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新里孝和・新本光孝・山盛道. 1993. 西表島における牧草地の植生と採食植物. 琉球大学農学部学術報告. 40: 153-165	0	0	0	0	0	439	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新里孝和・高原建二. 2002. 伊江島の植物図鑑	0	0	0	0	0	166	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新里孝和・比嘉寿. 1976. 北明治山の植物. 沖縄生物学会誌. (14): 99-110	0	0	0	0	0	373	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新里孝和・瀧坂安徳. 1979. 名護市の御嶽林. 名護市教育委員会社会教育課(編)名護市天然記念物調査報告2: 179p	0	0	0	0	0	1,940	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
森井隆三. 1975. 台湾・沖縄における翼手類の採集. 哺乳類動物学雑誌. 6(3): 121-126	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
森哲, 天野雅男, 太田英利. 1984. 八重山諸島・新城島のトカゲ類の分布に関する新知見. 沖縄生物学会誌. (22): 117-118	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
森田祐介, 越野一志, 山熊仁志. 2014. 渡嘉敷島におけるブロンズトキの記録. Bird Research. 10: S23-S24	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
深尾 隆三. 1990-1991. 沖縄県コケシホ風魚類とその生息場所. 37: 116-126	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
眞志嘉志子・新納義馬. 1988. 安波のサキシマズノワキ群落. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集, 国頭郡天然記念物緊急調査III: 85-95	0	0	0	0	0	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
真野敬. 2009. 日本におけるツバメ <i>Hirundo rustica</i> の換羽. 日本鳥類学協会誌. 21: 22-30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
真谷保江. 1980. 佐敷町御嶽山におけるハマシチョウの蝶の観察. 沖縄生物教育研究会誌. (13): 10-16	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神田 猛, 上原 聡, 瀧野 祐郎. 2009. 八重山諸島石垣島の陸水域魚類相. 宮崎大学農学部研究報告. 55: 13-24	0	0	0	0	126	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神前川原生命の星・地球博物館. 魚類写真資料データベース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,233	0	0	0	0	0	0
諏訪敏夫, 井口亮. 2008. 道徳サンゴに共生する褐虫藻の分子系統学的研究に関するレビュー(北西太平洋を中心に). 日本サンゴ礁学会誌. 10: 13-23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
水産無脊椎動物研究所. 水産無脊椎動物図鑑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0
水谷晃, 河野裕美. 2008. 琉球列島八重山諸島における2001年繁殖期のエリグロアシサシとヘニアシサシの現状. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 39: 101-111	0	174	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水谷晃, 村越末栄, 唐真盛人, 木村賢史, 北野忠, 河野裕美. 2010. 西表島西部の湿地環境における水鳥類相とその季節的消長. 沖縄生物学会誌. (48): 121-139	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水谷晃, 丹尾岳斗, 小菅文治, 河野裕美. 2012. 鳩間島におけるオオネオカイダカリの信鳥利用 一特に大型個体とチョウゼツザエの殻との関係-. 沖縄生物学会誌. (50): 73-81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
高原建二. 嘉手苧初子, 前原一統, 松田祐哉, 佐久田勇, 松田史郎. 1999. 久米島から最近新たに記録された鳥類. 沖縄県立博物館紀要. 25: 95-115	0	252	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 久貝勝盛, 瀬名波任. 1995. 久米島の鳥類について. 久米島総合調査報告書: 65-95	0	174	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 久貝勝盛, 瀬名波任. 1995. 最近(1994年4月~1995年3月)沖縄諸島で保護及び目撃された興味深い鳥類について. 沖縄県立博物館紀要. 21: 209-211	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 久貝勝盛, 瀬名波任. 1995. 那覇市天久で観察された鳥類(1). 沖縄県立博物館紀要. 21: 79-99	0	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 久貝勝盛, 大城亀徳. 1996. 最近(1995年4月~1996年3月)で目撃された興味深い鳥類について. 沖縄県立博物館紀要. 22: 173-178	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 砂川栄壽, 比嘉邦昭, 宮城朝香, 高良淳司, 金城輝男, 仲地邦博, 長瀬隆. 2008. 沖縄県内における 2003 年から 2006 年までの種多様な鳥類の飛来記録と希少な繁殖記録について. 南島文化. 30: 127-144	0	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 崎崎信, 高木昌興, 奥戸春夫, 山川雅之. 1999. 南大東島で最近新たに記録された鳥類について. 沖縄県立博物館紀要. 25: 75-93	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 池間幸男, 兼城亮男. 1995. 慶良間諸島の鳥類. 沖縄県立博物館紀要. 21: 101-128	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 池長裕史, 金城道男, 渡久地豊, 金城輝雄, 庄山守. 2000. 沖縄県内において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵標本等により確認された興味深い鳥類の記録について. 沖縄県立博物館紀要. 26: 27-46	0	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 中村和雄. 2004. 伊平屋島及び伊屋島島における鳥類記録について. 沖縄県立博物館紀要. 30: 1-25	0	292	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 中村和雄. 又吉盛泰. 2009. 要鳥島の鳥類. 地域研究. 5: 103-118	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 中村和雄. 2001. 南大東島の環境保全: 南大東島の鳥類とその保全. 沖縄大学地域研究所年報. 22: 25-28	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 瀬久地政武. 1997. 沖縄南部の市街地で繁殖する鳥類. 沖縄県立博物館紀要. 23: 33-54	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 島村修, 加治工真市. 1998. 波照間島で記録された鳥類とその方言名について. 波照間島総合調査報告書: 65-86	0	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 高良淳司, 安和守治, 天野洋祐. 2009. ミツユビカワセ <i>Ceyx entellus</i> の国内初記録. Japanese Journal of Ornithology. 58: 208-211	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 安座間安史. 1996. 大宜味村(沖縄島)の鳥類相とその生息状況について. 大宜味村の自然: 421-514	0	1,717	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 2002. 沖縄島で留鳥として生息する希少な33種の繁殖記録について. 沖縄県立博物館紀要. 28: 1-11	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 2001. 沖縄島中南部の市街地で繁殖したツミとリュウキュウサンショウウイの2種について. 沖縄県立博物館紀要. 27: 45-50	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 1994. 宜野湾市伊佐. 大山. 宇地泊周辺地域の鳥類と哺乳類. 沖縄県立博物館紀要. 20: 67-96	0	205	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 1994. 最近沖縄で目撃及び保護された興味深い鳥類. 沖縄県立博物館紀要. 20: 141-146	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 2004. 小浜島における鳥類の記録について. 小浜島総合調査報告書: 35-59	0	170	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 2001. 那覇市天久新都心開発地域の鳥類. 沖縄大学地域研究所年報. 15: 67-90	0	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原建二. 1993. 波照間島の鳥類と哺乳類. 沖縄県立博物館紀要. (19): 1-16	7	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
杉本雅志, 杉本まゆみ. 2012. ランタナの花を食べるアオタテハモドキ. 琉球の昆虫. (36): 140	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
杉本雅志. 2004. 2003年 カワカミシロチョウの確認データ. 琉球の昆虫. (24): 70	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
杉本雅志. 2014. シジューカラガリョウキュウサキヤマタラを捕食. 琉球の昆虫. (38): 205	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
菅沼孝之・内藤俊彦. 1976. 先島諸島の草地植生. 菅沼孝之(編)先島諸島南部(先島諸島)の草地生態に関する研究: 3-18	0	0	0	0	0	178	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
瀬能宏, 吉野哲夫, 矢野維機. 1987. 西表島で採集されたテッポウオ <i>Toxotes jaculator</i> . 魚類学雑誌. 34(2): 231-232	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
瀬能宏. 1997. ホラ科メダ属ヒルギメダ(新種)の再記載. 26: 51-55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
成瀬賢, 諸富田茂充. 2003. ワタリカニ類の標本. マレーヘニツケカニ(十脚目: 短尾亜目: ワタリカニ科)の沖縄島からの記録. 沖縄生物学会誌. (41): 43-49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
成瀬賢, 藤田久久, 近藤正義, 小淵正美. 2012. 沖縄島より採集されたクメジマドウクツガザミ(甲殻門十脚目: 短尾目: ワタリカニ科). 沖縄生物学会誌. (50): 67-71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
清水崇利. 2003. 南大東島の自然 もう一つの大洋島の視点から. 地域学研究. (16): 9-32	0	0	0	0	0	142	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表4-5-1 (14). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生昆蟲類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山
西垣孝治, 佐伯智史, 成瀬賢. 2011. 石垣島より採集された日本初記録のケブサシハラカニ属(新種)(甲殻門: 十脚目: 短尾下目: モクスガニ科)2種の記録. 沖縄生物学会誌. (49): 85-93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
西原史編集委員会. 1989. 西原の昆蟲. 西原史. 第4巻(資料編3): 1203p	0	0	0	0	17	0	0	19	2	4	1	0	1	0	0	0	0
西川昭, 中島祐一, 長田智史, 瀧井一彦. 2007. 琉球列島における幼生保育型サンゴ Seriatopora hystrix の遺伝的集団構造. 琉球大学21世紀プログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」平成18年度成果発表会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
西村昌彦. 2010. 沖縄県内の市町村が運用するハブ捕り罠の捕獲成績 3 一市町村ごと及び貝志川市(現うるま市)における1台ごとのハブとアカマタの捕獲結果 - 沖縄県衛生環境研究報. 44: 37-44	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西村昌彦, 赤嶺博行. 2002. 沖縄県南部において1976年に逃亡後定着した侵入種キキシマハブの分散範囲-2002年時点の予備的な調査の結果. 沖縄県衛生環境研究報. 36: 89-92	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西村昌彦. 2010. 沖縄県内の市町村が運用するハブ捕り罠の捕獲成績 4 一浦添市, 貝志川市(現うるま市), 北中城村, 中城村におけるハブの捕獲地点 - 沖縄県衛生環境研究報. 44: 103-105	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西村昌彦. 1999. 沖縄県内の市町村が運用するハブ捕り罠の捕獲成績 1 - 1998年の資料を中心とした予報 - 沖縄県衛生環境研究報. 33: 133-138	0	0	0	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西村昌彦. 1990. 琉球列島におけるヘビの社会行動の自覚例1. 沖縄生物学会誌. (27): 47-51	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西村正賢. 2006. 沖縄県宮古島列島で採集した蝶類. 琉球の昆虫. (29): 36-34	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西田睦. 1986. 日本・琉球列島におけるアユの分子・形態および繁殖形質の地理的変異. 魚類学雑誌. 33(3): 232-248	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西田睦. 1988. 琉球列島より得られたアユの新亜種. 魚類学雑誌. 35(3): 236-242	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西平守孝. 2007. 沖縄県南部貝志渡海岸の海に於ける移植サンゴの生存と成長. 名桜大学総合研究. (11): 37-46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
西平守孝. 1985. ヒメイワカニによるヤマトウシオグモの捕食. 沖縄生物学会誌. (23): 39-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
西平守孝. 1986. 潮間帯に堆積した赤土のアマオブネによる除去について. 沖縄生物学会誌. (24): 69-70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
西里公作, 堀花武志, 洲津理恵, 本永明, 下地端純. 宮古島の湧水域環境保全を目指した研究 ~湧水域に生息する生物の保全を目指して~	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青木一幸. 2014. オーストラリアの島嶼系との記録. 琉球の昆虫. (38): 56	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青木一幸. 2009. アカシバツコウトンボとの記録. 琉球の昆虫. (33): 11	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青木一幸. 2012. リュウキュウムラサキの渡嘉敷島での記録. 琉球の昆虫. (36): 50	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青木一幸. 2017. ルリウラナミシジミの久米島での記録. 琉球の昆虫. (41): 158	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青柳亮. 2015. 沖縄諸島 葉国島の水生昆虫(トンボ・カメムシ・コウチュウ). 琉球の昆虫. (39): 40-44	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青柳亮. 2011. 沖縄島近海諸島(屋我地島・瀬底島・伊計島・浜比嘉島)の水生昆虫類. 琉球の昆虫. (35): 101-109	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青柳亮. 2013. 鹿野味島の水生昆虫(トンボ・カメムシ・コウチュウ). 琉球の昆虫. (37): 18-22	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青柳亮. 2012. 渡嘉敷島から初記録のトンボ・チョウ. 琉球の昆虫. (36): 41-42	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青柳亮. 2013. 渡嘉敷島の水生昆虫(トンボ・カメムシ・コウチュウ). 琉球の昆虫. (37): 23-29	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青柳亮. 2015. 鹿野味島阿高島. 並びに久米島からのシロアガエルの初記録. Akamata. 25: 28-30	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青柳亮. 2015. 沖縄県南部地域におけるリュウキュウコケラの繁殖記録. 沖縄生物学会誌. (53): 85-87	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青柳亮. 2016. 多良間島からのミナミシジミの初記録. Akamata. 26: 33-34	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青柳亮. 1942. 琉球糸満港内の珊瑚砂洲に見られる小瀬浦の魚相に就て 附一ハセ科魚類の種目性徴. 動物学雑誌. 54(4): 144-149	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0
齊藤基樹. 2006. イワカワシジミの成虫の興味深い生態. 琉球の昆虫. (28): 47	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
齊藤基樹. 2006. シルビアンシジミの稀奇な異常型. 琉球の昆虫. (28): 46	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
斎藤文保. 2006. 伊平屋島の小動物(2001~2005年の自覚記録). 琉球の昆虫. (29): 1-14	0	0	0	0	0	0	89	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0
斎藤文保. 2006. 渡嘉敷島の小動物(2001~2005年までの自覚記録). 琉球の昆虫. (29): 15-32	0	0	0	0	0	0	217	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石垣市建設部 都市建設課. 2017. 平成28年度平久保半島工ロード整備調査事業に係る環境基礎調査業務委託報告書	22	88	8	27	23	233	0	29	8	47	4	9	0	33	0	0	0
石川市教育委員会. 2005. 石川市の植物	0	0	0	0	0	422	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石川哲郎, 阿部慎太郎, 早瀬川直充, 高柳清明, 今村勝, 西平明彦, 富峯美奈子. 2011. 沖縄島における外来種グリーンアノールの分布. 沖縄生物学会誌. (49): 9-13	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石川哲郎, 阿部慎太郎, 早瀬川直充, 高柳清明, 三原正法, 新川織江. 2012. 沖縄県南部における粘着トラップを用いた外来種グリーンアノールの防除および消滅される小型脊椎動物への影響評価. 沖縄生物学会誌. (50): 37-47	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石田仁. 1985. ハシブトガラスによるソテツの種子散布の観察. 沖縄生物学会誌. (23): 29-32	0	3	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石毛美子・伊澤雅子・上田恵子. 2002. 亜熱帯マングローブ林でのメシロを核にした混群形成. Strix. 20: 153-158	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤嶺博行, 西村昌彦. 1998. 沖縄島の本部半島東部におけるヘビの自覚と捕獲の頻度 - ハブの低頻度と侵入種の定着の可能性 - 沖縄生物学会誌. (36): 51-58	0	0	0	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雷野出, 鈴木淳, 川橋高, 塚本斉, Janice M. Lough, 中森亨, 中野義勝. 1999. 琉球列島瀬底島のハマサンゴ格骨を用いた水温復元: 水温指標として O ₂ Mg/Sr. 海の研究. 8(6): 399-409	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
雷野出. 2000. 琉球列島における高解像度サンゴ格骨記録に基づく環境復元. 博士論文: 328-332	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
千木良芳純 (沖縄県教育庁文化課). 2009. 嘉津宇岳周辺の両生爬虫類. 名護市天然記念物調査シリーズ. 第7集. 嘉津宇岳~嘉津宇岳・安和岳周辺の自然~ 名護市動植物総合調査報告書2005-2008: 135-171	0	0	132	111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千木良芳純, 島袋盛和. 1980. 渡那部島におけるイボイモリの側溝への落下について. 沖縄生物学会誌. (18): 45-49	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千木良芳純, 島袋盛和. 1982. 目撃観察によるヌマガエル個体群の季節的消長. 沖縄生物学会誌. (20): 11-15	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千木良芳純, 島袋盛和. 2007. 第4章 基地と自然. 基地の中の自然. 沖縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然編: 335-339	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千木良芳純. 2007. 第2章 残された自然. 沖縄市の両生爬虫類. 沖縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然編: 101-120	0	0	185	265	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千木良芳純. 2014. 第3章 恩納村の動物. 恩納村の両生爬虫類. 恩納村誌 第1巻 自然編: 453-490	0	0	140	169	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千木良芳純. 2007. 第3章 都市の中の自然. 移入動物の話. 沖縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然編: 325-333	0	0	0	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千木良芳純. 1997. 南風原町の哺乳類. 南風原町史 第2巻 自然・地理資料編: 143-149	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千木良芳純. 1989. 与那国島の陸上脊椎動物. 沖縄県立博物館総合調査報告書VI 与那国島: 25-38	2	28	2	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千木良芳純. 1988. 多良間島の両生爬虫類について - ヤキシマダラの採集例とヌマガエルの移入 -. 沖縄県立博物館紀要. 14: 51-56	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
尖閣諸島史料編集委員会. 2011. 対米協会助成シリーズ42 尖閣研究: 1-279	4	21	0	6	0	21	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0
川口四郎, 益田芳樹. 1978. 遠藤さんごキクメイシトキオウ <i>Oulastrea crispata</i> の造骨組織の電子顕微鏡的研究. 動物学雑誌. 87(4): 515-515	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
川上勲. 1996. 宮古の自然'95. 平良市総合博物館紀要. (3): 71-83	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川上勲. 1994. 宮古群島のキクマン類について. 平良市総合博物館紀要. (1): 81-87	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川上勲. 1999. 宮古島の自然'98. 平良市総合博物館紀要. (6): 79-90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川上和人, 田中聡. 2004. 沖縄県小浜島の路上におけるゴイサキの待ち伏せ型採食行動. 小浜島総合調査報告書: 61-64	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
魂見哲司. 1987. 石垣島採集記録(1984年3月). 琉球の昆虫. (11): 44-46	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
船越公威, 大沢夕志, 大沢啓子. 2006. 沖縄島周辺鳥類のオリオオコウモリ <i>Pteropus dasymallus inopinatus</i> の分布. 特に与論島における生息態様と若干の生態的知見について. 哺乳類科学. 46(1): 39-34	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前田喜四郎. 1993. ヤエヤマオコウモリの宮古島からの記録. 沖縄生物学会誌. (31): 63-65	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前田喜四郎, 松本年貴. 2004. 南西諸島西表島大富第一洞におけるカラコウモリ, <i>Hipposideros turpis</i> Bangs, 1901の最近10年間の個体数変化. 沖縄生物学会誌. (42): 57-60	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前田喜四郎. 赤澤泰, 松村澄子. 2001. 南西諸島徳之島におけるコウモリ類の生息態様およびコウモリの新記録. 東洋編研究紀要. (1): 1-9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前田喜四郎. 1996. 日本産翼手目(コウモリ類)の分類レビューと解説. 哺乳類科学. (36): 1-23	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前田喜四郎. 1984. 日本産翼手目の採集記録(1). 哺乳類科学. (49): 55-78	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前田喜四郎. 1986b. 日本産翼手目の採集記録(II). 哺乳類科学. (52): 79-97	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前田健, 山崎豊, 向井貴彦, 立原一恵. 2011. 沖縄島におけるミツシゴバハゼとマングローブマハゼの形態と生息環境. 魚類学雑誌. 58(2): 127-140	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0
前田健, 立原一恵. 2006. 沖縄島江間川の魚類相. 沖縄生物学会誌. (44): 7-25	0	0	0	0	0	99	0	0	0	260	0	0	0	0	0	0	0
前田喜男. 2015. ヤエヤマイシガメによるカエル幼生の捕食. 爬虫両棲類学会報. 2: 119-120	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前之園唯史, 戸田守. 2007. 琉球列島における両生類および陸生爬虫類の分布. Akamata. 18: 28-46	0	0	11	147	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 4-5-1 (15). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山
前泊豊光. 1973. 知念地区の植生. 沖縄生物教育研究会誌. 6: 29-47	0	0	0	0	0	1,258	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
倉田篤. 1966. 八重山群島西表島の鳥類. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 4: 358-370	0	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
堀元, 太田英利, 戸田光彦, 中島朋成, 編雅哉, 松本千枝子. 2005. 福留島におけるオオヒキガエルの侵入と生息状況. 爬虫両棲類学会報. 2: 173-179	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
堀野高司, 佐々木健志, 安川謙一郎. 1998. 沖縄島から採集されたクサガメ <i>Chinemys reevesii</i> (カメ目: バタグループカメ科). 沖縄生物学会誌. (36): 33-36	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村越正康. 1978. ヒメジャコウの発生. 沖縄生物学会誌. (16): 29-34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
村山望. 2016. 東村でワミアコトンボを確認. 琉球の昆虫. (40): 13	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多和田真博. 1933. 美東植物目録. 美東小学校区域域植物調査報告書. 40	0	0	0	0	0	2,174	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
太田英利, 山下晶子. 1985. オナダケヤモリ <i>Gehyra mutilata</i> (Wiegmann) の波照間島からの記録. 沖縄生物学会誌. (23): 33-34	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
太田英利, 藤井亮, 岡本卓, 定田努. 2004. 八重山諸島波照間島の外来性爬虫類に関する新発見およびこれまでに同島から報告された爬虫類の記録に関するコメント. 爬虫両棲類学会報. 2: 128-137	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
太田英利. 1981. 波照間島の爬虫両生類群. 爬虫両棲類学会報. 9(2): 54-60	0	0	5	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
太田英利. 1983. 八重山群島の爬虫両生類群 - I. 沖縄生物学会誌. (21): 13-19	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
太田格, 藤利洋. 2007. 名護湾周辺における沿岸性水産重要魚類の分布. 平成17年度沖縄県水産試験場事業報告書: 181-193	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	541	0	0	0	0	0	0
大宜味村教育委員会. 1995. 大宜味村の自然: 1-555	0	600	0	0	0	0	0	669	0	0	39	0	0	0	0	0	0
大見謝辰男. 2000. 沖縄県赤土汚染定点調査海域における白化後のサンゴ被覆状況. みどりいし. (11): 15-18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0
大城勝, 山城篤, 金城直樹, 宮城智浩. 1997. 羽地内海海岸におけるトビハゼ類の生息分布とすみ分け調査. 沖縄生物教育研究会誌. (29): 23-30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0
大城勝, 前田歩, 宮城美加代, 金城美香, 辺土名なおみ, 辺土名清美, 大嶺安子, 我那覇安江, 島袋牧, 稲福さゆり, 稲福美奈子, 崎原一美, 前田喜美子. 1989. 綾波川の魚類調査 - I: 河川閉塞と河川魚類の減少について. 沖縄生物教育研究会誌. (22): 23-31	0	0	0	0	68	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0
大城信弘, 西島信昇. 1978. 海におけるコシロヒ(ハゼ科)魚類の生息. 沖縄生物学会誌. (16): 17-22	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大城信弘, 大城勝, 西島信昇. 1976. 琉球列島産イソノボ科魚類22種の産卵場所と卵について. 沖縄生物学会誌. (14): 67-70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	0	0	0	0	0	0
大西敏一, 真木広彦. 2004. 沖縄県と那国島におけるカムリイオウチュウ <i>Dicurus hottentottus</i> の日本初記録. 日本鳥学会誌. 53: 47-48	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大沢啓子, 柴原建二, 山城正邦, 四方正良, 大沢夕志. 2013. 東国鳥ニオケルクビワオオコウモリ <i>Pteropus dasymallus</i> Temminck, 1825 (翼手目: オオコウモリ科) の初記録. Fauna Ryukyuan. 4: 5-7	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大谷力. 2004. 沖縄県石垣島におけるヤマカガシの観察記録. 日本鳥学会誌. 53: 104-106	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大嶋洋行. 1994. サンゴ礁海域内海洋牧場開発推進調査. 平成4年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0
大嶺隆雄, 中玉利澄男, 高嶺英恒. 1984. 国師村大園林道の道路側溝に落下した土壌動物相(予報). 沖縄生物学会誌. (22): 71-78	0	0	7	4	0	0	0	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大嶺隆雄. 1980. 沖縄本島中部(中城湾沿岸を中心とする)動物相概観-1975年3月調査より-. 沖縄大学紀要. 1: 137-181	0	3	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大嶺隆雄. 1975. 本部半島 動物相の第一次調査報告書-主として昆虫及びその他陸産小動物-. 沖大論叢: 81-96	0	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大嶺徹. 2001. 沖縄県北部古生層石炭層の植生と植物層	0	0	0	0	0	1,350	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大澤正幸, 長井隆, 成瀬賢. 2011. 琉球列島から採集されたカスリバンケイゴ(新種). 沖縄生物学会誌. (49): 37-47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
大澤正幸, 藤田喜久. 2005. 沖縄島からのヤエヤマヒメオカガの報告およびその生息場所について. 沖縄生物学会誌. (43): 59-63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0
沢田幸雄, 新井 良一, 阿部 宗明. 1972. 八重山群島より採集されたコバシハゼ属の新種, <i>Gobiodon okinawae</i> について. 魚類学雑誌. 19: 57-62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
沢田勇. 沖縄地方におけるコウモリの糸虫相. 学会(一般公開 生態 要旨)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
沢田勇. 1989. 糸虫相からみた対馬のコウモリ. 遷伝. 43(10): 78-85	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
棚原直雄. 2003. 沖縄島におけるアジサシ類の繁殖状況調査. 第18回(平成15年度)TaKaRaハーモニストバンド活動助成報告: 77-89	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
棚村大輔, 広瀬裕一. 2016. 沖縄県読谷郡の池に出現する後鰓類の季節変動. 沖縄生物学会誌. (54): 17-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	0	0	0	0	0	0
知念盛俊. 1966. 第二回八重山生物教材調査報告陸産魚の部. 沖縄生物教育研究会誌. (1): 141-154	0	0	0	0	0	0	0	31	0	0	2	0	0	0	0	0	0
知念盛俊. 1991. 第三章陸産動物 中城城跡と周辺の陸産魚類. 中城村史第二巻 資料編(地理・自然・政治行政・産業経済・移民). (2): 238-243	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	1	0	0	0	0	0	0
知念盛俊. 1965. 沖縄産陸産魚の採集と標本の作り方(1). 沖縄生物学会誌. 2(4): 77-88	0	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0
知念盛俊. 1979. 尖閣列島の陸産魚類. 沖縄生物学会誌. (17): 19-27	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	2	0	0	0	0	0	0
知念盛俊・池井正一・儀間一忠. 2004. 西原町の陸・淡水魚類. 西原町史刊行物 西原町の自然 ~動物・人と自然の関わり~: 79-90	0	0	0	0	0	0	0	189	0	0	5	0	0	0	0	0	0
池原直樹. 1993. 嘉手納軍基地弾薬庫周辺の植物. 沖縄生物教育研究会誌. 25: 29-41	0	0	0	0	0	4,180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
池原直樹. 1996. 金武町海岸植物調査報告書: 45p	0	0	0	0	0	572	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
池原直樹, 安部琢磨, 城福俊. 1978. 尖閣列島・南小島を訪ねて. 沖縄生物学会誌. (16): 39-44	0	10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
池原直樹. 1989. 沖縄県北部地域におけるノグチガヤ, ヤンバルクイナの生息分布について-総括-. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅱ 中間報告書: 183-188	0	173	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
池原直樹. 1988. 沖縄県北部と那覇島及びその周辺地域の鳥類調査結果. 特殊鳥類等生息環境調査中間報告書: 63-76	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
池長裕史, 川上和人, 柳澤紀夫. 2014. II. 日本鳥類目録改訂で「検討中」とした種および亜種について. 日本鳥学会誌. 63: 134-149	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
池長裕史, 川上和人, 柳澤紀夫. 2014. I. 日本鳥類目録改訂第7版で新たに掲載された種および亜種の記録等について. 日本鳥学会誌. 63: 96-149	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
池田雄. 2005. 水中コンクリートによるサンゴの移築工法の開発. ハマザ研究年報. 37: 1-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
池田善英. 1986. 北大東島で冬期に観察された鳥類. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 18: 68-70	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
竹中義, 皆藤琢磨, 戸田守. 2015. 小浜島におけるサキシマカナヘビの標本採集およびその他の爬虫類・両生類の記録. Akamata. 25: 36-40	0	0	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
竹島雅彦, 吉野哲夫. 1996. 沖縄島に帰化したナマズ目魚類 <i>Liposarcus disjunctive</i> の報告. 沖縄生物学会誌. (34): 35-41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0
竹内寛彦, 原村隆司. 2015. ヤエヤマヒバアによるオオハナサキガエルの捕食例. Akamata. 25: 15-16	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
竹内寛彦, 原村隆司. 2016. 河口域で発見されたオオヒキガエルの幼生. Akamata. 26: 8-10	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中須賢常. 1976. マングローブに関する研究 IV-(3) 宮古・八重山群島におけるマングローブの分布状況. 琉球大学農学部学術報告. 23: 339-364	0	0	0	0	0	131	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中須賢常. 坂内さおり. 2003. マングローブの分布と植生に関する研究マヤシキ林の林分構造. 平成14年度内閣府委託事業マングローブに関する調査研究報告書: 5-16	0	0	0	0	0	82	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中須賢常. 大山保夫. 春木雅寛. 1974. マングローブに関する研究 1. 日本におけるマングローブの分布. 日本生態学会誌. 24: 237-246	0	0	0	0	0	152	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中須賢常. 馬場繁幸・伊藤和昌. 1982. 沖縄の海岸林に関する研究(Ⅱ) 西表島船泊湾の海岸林. 琉球大学農学部学術報告. 29: 231-239	0	0	0	0	0	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中西崇. 2009. 石垣島の海岸帯で確認されたアオウミガメの食み跡. 沖縄生物学会誌. (47): 19-23	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中西希, 伊藤雅子. 2014. イリオモテヤマネコの山地帯における繁殖情報. 沖縄生物学会誌. (52): 45-51	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中山史, 崎原永輝, 島村均. 1983. シシガキ半島グロウモリの波照間島からの記録. 沖縄生物学会誌. (21): 3-5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中村泰之. 2010. ナミエガエリによるオキナワオガエリの捕食例. Akamata. 21: 7-8	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中村洋平. 2010. ウミシヨウブ塚の消失に伴う魚類群集構造の変化. 西表島研究: 18-22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	103	0	0	0	0	0	0	0
中島朋成, 戸田光彦, 青木正成, 編雅哉. 2005. 西表島におけるオオヒキガエリ対策事業について. 爬虫両棲類学会報. 2: 179-186	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中藤成美, 佐橋紀男, 加藤雅啓. 2002. <i>Thelypteris angustifrons</i> 倍体複合群(ヒメシダ科)の細胞分類学的解析. Acta phytotaxonomica et geobotanica. 53(1): 63-76	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 4-5-1 (17). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山
長嶺邦雄. 2008. 蝶の幼生期の記録(2007). 琉球の昆虫. (32): 80-87	0	0	0	0	0	0	174	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長嶺邦雄. 2009. 蝶の幼生期の記録(2008). 琉球の昆虫. (33): 60-65	0	0	0	0	0	0	104	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長嶺邦雄. 2010. 蝶の幼生期の記録(2009). 琉球の昆虫. (34): 66-70	0	0	0	0	0	0	169	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長嶺邦雄. 2013. 蝶の幼生期の記録(2012). 琉球の昆虫. (37): 85-91	0	0	0	0	0	0	140	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長嶺邦雄. 2014. 蝶の幼生期の記録(2013年). 琉球の昆虫. (38): 119-122	0	0	0	0	0	0	144	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長嶺邦雄. 1987. 渡嘉敷島の3月の蝶(1986年). 琉球の昆虫. (11): 37	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長嶺邦雄. 1999. 渡嘉敷島で見た蝶・トンボ・セミ(1996年). 琉球の昆虫. (20): 31-32	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長嶺邦雄. 1999. 船間島で見た蝶・トンボ・セミ(1996年). 琉球の昆虫. (20): 30	0	0	0	0	0	0	22	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長嶺邦雄. 1988. 与那国島のチョウ・トンボ類(1987年8月). 琉球の昆虫. (12): 41-45	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長嶺邦雄. 1970. 黒島の蝶類. 沖縄生物学会誌. 6(8): 37-39	0	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長嶺邦雄. 1964. 最近沖縄で記録された蝶数種について. 沖縄生物学会誌. 1(2): 80-82	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長嶺邦雄. 1967. 竹富島のヤマラシジミについて(1). 沖縄生物学会誌. 4(6): 30-34	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長嶺邦雄. 1966. 琉球列島から採集された蝶の数種について. 沖縄生物学会誌. 3(5): 36-37	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
扇羽達久. 2004. 渡嘉敷島のアマミタカホヘビ. 爬虫両棲類学会報. 1: 20-21	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
扇尾高志, 塩根朝理, 加藤憲一, 杉浦幸彦, 黒川忠之, 大野正博, 大城朝一, 新垣敏一. 2011. 河口閉塞による感潮域魚類相への影響. 応用生態工学. 13(2): 123-139	0	0	0	0	142	0	0	0	0	1,158	0	0	0	0	0	0	0
津波古光男・町田敏子. 2005. 北谷の植物. 北谷町史第1巻通史編. 83-108	0	0	0	0	0	4,087	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通事太郎, 庄山守, 亀崎直樹. 1994. 西表島における爬虫類, 鳥類, 哺乳類の路上死体の記録. 沖縄生物学会誌. (32): 43-48	0	78	0	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
天野正晴・高田圭・中村元紀・佐藤寛之・宮城直樹・立石庸一. 2012. 琉球大学千原構内に生育する野生維管束植物. 琉球大学教育学部紀要. 8: 333-354	0	0	0	0	0	1,650	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
天野正晴・大城(坂口)由希子・立石庸一. 沖縄県の離島・へき地における自然教育のための基礎資料の充実(5)南城市久島島の植物相. 琉球大学教育学部紀要. 81: 355-370	0	0	0	0	0	1,162	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
天野正晴・立石庸一・佐藤寛之・田場美沙. 2013. 沖縄県の離島・へき地における自然教育のための基礎資料の充実(6)うるま市津堅島の植物相. 琉球大学教育学部紀要. 83: 177-200	0	0	0	0	0	1,010	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
天野鉄夫. 1982. 知花グスクの植物. 沖縄自然研究会(編). 沖縄県自然環境保全地域指定候補地学術調査報告. 知花グスク・高場御嶽とその周辺地域. 5-17	0	0	0	0	0	195	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
天野鉄夫. 1982. 斎場御嶽及びその周辺の植物. 沖縄自然研究会(編). 沖縄県自然環境保全地域指定候補地学術調査報告. 知花グスク・高場御嶽とその周辺地域. 77-90	0	0	0	0	0	216	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田澤亮三. 2012. 石垣島での蝶類幼生期の記録. 琉球の昆虫. (36): 51-54	0	0	0	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田場美沙. 仲宗根真道, 清澤昇太, 富永篤. 2013. 流水環境で繁殖するリュウキュウカシカガエルの繁殖期の生態調査. 九州両生爬虫類研究会誌. 4: 68-70	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田谷谷生, 宮我部陽子, 原田綾華, 吉田文也, 三日月茜, 和田国明, 境寛, 前光弘, 桜谷保之. 2013. 沖縄県八重山諸島で記録された蝶類・両生類・爬虫類及び鳥類. 近畿大学農学部紀要. 46: 299-307	0	9	4	7	0	0	198	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田中聡. 高原建二. 2003. 先島諸島における野生化したインドクジャクの分布と現状について. 沖縄県立博物館紀要. 29: 19-24	0	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田中聡. 西平守孝. 1981. キノボリトカゲについての2, 3の観察. 沖縄生物学会誌. (19): 33-39	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田中聡. 2009. ヨナグニキノボリトカゲの生態について. 与那国島総合調査報告書 沖縄県立博物館・美術館 別冊. 13-22	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田中聡. 2004. 小浜島におけるインドクジャクの現状について. 小浜島総合調査報告書. 65-74	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田中聡. 1994. 瀬底島におけるイボイモリとシリケンイモリの生態についての予備的観察. 沖縄生物教育研究会誌. (26): 13-21	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田中聡. 1994. 瀬底島におけるイボイモリとシリケンイモリの生態についての予備的観察. 沖縄生物教育研究会誌. (26): 13-21	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田中聡. 1986. サキシマカナヘビの体温調節. 沖縄生物学会誌. (24): 39-41	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田中聡. 2004. 小浜島における両生爬虫類の現状について. 小浜島総合調査報告書. 21-33	0	0	0	12	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田中聡. 2006. シロアコガエリとオンナタケヤモリの池間島からの記録. 沖縄県立博物館紀要. 32: 1-3	0	0	4	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡嘉敷村史編集委員会. 1987. 第一編 渡嘉敷島の自然 第二節 淡水動物. 渡嘉敷村史 資料編: 13-42	0	0	0	0	27	0	0	0	10	38	2	3	0	6	0	0	0
渡久山肇, 川清永公, 新里孝和. 1998. 垂熱琉球石灰岩地域の照葉樹林におけるリターの研究. 琉球大学理学部紀要. 66: 39-62	0	0	0	0	0	358	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺賢一. 2012. 石垣島における蝶類幼生期の記録. 琉球の昆虫. (36): 54-55	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺賢一・田澤亮三. 2013. 石垣島でのスナアカナ大量飛来と定点観察. 琉球の昆虫. (37): 37-40	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺賢一. 2014. 2013年石垣島で採集されたオナアカナ. 琉球の昆虫. (38): 169	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺賢一. 2014. 2014年1月石垣島のプールで得られたウスバキトンボとスナアカナのヤゴ. 琉球の昆虫. (38): 170-171	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺賢一. 2015. 2015年2月石垣島のプールで得られたウスバキトンボとスナアカナのヤゴ. 琉球の昆虫. (39): 54-55	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺賢一. 2017. 2016年1月石垣島のプールで得られたウスバキトンボのヤゴ. 琉球の昆虫. (41): 166-167	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺賢一. 1977. アサヒナキマダラセリシの生活史. 沖縄生物教育研究会誌. (10): 45-49	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺賢一. 2015. ミナミトンボ産卵の観察例. 琉球の昆虫. (39): 57	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺賢一. 2015. フタナベシロガエリの産卵. 琉球の昆虫. (39): 55	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺賢一. 2017. 沖縄島でウスバキトンボのヤゴが越冬した記録. 琉球の昆虫. (41): 164-165	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺賢一. 2012. 西表島でアカシベコウツボの羽化を確認. 琉球の昆虫. (36): 141	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺賢一. 2015. 西表島におけるウミアカトンボの一記録. 琉球の昆虫. (39): 56	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺賢一. 2013. 石垣島でアカシベコウツボを採集. 琉球の昆虫. (37): 34-35	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺清. 1987. オオゴマダラの越冬の一形態に就いて. 琉球の昆虫. (11): 48	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡辺美節, 龍島恵介. 2016. 沖縄県与那国島におけるカワリサンゴチョウ Terpsiphone paradisi の観察記録. 日本鳥学会誌. 65: 43-45	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡邊謙太, 小淵正美, 山城秀之, 磯村尚子, 西原ひろ. 2011. 沖縄本島北部大浦湾周辺の自然と環境教育の試み. 平成22年度熊本大学総合技術研究会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
島袋敏一. 新城和治・横田昌嗣. 1990. 西表島崎山半島(船浮)の植物相. 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究. 37-80	0	0	0	0	0	912	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島袋敏二. 2007. クロノマチチョウの記録. 琉球の昆虫. (31): 22	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島袋敏二. 1985. リュウキュウラサキの幼虫サツマイモより採集. 琉球の昆虫. (10): 128	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島袋守成. 1978. 海浜植物の野外観察資料(1). 沖縄生物教育研究会誌. (11): 59-66	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島袋守成. 1986. 座喜味城跡の植物. 国指定史跡座喜味城跡環境整備事業報告書. 74-81	0	0	0	0	0	93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島袋守成. 1966. 八重山に於けるシダ植物の分布とその原因I. 沖縄生物教育研究会誌. (1): 161-178	0	0	0	0	0	83	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島袋守三, 野原朝秀, 初島彦彦, 天野鉄夫, 新納義馬, 新城和治, 高良鉄夫, 東清二, 池原貞雄, 新屋敷幸繁, 多和田眞淳. 1974. 久米島立公園候補地 学術調査報告. 沖縄自然研究会調査報告. (1): 110p	3	133	0	0	0	657	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島袋正徳. 2003. 植物群落の指導の工夫-石灰岩地と非石灰岩地の森林の種組成を通して-. 沖縄生物教育研究会誌. 35: 39-47	0	0	0	0	0	523	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島袋智, 金城元, 田場利恵子, 名護優子. 1984. 照間における野鳥の行動-海岸・水田・湿地での観察をとおして-. 沖縄生物教育研究会誌. (17): 35-36	0	129	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島袋徳正. 1989. 伐採が森林内部へ及ぼす影響(中間報告). 沖縄生物教育研究会誌. (22): 13-21	0	0	0	0	0	423	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島袋敏・新島義隆・新城和治・宮城康一・宮城朝章・真志嘉子・日越国昭・天藤敏男・新納義馬. 1988. 田港御嶽の植物群落. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集. 国領郡天然記念物調査報告書. 25-58	0	0	0	0	0	249	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島袋敏, 新城和治, 宮城朝章, 佐久本敏, 喜屋武一三六. 2007. 第2章 採集された自然 沖縄市の植生. 沖縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然編: 19-71	0	0	0	0	0	2,450	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島田和彦, 吉野 哲夫. 1984-1985. 八重山諸島から採集されたペレギンボウの1新種. 魚類学雑誌. 31: 15-19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
島田知彦. 2002. アカマダラとサキシママダラにおける死体食の例. 爬虫両棲類学会報. 1: 7-10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
崎津直彦, 河内紀浩. 2017. 外来種亜種ヤエマイシガメの多量個体における定着及び島内分布に関する報告. Fauna Ryukyuan. 36: 13-17	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
崎津直彦. 2014. 2004年夏に実施した調査による座間味島, 阿嘉島, 外島からの陸水動物の分布記録. Fauna Ryukyuan. 15: 1-4	0	0	3	1	5	0	0	0	0	9	6	0	0	0	0	0	0

表 4-5-1 (18). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数																地域	
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山	
嶋津信彦. 2015. 沖縄県安波川水系ヒジヤン沢におけるアメリカザリガニの単位努力量あたりの採集個体数の体長組成の経年変化. 沖縄生物学会誌. (53): 55-59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
嶋津信彦. 2014. 沖縄県国頭川水系薩波川において2013年8月に起きた魚類大量死により得られたオオウナギの個体数密度と全長組成. 沖縄生物学会誌. (52): 69-72	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
嶋津信彦. 2008. 沖縄県比嘉川に侵入したオオウナギの生態学的研究. 人と自然. 19: 35-41	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
東正雄, 東良雄, 平田義浩. 1992. 久米島の陸産貝類相. 貝類学雑誌VENUS. 50(4): 264-269	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当山昌直, 佐藤文保. 1985. ハーバートカゲの伊平屋島からの記録. 沖縄生物学会誌. (23): 25-27	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当山昌直, 千木良芳. 1997. 南風原町の両生類・爬虫類. 南風原町史 第2巻 自然・地理資料編: 161-174	0	0	18	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当山昌直. 1980. (特別寄稿) 南国島の陸上脊椎動物. 沖縄県立博物館総合調査報告書 1 南国島: 51-55	3	10	2	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当山昌直. 2004. 西原町の両生類・爬虫類. 西原町史付属刊行物 西原町の自然～動物・人と自然の関わり～: 19-34	0	0	0	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当山昌直. 1981. 渡名喜島の陸上脊椎動物. 沖縄県立博物館総合調査報告書 2 渡名喜島: 49-56	3	13	2	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当山昌直. 1976. 宮古群島の両生爬虫類相(Ⅰ). 爬虫両棲類学雑誌. 6(3): 64-74	0	0	0	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当山昌直. 1976. ミヤコトカゲの生息の確認. 沖縄生物学会誌. (14): 61-66	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当山昌直. 1981. 沖縄群島の両生爬虫類相(Ⅰ). 沖縄県立博物館紀要. 7: 1-8	0	0	0	20	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当山昌直. 1984. 沖縄群島の両生爬虫類相(Ⅱ)―渡嘉敷島・久米島―. 沖縄県立博物館紀要. 10: 25-36	0	0	7	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当山昌直. 2009. キウサツザウヘビ. 琉球大学資料館蔵タイプ標本目録. (1): 12	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
藤岡善三, 黒住前二. 1980. 尖閣列島の海産貝類. 沖縄生物学会誌. (18): 51-58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	253	0	0	0	0	0	
藤吉正明, 北野忠, 崎原健, 北條芳隆, 藤野裕弘, 河野裕美. 2014. 西表島の水田に生息する絶滅危惧植物種の分布. 沖縄生物学会誌. (52): 21-29	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
藤田喜久, 仲宗根一哉, 金城孝一, 玉城不二夫, 上野大輔. 2012. 久米島徳間川および白瀬川における河川環境と河川動物群集の現状. 久米島博物館紀要: 35-88	0	0	1	2	70	0	0	26	25	72	36	24	0	54	0	0	0	
藤田喜久, 北村崇明. 2010. 宮古島崎田川にて採集されたツノナガヌエビとセモクスズカニ. 宮古島市総合博物館紀要. (14): 115-121	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	3	0	0	0	
藤田喜久, 久保弘文. 2013. 宮古島尻マングローブ域で発見されたキバウミナニ(軟体動物門・腹足綱: キバウミナニ科). 沖縄生物学会誌. (51): 73-77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
藤田喜久, 砂川博秋. 2008. 多良間島の洞穴性および陸性十脚甲殻類. 宮古島市総合博物館紀要. (12): 53-80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	10	0	0	0	
藤田喜久. 2007. 宮古の湧水に生息する十脚甲殻類. 宮古島市総合博物館紀要. (11): 89-110	0	0	0	0	0	0	0	0	69	0	0	0	0	11	0	0	0	
藤田喜久. 2017. 宮古諸島水納島の十脚甲殻類相. 宮古島市博物館紀要. 21: 91-110	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	31	0	0	0	
藤田喜久. 2009. 宮古島におけるミヤコツウガニの新たな生息地について. 宮古島市総合博物館紀要. (13): 71-76	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	
藤田喜久. 2009. 宮古島のオカガニ類. 宮古島市総合博物館紀要. (13): 53-70	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	
藤田喜久. 2009. 宮古島から得られたキボリエビ. 沖縄生物学会誌. (47): 29-31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
藤田祐樹. 2009. アオアシナギとアマサキに見られる採食中の歩行動作. 沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要. 2: 1-4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
藤波不二雄. 1982. 春季の沖縄の野鳥. Strix. 1: 125	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構. 2007. 沖縄科学技術大学院大学(仮称)整備事業に係る環境影響評価書: 6冊	180	427	26	92	28	1,048	17	73	65	208	144	186	447	641	360	0	0	
読谷村 生活福祉部 健康環境課. 2014. 平成25年度 読谷村井原(カ)環境調査委託業務 報告書: 460p	0	0	23	91	44	2,855	279	109	70	59	0	24	20	17	0	0	0	
読谷村文化財保護委員会. 1980. 読谷の文化第2集植物編: 79	0	0	0	0	0	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
那覇市, 南風原町. 2002. 那覇市・南風原町ごみ処理施設事務組合ごみ処理施設整備事業に係る環境影響評価評価書. (V): 179-217	2	24	3	4	0	371	12	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
内閣府沖縄総合事務局国土交通省大坂航空局. 2013. 那覇空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書. 第二分冊: 6章	49	1,281	22	58	0	822	123	60	87	0	33	12	0	45	598	0	0	
内閣府沖縄総合事務局国土交通省大坂航空局. 2015. 那覇空港滑走路増設事業に係る事後調査報告書. 第6章	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	107	0	0	
南九州大学人間発達学部 遠藤研究室. 2012. 平成23年度 沖縄県島域における自然の保護活用促進のための調査(クマシカ生息状況調査)業務: 7p	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南風原町史編集委員会. 2000. 南風原町の植物. 南風原町史編集委員会(編), はらばらの自然と地理. 南風原町史第4巻, 自然地理本編: 159-180	0	0	0	0	0	1,143	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南條紳士, 加納光樹, 堀之内正博, 佐野光彦. 2010. 西表島浦内川のマングローブ域における魚類群集構造と環境特性. 東海大学海洋研究所研究報告. 31: 31-41	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	129	0	0	0	0	0	0	
南條紳士, 河野裕美, 中村洋平. 2012. マングローブの生育するエリアと生育しないエリアにおける魚類群集構造と餌資源量の違い. 西表島研究: 東海大学沖縄地域研究センター所報: 50-62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	201	0	0	0	0	0	0	
橋井喜久. 2006. 石垣市内のテングチョウの観察. 琉球の昆虫. (29): 42	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
橋井喜久, 橋井隆子. 2005. 伊江島, 瀬底島, 水納島における4月末日の蝶類の記録. 琉球の昆虫. (26): 39	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
橋井喜久, 橋井隆子. 2005. 慶留間島と外地島の蝶類. 琉球の昆虫. (26): 40	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
橋井喜久, 橋井隆子. 2006. 慶留間諸島慶留間島における5月の蝶類. 琉球の昆虫. (29): 40-41	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
橋井喜久, 橋井隆子. 2005. 渡嘉敷島の4月初旬の蝶類. 琉球の昆虫. (26): 39-40	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
橋井喜久, 橋井隆子. 2006. 渡嘉敷島の早春の蝶類. 甲虫と蝶. 琉球の昆虫. (28): 55-56	0	0	0	0	0	0	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
橋井喜久. 2009. クロマガラソテツジミの補間島の発生記録. 琉球の昆虫. (33): 58	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
橋井喜久. 2010. ナガンヌ島(チーピン)の蝶類. 琉球の昆虫. (34): 60	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
橋井喜久. 2005. 伊平屋島で2月に目撃した蝶類. 琉球の昆虫. (26): 38	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
橋井喜久. 2005. 慶留間島と外地島における7月の蝶類記録. 琉球の昆虫. (27): 24	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
橋井喜久. 2006. 慶留間島と屋基比島における7月下旬の蝶類の記録. 琉球の昆虫. (28): 41	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
橋井喜久. 1991. 浜比嘉島 敷地島の蝶類. 琉球の昆虫. (14): 21-22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
橋井喜久. 2005. 浮原島と南原島の蝶類の小記録. 琉球の昆虫. (26): 38	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日越国昭, 千木良芳. 1988. 辺野喜川上流における防風樹林帯の構造について. 沖縄生物教育研究会誌. (21): 58-69	0	0	0	0	0	239	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日越国昭, 島袋隆. 1972. 西表島仲間川のサガリバナ群落について. 沖縄生物教育研究会誌. (5): 36-44	0	0	0	0	0	393	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日越国昭. 1968. 今帰仁村諸志御殿の植生. 琉球大学生物クラブ誌. 10: 41-47	0	0	0	0	0	304	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日越国昭. 1988. 瀬底島の植生の概況. 沖縄県立博物館総合調査報告書 V 瀬底島: 7-22	0	0	0	0	0	645	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日越国昭. 1989. 辺野喜川上流における防風樹林帯の構造変化 I. 沖縄県立博物館紀要. 15: 23-35	0	0	0	0	0	239	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日越国昭・新城和治. 1987. 那覇市小孫金城谷村[上の毛]の植物. 沖縄県立博物館紀要. 13: 1-16	0	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日越国昭・新城和治・新島義隆・島袋隆・宮城朝章・宮城康一・真志喜文子・新納義馬. 1987. 沖縄県国頭地域の現存植生図. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第28集. 国頭郡天然記念物緊急調査 II: 12	0	0	0	0	0	2,555	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日越国昭・新城和治・新納義馬・宮城康一・新島義隆・島袋隆・宮城朝章・真志喜文子. 1988. 「安波のタナグムイの植物群落」の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集. 国頭郡天然記念物緊急調査 III: 1-24	0	0	0	0	0	190	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日越国昭, 島袋隆, 翁長文子, 島袋正俊, 天願敏男, 新城和治. 2014. 第2章 恩納村の植物. 恩納村誌 第1巻 自然編: 63-244	0	0	0	0	0	6,103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
農林水産省. 田んぼの生きもの調査	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
波戸岡清峰, 吉野哲夫. 1998. 西部太平洋域より得られたウミヘビ科魚類ハクテンウミヘビ属(新種)の2種(ウナギ目). Bulletin of the Osaka Museum of Natural History. 52: 21-30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
波戸岡清峰. 1996. 大阪市立自然史博物館蔵両生爬虫類模式標本目録. 大阪市立自然史博物館研究報告. 50: 17-43	0	0	0	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
梅原佑介, 大西敏一. 2012. 沖縄県と那覇島におけるチョウチャフ <i>Phylloscopus collybita tristis</i> の南西諸島初記録と国内における冬季の記録. 日本鳥学会誌. 61: 151-155	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
白井和伸. 1999. 1997年10月. 久米島の蝶類. 琉球の昆虫. (20): 32-33	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
白井和伸. 2014. 沖縄各地未記録のチョウの記録. 琉球の昆虫. (38): 61	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
白井和伸. 2016. 慶留間諸島慶留間島でヒメシラビアシジミを採集. 琉球の昆虫. (40): 102	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
八重山リゾート開発株式会社. 2005. 八重山リゾート開発計画に係る環境影響評価補正評価書	70	107	6	21	15	2,020	76	97	16	21	32	11	283	29	31	0	0	
板谷浩男, 有山智樹. 2015. 沖縄県と那覇島におけるキタヤナキムシ <i>Phylloscopus trochilus</i> の観察記録. 日本鳥学会誌. 64: 257-260	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
比嘉ヨシ子. 1998. 波照間島の小動物. 波照間島総合調査報告書 自然・歴史・民俗・考古・美術工芸 1998年: 32-64	0	0	0	0	0	0	22	4	19	13	0	0	0	0	0	0	0	

表 4-5-1 (19). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	海水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山
比嘉寿 新里孝和. 2003. 名護市の樹生と植物相. 名護市教育委員会文化財係(編), 名護市天然記念物調査シリーズ第5巻 名護市の自然, 名護市動植物総合調査報告書1988-2002: 49-139	0	0	0	0	0	883	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一, 小浜雄雄, 杉川博秋. 2015. 宮古島・糸島島9月の蝶類. 琉球の昆虫. (39): 156-159	0	0	0	0	0	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一, 小浜雄雄, 長田勝. 2013. コノハチョウの記録(2012年). 琉球の昆虫. (37): 137	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一, 野林千枝, 片野茂樹. 1998. 那覇市のトンボの記録(1996~1998年). 琉球の昆虫. (19): 33-37	0	0	0	0	0	0	155	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一, 野林千枝, 片野茂樹. 2003. 那覇市の蝶類の記録(1996-1998年). 琉球の昆虫. (23): 50-64	0	0	0	0	0	2,067	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2002. 2000年に沖縄島で記録した蝶. 琉球の昆虫. (21): 49-55	0	0	0	0	0	462	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2008. 2007年秋のマーキング調査報告. 琉球の昆虫. (32): 52-56	0	0	0	0	0	67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2009. アサギマダラのマーキング調査(2008). 琉球の昆虫. (33): 95-96	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2010. アサギマダラマーキング調査(2009). 琉球の昆虫. (34): 103	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2013. アサギマダラマーキング調査報告(2012年). 琉球の昆虫. (37): 136	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2014. アサギマダラマーキング調査報告(2013年). 琉球の昆虫. (38): 33-42	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 1991. カバマダラの幼虫をカクトロヒで見つけた. 琉球の昆虫. (14): 38-39	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2008. クロマダラソテツシミの異常型. 琉球の昆虫. (32): 117	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2017. シオカラトンボ. 中城公園での目撃メモ. 琉球の昆虫. (41): 162	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2006. ピンクシャワーからシオチョウ類3種が羽化. 琉球の昆虫. (29): 43	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2013. フタオチョウの記録(2012年). 琉球の昆虫. (37): 138	0	0	0	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 1988. 伊豆島島の蝶類報告(1987). 琉球の昆虫. (12): 65-67	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2013. 沖縄の蝶類の記録(2012年). 琉球の昆虫. (37): 109-135	0	0	0	0	0	2,928	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2014. 沖縄島の蝶類の記録(2013年). 琉球の昆虫. (38): 123-148	0	0	0	0	0	3,335	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2012. 沖縄島蝶類の記録(2011年). 琉球の昆虫. (36): 90-108	0	0	0	0	0	1,904	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 1988. 久高島の鳥類(1987). 琉球の昆虫. (12): 63-64	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 1988. 石垣島 竹富島の蝶類. 琉球の昆虫. (12): 71-73	0	0	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2005. 蝶の幼虫の捕食者. 2種の記録. 琉球の昆虫. (27): 12	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2003. 蝶類の記録(1997年. 1998年). 琉球の昆虫. (22): 12-22	0	0	0	0	0	654	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2003. 蝶類の記録(1999年). 琉球の昆虫. (22): 24-32	0	0	0	0	0	441	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2004. 蝶類の記録(2001年. 2002年). 琉球の昆虫. (24): 51-67	0	0	0	0	0	1,557	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2004. 蝶類の記録(2003年). 琉球の昆虫. (25): 39-51	0	0	0	0	0	1,157	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2005. 蝶類の記録(2004年). 琉球の昆虫. (26): 22-32	0	0	0	0	0	868	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2006. 蝶類の記録(2005年). 琉球の昆虫. (28): 30-41	0	0	0	0	0	930	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2007. 蝶類の記録(2006年). 琉球の昆虫. (31): 46-55	0	0	0	0	0	674	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2008. 蝶類の記録(2007年). 琉球の昆虫. (32): 104-116	0	0	0	0	0	1,141	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2009. 蝶類の記録(2008年). 琉球の昆虫. (33): 99-107	0	0	0	0	0	899	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2010. 蝶類の記録(2009年). 琉球の昆虫. (34): 104-108	0	0	0	0	0	846	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 2011. 蝶類の記録(2010年). 琉球の昆虫. (35): 25-31	0	0	0	0	0	1,609	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 1997. 東南植物楽園内の蝶 セミ トンボ(1990~1992). 琉球の昆虫. (17): 31-37	0	0	0	0	0	300	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉正一. 1993. 東南植物楽園内の蝶(1982~1983). 琉球の昆虫. (15): 60-72	0	0	0	0	0	1,372	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉寿, 若永洋志登, 若橋浩輔, 山本広美, 香村翼徳. 2015. 国指定天然記念物「堀川」(ヌガー)における植物の生育状況. 沖縄生物学会誌. (53): 65-76	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0
比嘉邦昭, 吉里伸, 池崎幸男, 仲本興明, 慶田城健仁, 又吉勇, 大城亀徳, 山城正邦, 又吉哲二, 北橋良子, 知念守. 1989. 西銘岳及びその周辺地域における鳥類分布調査. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅱ中間報告書: 123-182	0	598	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉邦昭, 慶田城健仁, 池崎幸男, 大城亀徳, 山城正邦, 吉里伸, 知念守. 1990. 照島山周辺におけるロードサイド及び定点調査による鳥類分布調査. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅲ中間報告書: 125-141	0	266	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比嘉邦昭, 池崎幸男, 大城亀徳, 慶田城健仁, 幸原建二. 1988. 与那覇岳及びその周辺地域におけるメッシュコードによる鳥類調査結果(中間報告). 特殊鳥類等生息環境調査Ⅲ中間報告書: 77-90	0	326	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肥後 伸夫. 1974. 潜水観察による人工漁礁の実態についてI: 沖縄県 勝連半島周辺海域の場合. 鹿児島大学水産学部紀要. 23: 19-28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0
尾崎清明, 馬場孝雄, 米田重玄, 金城道男, 渡久地豊, 原戸鉄二郎. 2002. ヤンバルクイナの生息地の減少. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 34: 136-144	0	165	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高永留. 2008. ヤクシマルシジミ幼虫を石垣島でマルヤマコノキから採取. 琉球の昆虫. (32): 96	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高永留, 松井正文, 中田勝士. 2015. ホルストカエリに見られる遺伝的多様性とその分布域変遷の推定. 九州両生爬虫類研究会誌. 6: 39-42	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高田峻平, 松崎智平, 岡 慎一郎, 戸田 実, 今井秀行. 2016. 絶滅危惧種タナゴモド半集団の高い遺伝的多様性と遺伝的均一性. 魚類学雑誌. 63: 27-32	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
坂下雅文. 1996. 日本におけるスグロカモメの生息記録. Strix. 14: 182-185	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
武田恵世. 1989. 日本列島におけるタカの渡り. Strix. 8: 35-123	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
飯部 昭尚. 1994. サンゴ礁におけるクマノミのグループ間移動と配偶者の獲得戦略. 魚類学雑誌. 41: 159-165	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
福家悠介. 2016. アカマタによるリュウキュウヤマメの捕食例. Akamata. 26: 3-7	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平岡 考. 1989. スグロヤシロチョウ <i>Pitta sordida</i> の日本初記録. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 21: 283-285	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平手康市, 下池和幸. 1995. 慶良間諸島阿嘉島において確認したタイマイ <i>Eretmochelys imbricata</i> (Linnaeus) の産卵. 沖縄生物学会誌. (33): 61-63	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平田眞弘. 1968. 沖縄産アオオプネ科について. 沖縄生物学会誌. 5(7): 35-36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
平田眞浩. 1989. 在野可産種子植物. 在野可産種子植物. 在野可産種子植物委員会(編), 佐敷町史3自然: 93-196	0	0	0	0	0	3,382	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平嶋健太郎, 立原一憲. 2000. 沖縄島に生息する中卵型ヨシノボリ2種の卵内発生および稚魚の成長に伴う形態変化. 魚類学雑誌. 47(1): 29-41	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平嶋健太郎, 立原一憲. 2006. 沖縄島源河川におけるヨシノボリ属魚類の分布と食性. 魚類学雑誌. 53(1): 71-76	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
片野茂樹. 1996. ツマムラサキマダラの観察. 琉球の昆虫. (16): 4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
片野茂樹. 1985. 石垣 ハナゴトで飛来した日々(1984年)クワダハモドキ ミナミコマダラ コモンマダラを採集. 琉球の昆虫. (10): 56-57	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊見山元, 仲田実, 播磨保治, 比嘉正一. 1987. ハブによるヤンバルクイナの捕食. 沖縄生物学会誌. (25): 57-58	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊見山元. 1990. 恩納岳と周辺地域のシダ植物. 沖縄生物教育研究会誌. 19: 31-33	0	0	0	0	0	221	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊見山元. 1995. 久米島のシダ植物. 久米島総合調査報告書 自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築 1994年: 12-25	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊見山元. 1998. 波照間島のシダ植物相. 波照間島総合調査報告書 自然・歴史・民俗・考古・美術工芸 1998年: 25-31	0	0	0	0	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊見山元. 1987. 琉球列島植物分布資料 4. 沖縄生物学会誌. (25): 59-61	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北浦純, 和田恵次. 2005. オサガニ類(スナガニ上科)における捕食・食行動. 沖縄生物学会誌. (43): 71-73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
北浦純, 和田恵次. 1999. 沖縄本島中城湾から本邦初記録されたミナミオサガニ(新種) <i>Macrophthalmus brevis</i> . 沖縄生物学会誌. (37): 57-60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
北村英明, 岡崎, 安谷昇昇. 2009. 4動物について. 東平安名崎根元周辺文化財及び自然環境調査報告書: 87-100	0	0	13	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北村英明. 2009. 地域の生物を生かした環境教育の実践 ~宮古島坂田川の水生物相(主に甲殻類・魚類・大型水生昆虫)を通して~. 沖生教研会誌. 41: 23-31	0	0	0	19	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0
北大東村誌編集委員会. 1986. 北大東島の主な現存樹種. 北大東村誌: 26-39	0	0	0	0	0	295	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
堀田政男. 1985. 伊豆島島のモンキチョウとフナシジミ. 琉球の昆虫. (10): 125-126	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
堀田政男. 1987. 八重山諸島の蝶1974年の採集記録. 琉球の昆虫. (11): 22-26	0	0	0	0	0	107	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
堀之内 正博, 中村 洋平, 佐野 光彦, 遊野 拓郎. 2005. 沖縄県石古権湖における海草藻場保全地域の選定に関する研究: どの海草藻場を保全すれば魚類の種多様性が維持できるか. 汽水域研究. 12: 63-67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77	0	0	0	0	0	0	0
本川雅治. 1997. 沖縄諸島におけるワタシネズミ <i>Crociudra watasei</i> Kuroda, 1924 (食虫目トガリネズミ科)の新産地と産数異常. 沖縄生物学会誌. (35): 43-46	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本村浩之, 吉野哲夫, 高村直人. 2004. 日本産フサカサゴ科オサガニ科魚類(Scorpenidae: Scorpaenopsis)の分類学的検討. 魚類学雑誌. 51(2): 89-115	0	0</															

表 4-5-1 (20). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数																地域	
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山	
又吉盛健, 大城信弘, 喜友名孝子, 平川裕, 三井興治, 鹿谷英子. 1977. 沖縄島におけるイボイモリの分布について. 沖縄生物学会誌. (15): 1-4	0	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
漢宗. 1976. 与那国島の陸産貝類群. 貝類学雑誌. 35(4): 163-183	0	0	0	0	0	0	0	0	55	0	0	5	0	0	0	0	0	
名護市教育委員会. 2009. 嘉津宇岳→嘉津宇岳・安和岳周辺の自然～名護市動植物総合調査報告書2005-2008. 名護市天然記念物調査シリーズ. 第7集: 1-208	0	138	134	105	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
名護市教育委員会. 2006. 名護市天然記念物調査シリーズ 第6集 名護岳: 1-214	0	49	53	2	0	0	32	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
名護市教育委員会. 1999. 名護市天然記念物調査報告書4 名護市動植物総合調査報告書 名護市の淡水魚類: 1-119	0	0	0	0	801	0	0	0	0	506	0	0	0	0	0	0	0	
名護市教育委員会社会教育課文化財係. 2003. 名護の自然. 第2集: 229p	0	0	12	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
名護アンソルガイドブック制作委員会. 2013. 第3編アンソルの生き物たち. 名護アンソルガイドブック: 18-92	0	166	6	6	3	0	38	0	4	14	0	27	0	34	0	0	0	
名波 敦, 西平 守孝. 2007. 沖縄海洋公園におけるサンゴ礁の魚類群. 沖縄生物学会誌. (45): 15-26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	0	
名和純. 2000. 沖縄県における干潟と低湿地の貝類の現状. 特殊鳥類等生息環境調査XI(改訂版) 湿地(水辺環境)編 総括→沖縄県内の水辺環境に生息する生物種の概要: 103-129	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	47	0	0	0	0	0	
明仁親王, 目黒 勝介. 1982-1983. 沖縄県で採集された新種 <i>Mysina nigrivirgata</i> クロヒハゼ. 魚類学雑誌. 29: 343-348	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
明仁親王, 目黒 勝介. 1978. 沖縄県石垣島で採集された日本初記録のハコロモハゼ(新種) <i>Mysina macrostoma</i> . 魚類学雑誌. 24: 295-299	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
明仁親王, 目黒勝介. 1979. <i>Sicydium</i> 属と <i>Sicyopterus</i> 属の相違について. 魚類学雑誌. 26(2): 192-202	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王, 目黒勝介. 1975. ナメラハゼについて. 魚類学雑誌. 22(2): 112-116	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王, 目黒勝介. 1975. ヒナハゼの学名について. 魚類学雑誌. 22(1): 49-52	0	0	0	0	8	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王, 目黒勝介. 1974. ホシマダラハゼ(新種) <i>Ophicarmis porocephala</i> とタメトモハゼ <i>Ophieleotris aporos</i> について. 魚類学雑誌. 21(2): 72-84	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王, 目黒勝介. 1975. 沖縄県産のスナゴビハゼ(新種) <i>Pseudogobius javanicus</i> について. 魚類学雑誌. 22(1): 46-48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王, 目黒勝介. 1975. 沖縄県産のハシマハゼ(新種) <i>Cryptocentroides insignis</i> について. 魚類学雑誌. 21(4): 231-232	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王, 目黒勝介. 1977. 沖縄県石垣島で採集された日本初記録のウチワハゼ(新種) <i>Mangarinus waerousi</i> . 魚類学雑誌. 24(3): 223-226	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王, 目黒勝介. 1975. 西表島で採れたイワハゼ(新種) <i>Glossogobius celebius</i> について. 魚類学雑誌. 21(4): 227-230	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王, 目黒勝介. 1977. 日本で採集されたオキナワハゼ属5種及びその種類関係. 魚類学雑誌. 24(2): 113-127	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王, 目黒勝介. 1980. 日本で採集されたクモハゼ属 <i>Bathygobius</i> 6種について. 魚類学雑誌. 27(3): 215-236	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王. 1963. ハゼ科魚類の肩甲骨について. 魚類学雑誌. 11(1/2): 1-26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王. 1971. ハゼ科魚類の上脛骨について. 魚類学雑誌. 18(2): 57-64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王. 1969. ハゼ科魚類の中翼状骨, 後鎖骨, 鰓条骨, 腹鱗, 肩胛骨, 眼下骨に基づく分類. 魚類学雑誌. 16(3): 93-114	0	0	0	0	3	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王. 1967. 続ハゼ科魚類の肩甲骨について. 魚類学雑誌. 14(4/6): 167-182	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	
明仁親王. 1967. 日本産ハゼ科魚類の肩甲骨の4種について. 魚類学雑誌. 14(4/6): 135-166	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
茂田良光, 尾崎清明. 1999. 標識調査で確認された日本新記録の鳥類 (1). 日本鳥類標識協会誌. 14(1): 1-9	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木寺法子, 下瀬環, 新盛雄史. 2016. 石垣島で観察された鳥類2種とヘビ類1種によるキノコウエトカガ <i>Plestiodon kishinouyei</i> (有様目: トカゲ科)の捕食. 沖縄生物学会誌. (54): 27-31	0	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木塚一夫. 1959. 奄美群島の爬虫・両棲相 (Ⅲ). 熊本大学教育学部紀要. 7: 187-202	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村正明, 杉本雅志, 稲田信司. 1999. 那覇市黄金塚の昆虫. 1996~97年の記録. 琉球の昆虫. (20): 40-50	0	0	0	0	0	0	66	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村正明, 杉本雅志, 稲田信司. 1999. 那覇市識名園の昆虫. 1996~97年の記録. 琉球の昆虫. (20): 34-39	0	0	0	0	0	0	12	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村正明, 杉本雅志, 稲田信司. 1998. 那覇市井ヶ岳公園の昆虫. 1996~1997年の記録. 琉球の昆虫. (19): 24-33	0	0	0	0	0	0	101	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村正明, 杉本雅志, 稲田信司. 1998. 那覇市末吉公園の昆虫. 1996~97年の記録. 琉球の昆虫. (18): 20-34	0	0	0	0	0	0	158	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村正明, 杉本雅志. 1996. キョウチクウからツマムラサキマダラの蛹を発見. 琉球の昆虫. (16): 4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村正明. 1996. 1993~1994年に久米島で確認した蝶の記録. 琉球の昆虫. (16): 17-20	0	0	0	0	0	0	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村正明. 1997. 1995年6月 尖閣諸島小島の昆虫(2). 琉球の昆虫. (17): 38	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村正明. 2004. 2003年 カワカミシロチョウの記録. 琉球の昆虫. (24): 70	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村正明. 2003. 2003年5月~6月 沖縄島におけるアサギマダラ・マーキングデータ. 琉球の昆虫. (23): 83	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村正明. 1998. ヒメイトトンボ, 石垣島の記録. 琉球の昆虫. (18): 39	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村正明. 2003. 浦添公園で実施した蝶のラインセンサス(2002年度). 琉球の昆虫. (22): 38-53	0	0	0	0	0	0	818	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村正明. 1998. 沖縄島, 大宜味村と宜野湾市におけるヘニモアガハの記録. 琉球の昆虫. (19): 43	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村正明. 1999. 沖縄島中部(名護市より南)のフタオチョウの記録. 琉球の昆虫. (20): 55	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木村清志, 佐土哲也, 岩槻幸雄, 吉野哲夫. 1999. 石垣島で採集された日本初記録のカタクチイシ科魚類 ヤエヤマアノコイシ(新種) <i>Stolephorus commersonii</i> . 魚類学雑誌. 46(1): 45-50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
野村恵一. 2000. 日本産アサギマダラ属のホビエの宿主と色彩変異. 沖縄生物学会誌. (38): 59-64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
野村謙一, 佐藤謙雄. 1963. 西表島の植生. 大阪市立大学八重山群島学術調査報告(編), 八重山群島学術調査報告	0	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝, 渡辺清. 1988. 短報2題. 琉球の昆虫. (12): 26	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 1996. 1990~94年沖縄島及び周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (16): 21-37	0	0	0	0	0	0	289	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 1998. 1995~96年沖縄島及び周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (18): 1-18	0	0	0	0	0	0	343	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 1996. 1995年のカワカミシロチョウの記録. 琉球の昆虫. (16): 8	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2002. 1997年 沖縄島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (21): 34-39	0	0	0	0	0	0	1,195	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2002. 1998年 沖縄島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (21): 40-48	0	0	0	0	0	0	2,471	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2003. 1999年の沖縄島および周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (22): 1-11	0	0	0	0	0	0	2,335	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2003. 2000~2001年 沖縄島及び周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (23): 65-79	0	0	0	0	0	0	3,321	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2004. 2002年 沖縄島及び周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (24): 42-50	0	0	0	0	0	0	1,641	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2004. 2003年 沖縄島及び周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (25): 29-38	0	0	0	0	0	0	2,685	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2004. 2003年沖縄島におけるカワカミシロチョウの記録. 琉球の昆虫. (24): 68-69	0	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2005. 2004年 沖縄島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (26): 14-21	0	0	0	0	0	0	2,114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2006. 2005年 沖縄島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (28): 42-45	0	0	0	0	0	0	707	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2006. 2005年・秋のアサギマダラ・マーキングの記録. 琉球の昆虫. (28): 1-8	0	0	0	0	0	0	80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2007. 2006年・沖縄島及び周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (31): 34-43	0	0	0	0	0	0	1,578	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2007. 2006年・秋のアサギマダラ・マーキングの記録. 琉球の昆虫. (31): 25-33	0	0	0	0	0	0	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2007. 2006年・春期のアサギマダラ・マーキングの記録. 琉球の昆虫. (31): 23-24	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2009. 2007・2008年 ウラギミシジミの記録. 琉球の昆虫. (33): 67-74	0	0	0	0	0	0	78	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2008. 2007年・アサギマダラ・マーキングの記録. 琉球の昆虫. (32): 45-51	0	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2008. 2007年・沖縄島および周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (32): 57-79	0	0	0	0	0	0	1,761	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2009. 2008年・沖縄島及び周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (33): 74-87	0	0	0	0	0	0	1,604	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2010. 2009年・沖縄島および周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (34): 71-82	0	0	0	0	0	0	1,227	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2010. 2009年・沖縄島のアサギマダラ・マーキングと蝶の廻りについて気儘に考えてみた. 琉球の昆虫. (34): 83-93	0	0	0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2011. 2010年・沖縄島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (35): 5-14	0	0	0	0	0	0	1,220	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2012. 2011年・沖縄島および周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (36): 111-121	0	0	0	0	0	0	1,104	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2013. 2012年・沖縄島および周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (37): 71-82	0	0	0	0	0	0	1,370	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
野村千枝. 2014. 2013年・アサギマダラのマーキング記録. 琉球の昆虫. (38): 45-																		

表 4-5-1 (21). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水産生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	海水甲殻類	サンゴ	八重山	本島
野林千枝. 1996. 沖縄島でウスコムンダラを採集. 琉球の昆虫. (16): 7	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野林千枝. 1996. 沖縄島でタイワンアオバセリを採集. 琉球の昆虫. (16): 7	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野林千枝. 1985. 沖縄島で採集した迷蝶3種. 琉球の昆虫. (10): 124	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野林千枝. 1993. 沖縄島の迷蝶2種. 琉球の昆虫. (15): 29-30	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野林千枝. 2002. 沖縄島南部のフタオチヨウの記録. 琉球の昆虫. (21): 22	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野林千枝. 2006. 嘉数高台公園に掛けたトラップで記録した昆虫類. 琉球の昆虫. (30): 38-39	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野林千枝. 1987. 蝶に関する短報4題. 琉球の昆虫. (11): 49	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
矢野晴. 飯田昌之. 1996. 慶良間列島阿嘉島に帰化したミナミシカマについて. みどりいし. (7): 25-27	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
矢野晴. 上田恵介. 2005. リュウキュウアカショウビンによる発泡スチロール製人工営巣木の利用. 日本鳥学会誌. 54: 49-52	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
柳谷和彦. 田中直美. 土屋誠. 1987. 沖縄県米須海岸におけるオカヤドカリ類の貝殻資源と行動. 沖縄生物学会誌. (25): 43-52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
友利博一. 梶原健次. 2009. 宮古島の礁原におけるサンゴ礁モニタリング. 宮古島市総合博物館紀要. (13): 77-86	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0
有限会社海海. 2011. 平成22年度西表石垣立公園海域公園地区モニタリング業務報告書: 170p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	330	40	64	2	418	0	0	0
有限会社海海. 2012. 平成23年度西表石垣立公園海域公園地区モニタリング業務報告書: 121p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	554	15	107	0	248	0	0	0
与那原正勝. 2014. ホトトギスをルリタハバが採食. 琉球の昆虫. (38): 65-66	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
与那原正勝. 1993. 南大東島で採集したチョウトンボ(1992年). 琉球の昆虫. (15): 26	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
与那城義春. 1998. キジバトの繁殖. 沖縄県立博物館紀要. 24: 69-74	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
与那城義春. 1999. セッカの繁殖. 沖縄県立博物館紀要. 25: 69-74	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
与那城義春. 2000. メジロの繁殖. 沖縄県立博物館紀要. 26: 21-26	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
与那城義春. 2004. 西原町の哺乳類・鳥類. 西原町史刊行物 西原町の自然 ~動物・人と自然の関わり~: 3-18	10	204	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
与那城義春. 2007. 第2章 残された自然 沖縄市の鳥類. 沖縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然編: 91-100	0	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
与那城義春. 1998. 波照間島の鳥類調査. 波照間島総合調査報告書: 87-95	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
与那城義春. 1971. リュウキュウヒヨドリノ活動時間と食性. 沖縄生物学会誌. 7(9): 38-40	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
菓田敬子. 2013. オキナエイシカワカエル <i>Odorrana ishikawae</i> の体色変異個体. 爬虫両棲類学会報. 2: 98-99	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
菓田敬子. 2013. ムカデによるクワイブカゲモドキの捕食例. 爬虫両棲類学会報. 2: 99-100	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
立原一憲. 中尾耕平. 徳永桂史. 津波古優子. 高田未来美. 下瀬誠. 2003. 沖縄島. 宮古島. 石垣島および西表島のマングロープ水域における魚類相. Bulletin of the Society of Sea Water Science, Japan. 57: 481-490	0	0	0	0	47	0	0	0	0	258	0	0	0	0	0	0	0
立原一憲. 中尾耕平. 徳永桂史. 津波古優子. 2002. マングロープ水域の魚類相 沖縄島慶佐次川のマングロープ水域に出現する魚類相. 平成13年度内閣府委託調査報告書 マングロープに関する調査研究報告書: 37-71	0	0	0	0	114	0	0	0	0	555	0	0	0	0	0	0	0
立原一憲. 琉球列島の中型魚ヨシノボリ属2種: 鳥嶺の河川で進化してきたヨシノボリ類の保全と将来. 魚類学雑誌. 56(1): 70-74	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
立松淳織. 南條紳士. 河野裕美. 2013. マングロープ域における護岸造成が魚類群集構成に与える影響. 沖縄生物学会誌. (51): 27-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68	0	0	0	0	0	0	0
立石剛一. 宮城直樹. 脇田浩寿. 2011. 沖縄県の離島・へき地における自然教育のための基礎資料の充実(4)本島水納の植物相と注目すべき植物. 琉球大学教育学部紀要. 78: 139-156	0	0	0	0	0	344	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
琉球新報. 2012. 桂葉付で死滅 瀬底島近海のコンサンゴ. 琉球新報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
琉球政府文化財保護委員会. 1960. 文化財要覧1960年版	0	0	0	0	0	337	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
琉球大学. 2006-2008. イリオモチャマメコ 生息状況等総合調査(第4次)報告書: 178	0	0	0	0	0	388	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
琉球大学. 2014. 西表・石垣沿岸の水深30~55mより発見された大規模な中深度サンゴ群集. プレス発表資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
琉球列島鳥類研究会. 琉球列島鳥類地区自然保護事務所. 2004. 平成15年度大東諸島環境情報収集調査報告書: 69p	51	120	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南角徳太. 南條紳士. 福岡雅史. 河野裕美. 2012. 西表島浦内川のマングロープ域に生息するキバウミナニ <i>Terebraia palustris</i> の産卵生態. 沖縄生物学会誌. (50): 17-30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
緑地研究会. 1974. 社寺林の研究. 森林: 222p	0	0	0	0	0	825	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
林公義. Randall J.E. 1989-1990. 西部太平洋産テングシグダイ科の1新種 <i>Apogon selas</i> . 魚類学雑誌. 36: 399-403	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
林公義. 1980-1981. 石垣島より得られた日本初記録のテングシグダイ科魚類3種. 魚類学雑誌. 27: 261-267	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0
林原毅. 1996. 阿嘉島の淡水域に生息する甲殻類と魚類. みどりいし. (7): 28-30	0	0	0	0	7	0	0	0	13	0	0	0	4	0	0	0	0
林野庁. 森林生態系多様性基礎調査	0	0	0	0	1,862	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
嶺井久勝. 1966. 琉球列島のオカカニ. 沖縄生物学会誌. 3(5): 8-10	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
鈴木 寿之. 潮能 宏. 1994. 西部太平洋産ハゼ科魚類の1新種ヒメサツキハゼ. 魚類学雑誌. 41(3): 281-286	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0
鈴木賢与. 鳥居恵親. 桑原崇. 寺田甲百合. 牛田博. 前湯光弘. 桜谷保之. 2011. 沖縄県八重山諸島で記録された鳥類. 近畿大学農学部紀要. 44: 151-161	0	135	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鈴木寿之. 潮能 宏. 吉野佑夫. 細川正高. 吉郷英純. 1995. 西表島で採集された日本初記録のエリトガハゼ(新種). I.O.P.DIVING NEWS. 6(2): 4-6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鈴木寿之. 潮能 宏. 世古徹. 2011. 沖縄島で採集された日本初記録のサトメハゼ(新種)(スズキ目ハゼ科). 神奈川県立博物館研究報告 自然科学. 40: 61-66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
鈴木寿之. 潮能 宏. 矢野維規. 米沢俊晴. 大迫尚晴. 2009. 琉球列島で採集された日本初記録のハゼ科魚類4種. 大阪市立自然史博物館研究報告. 63: 1-10	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
鈴木寿之. 大迫尚晴. 潮能 宏. 2008. 日本初記録のハゼ科魚類カブキハゼ(新種). 日本生物地理学会会報. 63: 81-86	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0
鈴木寿之. 2004. 西表島浦内川の魚類とその存続の危機. 理科通信サイエンスネット. 22: 8-11	0	0	0	0	15	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0
鈴木優子. 1999. 沖縄島南部地域におけるシロカシラ <i>Pycnonotus sinensis</i> の個体数と質量の季節変動. 九州病害虫研究会報. 45: 80-83	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脇田浩寿. 與座(仲本)優子. 末間和寛. 傳田哲郎. 立石剛一. 2005. 琉球列島のモダマダ. 分類. 5(1): 9-19	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
國島大河・西丸裕敏・立原一憲. 2014. 沖縄島佐敷干潟におけるスナゴハゼ <i>Pseudogobius javanicus</i> とマサゴハゼ <i>P. masago</i> の生息環境. 魚類学雑誌. 60: 59-68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
澤田勇. 1994. 日本のコウモリ洞観察. 自然誌研究雑誌. (2,3,4): 53-80	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
澤田勇. 2002. 日本産コウモリの寄生線虫類総論. 奈良産業大学『産業と経済』. 17(5): 81-85	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
澤城安喜. 2000. 直野湾市の植物相. 直野湾市教育委員会文化課(編).直野湾市史第9巻資料編8自然: 255-324	0	0	0	0	0	1,839	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
龍島恵介. 2011. 沖縄本島における <i>Ipomoea</i> 属 2 種の花に対するメジロの盗食行動. Bird Research. 7: S1-S4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
龍島恵介. 2012. 沖縄本島におけるメジロによるハイビスカス花への盗食被害の周年変化. Bird Research. 8: S5-S9	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
與那城盛次. 1980. オトヒメエビの繁殖生態. 沖縄生物学会誌. (18): 39-43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
琉平名里美. 当山昌高. 安川眞一郎. 陳陽隆. 高橋隆. 久貝勇盛. 1998. 宮古諸島における陸棲爬虫両生類の分布について. 平良市総合博物館紀要. (5): 23-38	0	0	131	283	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 生物文化に関する参考文献等

第2章－2で解析手法を示した生物文化について、情報源を表4－5－2に示す。合計205冊の字誌、市町村誌、専門書について調査を実施した。

表 4-5-2 (1). 生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年	生物文化記載有無	
1	石垣市	東の大將の化粧 石垣市立八重山博物館紀要 10	内原節子	1992	○	
2		荒川のカンヒザクラ保護増殖事業報告書 石垣市文化財調査報告書第11号	石垣市教育委員会	1990	○	
3		石垣市史 各論編 民俗 上	石垣市史編集委員会	1994	○	
4		石垣市史 各論編 民俗 下	石垣市史編集委員会	2007	○	
5		石垣島白保以北の旧村々				
6		石垣島白保における環境学習の実践・暮らしと文化の調査についての5年間のとりくみ(2011年度～2015年度)	盛口満	2016	○	
7		石垣島調査報告書(3)-地域研究シリーズ No.33-	石垣繁	2011		
8		石垣伸筋会三十五周年記念誌 ふんぬむとう	石垣伸筋会創立三十五周年記念誌編集委員会	2001		
9		石垣島古郷安良の原風景-その歴史と自然-	石垣市総務部市史編集室	1997	○	
10		石垣小学校 100年誌	石垣小学校創立百周年記念事業期成会	1982		
11		石垣村古謡集・第1集	石垣字会古謡編集委員会	1985		
12		伊原間小学校史概説	上里善孝	1991		
13		伊原間村逸話集	上里善孝	1990	○	
14		伊原間村誌	伊原間公民館	1993	○	
15		伊原間牧祝 石垣市立八重山博物館紀要 7	内原節子	1988	○	
16		大川公民館落成記念誌・むゆる	大川公民館建設期成会	1991		
17		大浜村誌	大浜村誌編集委員会	2001	○	
18		大浜村の郷土誌	上間貞俊・小底致市	1977	○	
19		大浜村民俗誌	大浜老人クラブ長寿会	1976	○	
20		大浜の古謡集(ジラバ・ユンタ)	大浜古謡同好会	1976		
21		沖縄民俗 23号 八重山石垣市宮良・中城村伊集報告	琉球大学民俗研究クラブ	1977	○	
22		川平村郷土誌	川平部落会	1950		
23		川平村出身の仲間満慶山一族たち-嘉善姓一門と憲章姓一門の人びと	大浜永亘	2001		
24		川平村の歴史	川平村の歴史編纂委員会	1976	○	
25		[川平部落会]郷土史[マイクロフィルム複製本]	川平部落会	1950		
26		サンゴ礁の渚を遊ぶ-石垣島川平湾-	西平守孝	1988		
27		白保(中村征夫写真集)	中村征夫	1990		
28		白保村史	白保村史調査編集委員会	2009	○	
29		白保村風土記-逸事・逸話の史実-	崎原久	1994	○	
30		白保村歴史と民俗	白保中学校郷土歴史クラブ	1978		
31		白保村歴史と民俗-第2集-	白保中学校郷土歴史クラブ	1979	○	
32		白保-八重山白保村落調査報告-(琉球大学社会人類学研究会)	琉球大学社会人類学研究会	1977	○	
33		白保-歴史・民俗散策-白保とその関連地域-	崎原恒新	1999	○	
34		[大浜アカハチ会]設立50周年記念誌	記念事業実行委員会・編集委員会	1999		
35		[大浜アカハチ会]設立40周年記念誌	[大浜アカハチ会]記念事業実行委員会・記念誌部会	2008	○	
36		(大浜老人クラブ長寿会)創立50周年記念誌	記念誌編集委員会	2001	○	
37		高宮良の由来	前花 哲雄	2002		
38		田んぼの恵み 八重山のくらし	安溪遊地・盛口満	2010	○	
39		登野城村古謡集(第1集)	石垣繁	1992	○	
40		登野城村の歴史と民俗	牧野清	1975	○	

表 4-5-2 (2). 生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年	生物文化記載有無	
41	石垣市	野底想い出写真集「道」-50年の歩み-ありし日の記憶	与那原マサ工、前盛ちか子、志喜屋和子、中村学、志喜屋安正	2004		
42		平得公民館建設記念誌	平得公民館建設記念誌編集委員会	1986		
43		ふる里の土-石垣島の農民史的自伝	宮良高司・宮良高弘	1985		
44		牧畜人生八十八年白保に生きる	宮良松米寿記念誌編集委員会	1990	○	
45		真栄里公民館の歩み	真栄里公民館編集委員/山田善照・細工忠郎・仲山忠亨	1984		
46		(新栄町自治会) みちしるべ-創立 10 周年記念誌	記念誌編集委員会	1988		
47		宮良郷友会結成 30 周年記念誌-メーラの心を心として歩んだ 30 年の記録 新たな出発に向けて-	宮良郷友会	1997		
48		宮良村誌	宮良村誌編集委員会	1986	○	
49		村むら探訪-新川村の移り変わり(石垣市史巡見 vol.7)	石垣市総務部市史編集室	2002		
50		村むら探訪-安良の歴史・生活・自然-(石垣市史巡見 Vol.5)	石垣市総務部市史編集室	1997		
51		村むら探訪-伊原間の歴史・史跡・地名・生活-(石垣市史巡見 Vol.2)	石垣市総務部市史編集室	1994		
52		村むら探訪-野底の歴史・史跡・地名・生活-(石垣市史巡見 Vol.1)	石垣市総務部市史編集室	1993		
53		村むら探訪-平得村・真栄里村の移り変わり-	石垣市総務部市史編集室	2004		
54		村むら探訪-平久保村の移り変わり(石垣市史巡見 vol.6)	石垣市総務部市史編集室	1993		
55		村むら探訪-梶海の歴史・地名・生活・自然-(石垣市史巡見 Vol.4)	石垣市総務部市史編集室	1999		
56		宮良村古謡誌	宮良村古謡保存会	1979	○	
57		八重山石垣市宮良部落報告 沖縄民俗 23 琉球大学	琉球大学民俗研究クラブ	1977		
58		八重山小話-その自然と言語習俗-	瀬名波長宣	1973	○	
59		八重山生活誌	宮城文	1972	○	
60		八重山文化 創刊号 ブザとユカラ人を考える	東京・八重山文化研究会	1975	○	
61		八重山文化 7 明治時代の八重山女性の労働と生活	宮城文・三木健	1979	○	
62		躍雙鯉(やくそうり) 石垣仲筋会創立五〇周年記念誌	石垣市仲筋会創立 五〇周年記念誌編集委員会	2016		
63		竹富町	新井潔米寿記念 竹富島坡座間村の狂言	与那国秩・高嶺方祐・石垣久雄・古堅博・与那国勝・新井敏弘	2000	
64			新城島(パナリ)	安里武信	1976	○
65			新城下地島の節祭ジラバ集	野底宗吉	1988	○
66			石垣竹富郷友会史-創立 30 周年記念-	30 周年記念史編集委員会	1976	
67			石垣竹富郷友会創立 50 周年記念誌 たきどろん	創立 50 周年記念誌編集委員会	1997	
68			石千見-最古の漁法-	田和正孝	2007	
69			伊波普猷氏還暦記念出版『南島論叢』	伊波普猷先生記念論文集編集委員	1970	○
70			西表島総合調査報告書-自然・考古・歴史・民俗・美術工芸-	沖縄県立博物館	2001	○
71			西表島祖納・星立の節祭の芸能	西表民俗芸能保存会	1979	○
72			西表島に生きる-おばあちゃんの自然生活誌-	山田雪子述、安溪遊地・安溪貴子	1992	
73	西表島の村落と方言		星勲	1982		
74	西表島の伝説		那根亨	1974		
75	西表島の農耕文化 海上の道の発見		安溪遊地	2007	○	
76	西表島のマラリア撲滅史		那根亨	1979		
77	西表島の民俗		星勲	1981	○	
78	西表島のむかし話		星勲	1980	○	
79	西表炭坑覚書		佐藤金市	1980		
80	西表炭坑概史		三木健	1976		

表 4-5-2 (3). 生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年	生物文化記載有無
81	竹富町	西表炭坑史料集成	三木健	1985	
82		西表炭坑夫物語	三木健	1990	
83		西表方言集	前大用安	2002	
84		うつぐみの心 竹富島	大塚勝久	1992	
85		うぶたき 竹富町立小浜小学校創立百周年記念誌	竹富町立小浜小学校記念誌委員会	1997	○
86		大浜村誌	大浜村誌編集委員会	2001	○
87		沖縄新城島民俗誌 「バナリ」その光と影	植松明石	2017	○
88		沖縄・西表炭坑史(三木健 1996)	三木健	1996	
89		沖縄県天然記念物調査シリーズ第 46 集 キシノウエトカゲ生息実態調査報告書	沖縄県教育庁文化財課	2013	○
90		沖縄県,八重山地方における植物の命名,分類,利用—比較民族植物学的考察 リトルワールド研究報告 7	山田孝子	1984	○
91		沖縄県,八重山地方における生態と世界観に関する文化人類学的研究	山田孝子	2005	○
92		沖縄の植物と民俗 玉置和夫遺稿集	玉置和夫	1979	○
93		おきなわのふるさと竹富島	上勢頭亨・山城善三	1972	○
94		琉球の方言 10 (法政大学沖縄文化研究所)	加加工眞市	1986	○
95		[沖縄本島在黑島郷友会]創立 40 周年記念誌	沖縄本島在黑島郷友会	1999	
96		螻蛄の斧—竹富島の真髓を求めて—	崎山毅	1972	○
97		聞書 西表炭坑(三木健 1982)	三木健	1982	
98		記録されなかったムラの記憶—西表島旧稲葉集落の聞き書き	松村正治	2010	○
99		黒島誌	運道武三	1988	○
100		黒島史 琉球学集説 新聞切抜 50	知念政範	1970	
101	黒島民謡工四	玉代勢泰興	1979		
102	黒島民謡集	黒島民俗芸能保存会	1968		
103	芸能の原風景—沖縄県竹富島の種子取祭台本集	全国竹富島文化協会	1998		
104	子乞い—八重山・鳩間島生活誌—	森口豁	1985		
105	子供博物館教室夏期講座「民具づくり」クジィ(トウヅルモドキ)のかご 石垣市立八重山博物館紀要 5	内原節子	1986	○	
106	小浜島誌 心のふるさと	山城浩	1972	○	
107	小浜島総合調査報告書	沖縄県立博物館	2004	○	
108	小浜島の歴史と文化	黒島精耕	2000		
109	小浜島民謡集—小学校 80 周年中学校 25 周年創立記念—	小浜島民謡編集委員会	1975		
110	崎山節のふるさと—西表島の歌と昔話—	川平永美述、安溪遊地・安溪貴子	1990	○	
111	シマ—琉球大学民俗学実習調査報告書-第 6 号	琉球大学法文学部人間科学科民俗学研究室	2004	○	
112	島分け—沖縄鳩間島哀史(「復帰願望」:昭和の中のオキナワ:森口豁ドキュメンタリー作品集)	森口豁	1983		
113	写真集・西表炭坑	三木健	1986		
114	昭和の竹富	大山正夫	1985		
115	昭和の竹富 続	大山正夫	1991		
116	増補改訂・西表炭坑概史	三木健	1979		
117	創立 50 周年記念誌 竹富	沖縄竹富郷友会創立 50 周年記念期成会記念誌部会	2000		
118	創立 30 周年記念誌—在沖黒島郷友ときわ会—	在沖黒島郷友ときわ会編集部	2002	○	
119	創立百周年記念誌 西の子	竹富町立西表小学校記念誌編集委員	1991		
120	高い島と低い島の交流—大正期八重山の稲束と灰の物々交換 民族学研究 53-1	安溪遊地	1988	○	

表 4-5-2 (4). 生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年	生物文化記載有無
121	竹富町	竹富島いまむかし	辻弘	1985	○
122		竹富島誌	上勢頭亨・山城善三	1971	○
123		竹富島誌-歌謡・芸能篇	上勢頭亨	1979	○
124		竹富島誌-民話・民俗篇	上勢頭亨	1976	○
125		竹富島種子取祭国立劇場公演記念誌	竹富島民俗芸能保存会・山城善三・上勢頭亨	1977	○
126		竹富島仲筋村の芸能	玉城憲文	1976	
127		竹富島の集落と民家-景観保全と観光活動に関する報告	九州工科大学環境研究室・都市環境研究室	2000	○
128		竹富島の種子取祭(上)※下なし	竹富島民俗芸能保存会	1975	
129		竹富島の土俗	大真太郎	1974	○
130		竹富町古謡集・第1集	竹富町古謡編集委員会	1981	○
131		竹富町古謡集・第2集	竹富町古謡編集委員会	1997	○
132		竹富町古謡集・第3集	竹富町古謡編集委員会	2000	○
133		竹富町古謡集・第4集	竹富町古謡編集委員会	2002	○
134		竹富町古謡集・第5集	竹富町古謡編集委員会	2005	○
135		竹富町史 第2巻 竹富島	竹富町史編纂委員会	2011	○
136		竹富町史 第3巻 小浜島	竹富町史編纂委員会	2011	○
137		竹富町史 第5巻 新城島	竹富町史編纂委員会	2013	○
138		竹富町史 第6巻 鳩間島	竹富町史編纂委員会	2015	○
139		竹富島の歴史と民俗	亀井秀一	1990	○
140		なごみ [石垣竹富郷友会西会]創立40周年記念誌	石垣竹富郷友会西会	2007	
141		南島流転-西表炭坑の生活-	佐藤金市・三木健	1983	
142		波照間島	加屋本正一	1977	○
143		波照間島-1970年夏沖縄八重山郡-(立命館大学探検部)	立命館大学探検部	1971	
144		波照間島総合調査報告書-自然・歴史・民俗・考古・美術工芸-	沖縄県立博物館	1998	○
145		波照間島調査報告書-地域研究シリーズ No.3-	沖縄国際大学南島文化研究所	1982	
146		波照間島のムシャーマ-南国の豊年祈願と祖先供養の祭典-	ムシャーマ編集委員会	1982	
147	波照間島民俗誌	宮良高弘	1972	○	
148	波照間の方言-琉球方言緊急調査第2集-	沖縄県教育委員会	1975		
149	波濤を越えて 鳩間小学校創立百周年記念誌	鳩間小学校創立百年記念誌編集委員会	1997	○	
150	鳩間島・新城島・黒島総合調査報告書 2016	沖縄県立博物館・美術館 博物館班	2016	○	
151	鳩間島誌-沖縄在鳩間郷友会十五周年記念誌	沖縄在鳩間郷友会	1983	○	
152	鳩間島追想	小濱光次郎	1996		
153	鳩間島における民族植物学的研究 人類の自然誌	山田孝子	1977	○	
154	星砂の島第8号 カタツムリの食べ方-竹富島の事例から-	石垣久雄	2005	○	
155	南琉球新城島の方言	國學院大學日本文化研究所	1992		
156	民衆史を掘る-西表炭坑紀行	三木健	1983	○	
157	もうひとつの沖縄戦-マラリア地獄の波照間島	石原ゼミナール・戦争体験記録研究会	1983	○	
158	八重山群島西表島廃村鹿川の生活 復原 人類の自然誌	安溪遊地	1977		
159	民衆史を掘る-西表炭坑紀行	三木健	1983	○	
160	八重山郡竹富町 鳩間島の民話 沖縄国際大学文学部国文学科平成9年度卒業論文	加治工尚子	1998		

表 4-5-2 (5). 生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年月	生物文化記載有無
161	竹富町	八重山群島の伝統的生業に関する生態人類学的研究	伊谷純一郎	1981	○
162		八重山鳩間島民俗誌	大城公男	2011	○
163		八重山民俗誌 下巻 民俗・由来記・雑篇	喜舎場永珣	1977	○
164		竹富島・小浜島の昔話	狩俣恵一・福田晃・真下厚・仲盛長秀・花城正美	1984	
165		与那国農民の生活－西表島との対比から－	安溪遊地	1984	○
166		琉球竹富島の方言	國學院大學日本文化研究所	1990	
167		わが故郷アントゥリ－西表・網取村の民俗と古謡－	山田武男著、安溪遊地・安溪貴子	1986	○
168	与那国町	うたいづく記憶 与那国・石垣島のくらし	安溪遊地・盛口満	2011	○
169		沖縄県立博物館総合調査報告書VI－与那国島－	沖縄県立博物館	1989	
170		南島の稲作文化－与那国島を中心に－	渡部忠世・生田滋	1984	○
171		民俗文化の現在－沖縄与那国島の民俗へのまなざし	原知章	2002	
172		八重山、与那国島調査報告書(2)－地域研究シリーズ No.35－	沖縄国際大学南島文化研究所	2008	
173		与那国ことば辞典	池間苗	1998	○
174		与那国島誌	池間栄三・新里和盛	1957	○
175		与那国－島の人類生態学	吉川博也	1984	○
176		与那国島図誌	本山桂川	1925	○
177		与那国島の祭事の芸能	与那国町教育委員会	1988	○
178		与那国島の植物	与那国町教育委員会	1995	○
179		与那国島の童謡・子守唄	福里武市	1978	
180		与那国島の民謡とくらし	宮良保全	2007	○
181		与那国の民話	池間龍一	1978	
182		与那国島の民話集	与那国町文化財調査委員会	1978	
183		与那国島の昔話 南島昔話叢書 10	岩瀬博・松浪久子・富里康子・長浜洋子	1983	○
184		与那国島の無形文化財	与那国町文化財調査委員会	1978	○
185		与那国島 人とくらし	新村政二	1994	○
186		与那国町老人クラブ連合会創立 25 周年記念誌	与那国町老人クラブ連合会	1991	○
187		与那国の文化－沖縄最西端与那国島における伝統文化と外来文化：周辺諸文化との比較研究	植松明石・渡邊欣雄	1980	
188		与那国の歴史	池間栄三	1972 (1957 初版)	○
189		与那国物語	宮城政八郎	1993	
190		よみがえるドゥナン 写真が語る与那国の歴史	米城恵	2015	
191	琉球与那国方言の研究	平山輝男・中本正智	1964		
192	複数の市町村に係わるもの	八重山民俗誌 上巻・民俗篇	喜舎場永珣	1977	○
193		沖縄民俗薬用動植物誌	前田光康・野瀬弘美	1989	○
194		沖縄県史研究叢書 18 沖縄の民俗資料(下)	沖縄県教育庁文化財課史料編集班	2018	○
195		海原の里人たち	下嶋哲朗	1982	○
196		沖縄の伝統染織	富山弘基・大野力	1971	○
197		八重山ことわざ事典	宮城信勇	2008	○
198		石垣市史研究資料 4 八重山の動植物：その来歴・方言名など	石垣市総務部市史編集課	2005	○
199		八重山、竹富町調査報告書(3)－地域研究シリーズ No.29－	沖縄国際大学南島文化研究所	2001	
200		八重山、竹富町調査報告書(4)－地域研究シリーズ No.30－	沖縄国際大学南島文化研究所	2002	

表 4-5-2 (6). 生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年月	生物文化記載有無
201	複数の市町村に係わるもの	八重山、与那国島調査報告書(1)-地域研究シリーズ No.34-	沖縄国際大学南島文化研究所	2007	
202		八重山語彙	宮良當壮	1966	
203		琉球の方言 11・12 八重山・与那国島(法政大学沖縄文化研究所)	法政大学沖縄文化研究所	1987	
204		近世八重山の民衆生活史	得能寿美	2007	
205		南島史学 第 6 号～第 10 号	南島史学会	1975～1977	

(4) 自然環境の利活用に関する参考文献等

第2章－3で解析手法を示した自然環境の利活用における使用データと参考文献を示す。

1. 林秀美, 2010, 改訂版 沖縄県の山, 株式会社山と溪谷社
2. 沖縄県観光企画課, 2010, 平成 21 年度 持続可能な観光地づくり支援事業 (調査研究) 実施報告書
3. 沖縄県公式ホームページ, 県知事認定保全利用協定について
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html>
4. 財団法人沖縄観光コンベンションビューロー, 2010, 美ら島－沖縄県観光情報ファイル－, 財団法人沖縄観光コンベンションビューロー

(5) 自然環境及び社会環境に関する参考文献等

第2章－4で解析手法を示した自然環境及び社会環境における使用データと参考文献を示す。

・生物多様性の情報

1. 沖縄県環境利用ガイド, 1992
2. 環境省, 2008, サンゴ礁分布図システム
3. 沖縄県環境部自然保護課, 2010, 平成21年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書
4. 沖縄県環境部自然保護課, 2011, 平成22年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書
5. 沖縄県環境部自然保護課, 2012, 平成23年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書
6. 富山義則, 2014, 沖縄ビーチ大全 505
7. 沖縄県教育委員会, 2001, ウミガメ類生息実態調査報告書Ⅲ
8. 沖縄県環境部環境保全課, 2017, 平成28年度赤土流出防止海域モニタリング調査委託業務報告書
9. 沖縄県環境部自然保護課, 2018, 平成29年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書
10. 沖縄県環境部自然保護課, 2019, 平成30年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書
11. 沖縄県環境部自然保護課, 2020, 平成31年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

・その他の情報

1. 環境省, 2015, 日本のラムサール条約湿地
2. 国土交通省国土政策局国土情報課, 2007, 国土数値情報 河川データ
3. 国土地理院, 2014, 基盤地図情報(数値標高モデル) 10mメッシュDEM
4. 環境省自然環境局生物多様性センター, 1993, 1/50,000現存植生図
5. 国土交通省国土政策局国土情報課, 2005, 国土数値情報 湖沼データ

(6) 環境カルテに関する参考文献等

第3章で示した環境カルテにおける使用データと参考文献を示す。

なお、番号は、環境カルテの様式（第3章—2）の項目番号と対応している。

・陸域カルテ項目

1-6 市町村名

総務省統計局,平成27年度国勢調査町丁・字等別境界データ

1-7 町丁・字等

総務省統計局,平成27年度国勢調査町丁・字等別境界データ

2-1 地形・地質

2-1-1 地形分類、表層土壌、表層地質

沖縄県企画部土地対策課,1983～1992,土地分類基本調査

2-1-2 特異な地形・地質

沖縄県,1992,沖縄県環境利用ガイド（環境特性地図集）

2-2 植物

2-2-1 現存植生

環境省自然環境局生物多様性センター,2000～2005（一部2006～）,自然環境保全基礎調査（第6回・第7回植生調査）

2-2-2 特定植物群落

環境省自然環境局生物多様性センター,1979、1985～1987、1998～1999,自然環境保全基礎調査（第2～3回・第5回植生調査）

2-2-3 マングローブ林

沖縄県環境部環境再生課,2015,自然環境再生指針（仮称）策定事業委託業務統合報告書（平成24～26年度）

4-1 観光拠点

沖縄県観光商工部観光企画課,2010,平成21年度持続可能な観光地づくり支援事業（調査研究）実施報告書

4-2 保全利用協定

沖縄県公式ホームページ, 県知事認定保全利用協定について

<https://www.pref.okinawa.jp/site/kanky/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html>

5-1 法規制等

5-1-1 法規制等

沖縄県企画部土地対策課,2019,土地利用規制現況図

国土交通省国土政策局国土情報課,2015,国土数値情報 鳥獣保護区データ

5-2 土地利用

5-2-1 土地利用の現況

沖縄県企画部土地対策課,2000～2017,土地利用現況図

5-2-2 農業振興地域

沖縄県企画部土地対策課,2019,土地利用規制現況図

5-2-3 米軍基地

沖縄県環境部環境政策課,2017,米軍基地データ

5-3 河川

5-3-1 河川の分布

国土交通省国土政策局国土情報課,2008,国土数値情報 河川データ

5-3-2 河床勾配と溪流環境

国土交通省国土政策局国土情報課,2008,国土数値情報 河川データ

国土交通省国土政策局国土情報課,2006,国土数値情報 湖沼データ

国土地理院,2014,基盤地図情報（数値標高モデル）10m メッシュ DEM

5-3-3 ダム湖、湖沼

国土交通省国土政策局国土情報課,2015,国土数値情報 ダムデータ

・海域カルテ項目

1-4 総務省統計局,平成 27 年度国勢調査町丁・字等別境界データ

2-1 地形・地質・海岸線

2-1-1 海底地質分類

環境省,2008,サンゴ礁分布図システム

2-2 藻場・干潟・サンゴ礁

2-2-1 生サンゴの被度（礁原）

環境省自然環境局生物多様性センター,1990～1993,自然環境保全基礎調査（第4回サンゴ礁調査）

2-2-2 生サンゴの被度（礁縁）

沖縄県環境部自然保護課,2010,平成 21 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県環境部自然保護課,2011,平成 22 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県環境部自然保護課,2012,平成 23 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

2-2-3 藻場、干潟

環境省自然環境局生物多様性センター,1998~2002,自然環境保全基礎調査(第5回藻場調査)

環境省自然環境局生物多様性センター,1990~1993,自然環境保全基礎調査(第4回干潟調査)

2-2-4 重要なサンゴ礁海域

沖縄県自然保護課,2006,沖縄のサンゴ礁－沖縄県の重要なサンゴ礁海域－

2-4-2 ウミガメ産卵地

富山義則,2014,沖縄ビーチ大全 505

沖縄県教育委員会,2001,沖縄県天然記念物調査シリーズ第40集 ウミガメ類生息実態調査報告書Ⅲ－八重山諸島における調査結果－

2-5 SPSS

沖縄県環境部自然保護課,2010,平成 21 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県環境部自然保護課,2011,平成 22 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県環境部自然保護課,2012,平成 23 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県,2017,平成 28 年度赤土等流出防止海域モニタリング調査委託業務報告書

沖縄県,2018,平成 29 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

沖縄県,2019,平成 30 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

沖縄県,2020,平成 31 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

4-1 観光拠点

沖縄県観光商工部観光企画課,2010,平成 21 年度持続可能な観光地づくり支援事業(調査研究)実施報告書

財団法人沖縄観光コンベンションビューロー,2010,美ら島－沖縄県観光情報ファイル－

4-2 保全利用協定

沖縄県公式ホームページ, 県知事認定保全利用協定について

<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html>

5-1 法規制等

5-1-1 法規制等

沖縄県企画部土地対策課,2019,土地利用規制現況図

国土交通省国土政策局国土情報課,2015,国土数値情報 鳥獣保護区データ

5-1-2 海岸保全区域

沖縄県企画部土地対策課,2019,土地利用規制現況図

5-2 海域利用

沖縄県農林水産部水産課、2018、平成 30 年 9 月更新 漁業権区域図 (GIS データ)

沖縄県農林水産部水産課、2018、漁業権について (漁業権の説明及び免許の状況)

5-3 河川

国土交通省国土政策局国土情報課,2008,国土数値情報 河川データ

(7) 用語集に関する参考文献等

第4章－4に示した用語集について、参考文献及び参考ウェブサイトを下記に示す。

- [1] “環境用語集” EIC ネット。
<<http://www.eic.or.jp/>>
- [2] “国際保健用語集” 一般社団法人日本国際保健医療学会。
<<https://seesaawiki.jp/w/jaih/>>
- [3] “天文学辞典” 公益社団法人日本天文学会。
<<http://astro-dic.jp/>>
- [4] “沖縄 21 世紀ビジョン” 沖縄県。
<<https://www.pref.okinawa.jp/21vision/index.html>>
- [5] “自然環境の保全に関する指針のあらまし” 沖縄県。
<https://www.pref.okinawa.jp/okinawa_kankyo/shizen_hogo/hozen_chiiki/shishin/shishin_aramashi/aramashi_ichizuke.html>
- [6] “改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-菌類編・植物編-” 沖縄県。
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/okinawa_rdb_kinrui_syokubutu.html>
- [7] 平成 23 年度サンゴ礁資源情報整備事業サンゴ礁資源調査事業「沖縄島周辺離島地域」「宮古地域」「大東地域」「波照間島地域」報告書。平成 24 年。沖縄県。
- [8] 鷺谷いづみ、後藤章（2018）。新版 絵でわかる生態系のしくみ。講談社。
- [9] “河床勾配” 国土交通省国土技術政策総合研究所。
<<http://www.nilim.go.jp/>>
- [10] “国内に生息・生育する希少種の指定” 環境省。
<<https://www.env.go.jp/nature/kisho/domestic/index.html>>
- [11] “外来生物法用語集” 環境省自然環境局。
<<http://www.env.go.jp/nature/intro/1law/yougo.html>>
- [12] “侵略的な外来種” 環境省自然環境局。
<<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html>>
- [13] 久保田康裕、楠本間太郎、藤沼潤一、塩野貴之（2017）。生物多様性の保全科学：システム化保全計画の概念と手法の概要。日本生態学会誌
- [14] “ジオコーディングとは” esri。
<<https://pro.arcgis.com/ja/pro-app/help/data/geocoding/what-is-geocoding-.htm>>
- [15] “自然の恵みの価値を計る” 環境省自然環境局。
<<https://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/valuation/service.html>>

- [16] “「生物多様性おきなわ戦略」について” 沖縄県.
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/bd_okinawa_senryaku.html>
- [17] “「生物多様性条約」” WWF ジャパン.
<<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3516.html>>
- [18] “「生物文化多様性とは」” 第 1 回アジア生物文化多様性国際会議.
<<http://bcd2016.jp/bcd/index.html>>
- [19] “「日射観測」” 気象庁高層気象台.
<https://www.jma-net.go.jp/kousou/obs_third_div/rad/rad_sol.html>
- [20] “沖縄県の天然記念物” 琉球大学博物館風樹館.
<http://fujukan.lib.u-ryukyu.ac.jp/db_gallery/natural.php>
- [21] “平成 24 年版情報通信白書” 総務省.
<<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h24/html/nc121410.html>>
- [22] “県知事認定保全利用協定について” 沖縄県.
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html>
- [23] “モニタリングサイト 1000 とは” 環境省生物多様性センター.
<<http://www.biodic.go.jp/moni1000/moni1000/>>
- [24] “レッドリスト” 環境省.
<<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html>>
- [25] “魚類の学名と和名” 国立科学博物館.
<<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html>>
- [26] “Bioclimatic variables” WorldClim – Global Climate Data.
<<http://www.worldclim.org/bioclim>>
- [27] “生物情報収集・提供システム いきものログ” 環境省生物多様性センター.
<<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html>>
- [28] “GIS とは…” 国土地理院.
<<http://www.gsi.go.jp/GIS/whatisgis.html>>
- [29] 大見謝辰男 (2003). SPSS 簡易測定法とその解説. 沖縄県衛生環境研究所報
- [30] “2 次メッシュとは” 環境省生物多様性センター.
<<http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-042.html>>

生物多様性保全利用指針 OKINAWA

[八重山編]

[編集・発行] 沖縄県環境部自然保護課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2
TEL : 098-866-2243